



平成29年度
男女共同参画推進のための
学び・キャリア形成支援事業
事業報告書

文部科学省生涯学習政策局委託事業

国立大学法人徳島大学

徳島大学男女共同参画推進実行委員会

四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会

目次

徳島大学長挨拶	1
徳島大学 理事・副学長 男女共同参画推進室長挨拶	2
副理事・AWA サポートセンター長挨拶	2
事業説明	3
徳島大学における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関するアンケート調査結果	5
事業1 「女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備と キャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査」	
徳島大学男女共同参画推進実行委員会	13
女性の学び講座Ⅰ 女性のキャリア形成におけるメンタリング ～メンタリング効果とスキルを知る～	17
女性の学び講座Ⅱ メディカルサイエンス系英文の読解／ライティング	21
四国発信！男女の働き方改革 Part 1 女性の学び講座Ⅲ－仕事と生活の両立－	25
四国発信！男女の働き方改革 Part 2 男性育児推進セミナー	30
女性の学び講座Ⅳ データ解析セミナー ～臨床研究を紐解く統計学～	37
女性の学び講座Ⅴ 女性リーダー研修 ～指導力向上編～	41
女性の学び講座Ⅵ メディカル系英文ライティング	45
長期休暇時の幼児・学童保育の開設 徳島大学 AWA サポートセンター冬休み Kids Club	49
研修等参加に係る一時預り保育	54
女性の学び講座Ⅰ～Ⅵ 研修等参加に係る一時預り保育	54
総合評価	58

目次

事業2 「女性の学び支援のための研究協議会の開催」

四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会	61
女性の学び支援のための研究協議会	63
女性研究者座談会	74
女性研究者研究交流発表会	75
ロールモデル講演会	76
まとめ	82





本学は、地域に根ざした大学として、特色ある世界水準の教育研究を推進するとともに、地域の発展の基盤となる人材の育成、文化芸術、産業、医療等の振興、充実への貢献に努めています。また、これらの取組をさらに充実、発展させるためには、女性の活躍が不可欠であるとの認識のもと、四国の5国立大学法人は、2011年2月に、5大学長による男女共同参画推進に向けて共同宣言しました。2014年には文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」（連携型）に採択され、「四国5大学連携による女性研究者活躍推進コンソーシアム形成事業」を実施しました。



この事業は、女性研究者の研究力の向上、上位職への登用を達成目標として、四国5大学が連携し、また関係各位のご指導、ご支援、ご協力により様々な事業を展開して2016年（H28）度に終了しました。

2017年（H29）度以降も女性研究者の活躍を推進するため、四国5国立大学長は、「四国5国立大学における男女共同参画推進に係る事業の共同実施に関する協定書」に調印しました。これにより、徳島大学を代表機関とした「四国5大学男女共同参画推進連絡協議会」で連携事業を継続して、男女共同参画に係る連携事業を発展的に取り組んできました。

このたび、これまでの取り組みを活かして応募した文部科学省生涯学習政策局委託事業の平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」に選定され、四国5国立大学及び行政・企業との連携のもと、事業（1）「女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成の一体的な取組推進に係る実証的な調査」では、「地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証」に取り組み、事業（2）「女性の学び支援のための研究協議会の開催」では、「四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト」として取り組みました。

それぞれの成果の詳細につきましては、この報告書をご覧ください。

1年間は瞬く間に過ぎてしまいましたが、本事業に関わっていただいた多くの皆様に、心より感謝申し上げます。今後ご協力をいただきました関係機関との連携により、これまで以上に女性の多様な視点や発想を取り入れ、学びを通じた女性の活躍推進に向けた環境を整備し、継続して男女共同参画社会の実現に取り組んでいきたいと考えておりますので、ご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

徳島大学 理事・副学長 男女共同参画推進室長 **根本 幸枝**

四国地域は、人口減少率、高齢化率ともに全国に先んじており、地域別将来推計人口（2010年を基準）によると、2040年には四国4県で約26%の人口が減少し高齢化率は39%に達するとされています。地域が持続的に発展していくためには男女がともに子育てや介護をしながら、「安心して、学び、働く」ことができる男女共同参画社会の実現が喫緊の課題となっています。

このため、徳島大学は、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学とともに「四国男女共同参画推進連絡協議会」を設置し、高等教育機関における女性研究者の研究力や採用・在職・上位職比率の向上等に努めてきました。

平成29年度は、国立5大学に加え徳島県男女参画・人権課、県立男女共同参画交流センター、県立工業技術センター、大塚製薬株式会社等と連携して、文部科学省委託事業「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」に応募し、「地方における女性のキャリア形成と保育環境整備に関する実証的検証」及びその成果を広く周知・普及するための「四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会」を受託しました。

今年度は、主に女性研究者を中心とした実証的検証を行いました。今後はここから得られる様々な成果や課題を踏まえ、地域社会全体での取り組みに発展させることが重要と考えています。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



徳島大学副理事・AWAサポートセンター長 **葉久 真理**

AWAサポートセンターでは、文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、「2つの事業」を展開させていただきました。本事業では、四国5国立大学並びに徳島県立工業技術センター、徳島県県民環境部男女参画・人権課、徳島県立男女共同参画交流センター、大塚製薬株式会社との連携により取り組んで参りました。これら事業は、主に女性研究者を対象としていましたが、女性のキャリア形成・発達の上で重要な学びへの参加に際して課題であると認識している要因は、男性にも共通するものであり、共に課題を解決していく必要があります。「女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査」では、男性を子育て環境の1つと捉え、男性（パートナー・父親・夫・祖父・上司など）が仕事と生活の調和を図るという意識を持って子育てに取り組むための男性育児推進セミナー（男性バージョン：仕事と育児・生活の両立）を開催いたしました。妻と共に家事・育児をすることが当たり前という意識の醸成の第1歩になったと感じています。

また、「女性の学び支援のための研究協議会」は、「四国地域の活性化を促進する女性のリカレント教育」—女性の限らない力で社会を変える—と題し、地方における『キャリア形成／発展・再就職支援を一体的に行う仕組みづくり』の提示に繋げることを目的として開催いたしました。女性がリカレント教育を活用して復職・再就職・キャリア発展に繋げるための、リカレント教育のあるべき姿を議論し、四国地域の特性を活かした連携・協働体制の構築についての方向性を今後も協議していくことといたしました。調和のある豊かな社会に向かって女性の限らない力が発揮できるよう、大学・地域／行政・企業等の連携による取り組みを検証していきます。引き続き、皆様のお知恵とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



事業説明

女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成の一体的な取組推進に係る実証的な調査

主旨・目的

題名【地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証】

- ▶ 男女共同参画社会の実現を目指し、男女がともに子育てをしながら、「安心して、学び、働く」ことができる環境整備を一体的に推進する。
- ▶ 女性のキャリア形成支援を推進するための「女性の学び講座」の開催や、その際の一時預かり保育など教職員等参加者のニーズに応じた保育環境の在り方について検証する。
- ▶ 女性の社会進出を促進するためには、家庭特に男性(父親、祖父等)の意識と育児参加が重要であることから、意識改革や参加促進に向けた取組などを試行的に実施する。
- ▶ 成果と課題やプロセスを活かし、地域において、女性が学びや仕事と育児の両立ができる保育環境整備とキャリア形成支援となる有効なモデル事業の推進を目指す。

実施体制

○実行委員会の設置

「徳島大学男女共同参画推進実行委員会」を設置し、事業の企画を行い、試行的に実施し、成果、課題の検証を行う。

○徳島大学の事業推進実施体制

学長のリーダーシップのもと、担当理事を室長とした男女共同参画推進室にて協議し、事業実施母体であるAWAサポートセンターにおいて、センター長を中心に事業を展開する。

期待できる成果・効果

- 女性の研究力の向上、復職、再就職、離職防止の推進。
- 育児中の女性が学びや就業継続・復職等が容易となる保育環境の整備。
- 男性の意識変革や家事・育児への参画を推進し、出産・育児等による女性のM字曲線解消・緩和。

事業概要

○対象機関：四国5国立大学、地方公共団体、企業等

- (1)女性のキャリア形成支援に関する「女性の学び講座」の開催(年5回開催予定)
研究力向上を目的とした講座およびキャリア形成支援を目的とした女性研究者等のロールモデルによる講座や女性リーダー育成講座等を開催。保育環境整備の中での学びの効果(心理的影響含む)についても検証する。
- (2)一時預かり保育及び長期休暇時の幼児・学童保育の開設(年12回開催予定)
学びを深めるための保育環境の在り方を、学ぶ者と育つ者(子ども)の相互関係の中で検証する。
- (3)男性育児推進セミナーの開催(年1回開催予定)
子どものいる生活のイメージと現実との乖離を縮小しサポート理論に基づく、相互サポートの在り方等を学ぶ講座を開催。家庭から社会全体に広がる男女共同参画のあるべき姿を検証する。

女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成の一体的な取組推進に係る実証的な調査

取組内容

題名：地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証

男女共同参画の視点から、社会全体で「地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備」を推進するため、下記の事業を試行的に実施する。これらの取組みの有効性の検証と課題を抽出し、『女性が子育てをしながら学びやすい環境整備と学びから社会参画へつなげるキャリア形成支援モデル』の提示に向けて取り組む。

1 徳島大学男女共同参画推進実行委員会の設置

大学・企業・行政等の委員で構成された実行委員会を設置し、企画・運営・検証等、PDCAサイクルを繰り返すことにより、スパイラルアップを図りながら事業活動を推進し、各機関において、事業の広報や波及を促進する。企業を構成員とすることにより、企業等のキャリア形成支援の現状と課題や、雇用上のニーズ等意見交換・協議しながら、本事業を推進することが可能となり、就業・再就職の促進も期待できる。

2 Webアンケートによる学びと保育支援制度におけるニーズや課題の抽出

本学の教職員を対象に、これまでに実施してきたセミナー等による学びへのニーズや、「徳島大学AWA(OUR)サポートシステム」による保育支援制度の有用性や改善点、要望等について、本学の情報発信メールにてWebアンケートを実施し、その結果を「女性の学び講座」等の企画・立案に反映する。

3 女性の学び講座の開催

女性の学び講座は、研究力向上を目的としたキャリアアップ支援や、キャリア形成支援を目的としたスキルアップセミナー、女性リーダー育成講座、仕事と生活の両立講座等を企画していく。これにより、キャリア形成に向けてのモチベーションの高まりや、就業継続、復職、再就職への促進を図る。

4 男性育児推進セミナーの開催

男性にとっての男女共同参画の意義についての理解の促進を図り、男性が働き方の見直し(育児休業の取得)や育児をより積極的に楽しみ、男女がともに子育てをしながら、安心して学び、働くことができる社会の実現を目的として、男性育児推進セミナーを実施する。

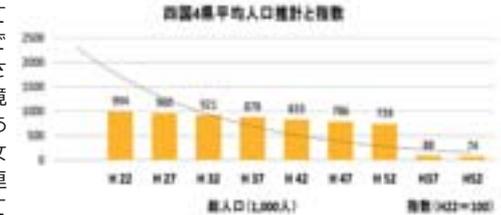
事業説明

女性の学び支援のための研究協議会の開催

主旨・目的

題名【四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト】

四国地域は、人口減、少子化、高齢化とともに全国を先んじており、「日本の地域別将来推計人口」では、2010年～2040年までの30年間に、四国4県の1県にあたる26%の人口が減少するとされている。四国地域において、女性が社会参画しやすい保育環境の整備やキャリア形成支援への取組推進は、喫緊の重要課題である。四国内の教育研究機関や行政機関、企業等が有している男女共同参画推進及び女性のリカレント教育等に関する情報共有や連携交流を通じ、夫婦が安心して子育てをしながら、生涯において能力を十分に発揮して活躍できる社会環境づくりを目指す。



(出典)日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)を基に作成

実施体制

- 四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会設置
四国5大学や地方公共団体、徳島県立男女共同参画交流センター、企業等による「四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会」を設置し、事業企画提案、検証を行う。

事業概要

- 対象機関：四国5国立大学、地方公共団体、企業等
- (1)四国5国立大学及び地方公共団体が連携した研究協議会の開催
 - ①シンポジウム
地方における『キャリア形成・再就職支援を一体的に行う仕組みづくり』の提示に向けて、取組みの現状と課題を様々な視点から講演、討論会を実施し、地域の実情に応じた仕組みづくりのあるべき姿を提示したい。
 - ②女性研究者研究交流発表会(育児休業中の研究者の参加)
研究交流発表会、ワーク・ライフ・バランスなどについて発表・紹介を行う場を設け、相互啓発による研究力の向上や共同研究の推進、キャリア形成支援・復職支援に繋げる。
 - ③一時預かり保育の開設
民間保育事業所等と連携して一時預かり保育を実施。
- (2)研究協議会での協議・検証成果を、全国に発信。

期待できる成果・効果

- (1)地域・企業等における女性のリカレント教育の現状と課題、復職・再就職しやすい環境整備について地域の実情に応じた仕組み作りの提示。
- (2)四国地区から全国へモデル事業の発信・普及並びに活用への推進。
- (3)地域における女性の活躍推進

女性の学び支援のための研究協議会の開催 取組内容

題名【四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト】

四国5国立大学および企業、行政、地域が一体となって、事業1の「実証的な調査」で実施した取組内容及び調査結果等を、研究協議会に反映し、本事業において実施した「女性の学びと社会参画」取組推進の重要性、有用性、実現性について報告を行う。この成果を通して、地域に根ざした啓発、活動促進へと繋げ、地域創生の鍵となる女性の活躍推進、人材育成、男女共同参画等の組織的なキャリア形成推進モデル事業として、四国地区から全国へ発信・普及を行う。

1 四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会

- 1 本プロジェクト委員会は、「研究協議会」の開催に向けて、企画・運営・検証方法(研究協議の視点)等について検討する。研究協議会が、四国5国立大学、男女共同参画交流センターや企業等、様々な視点から、地域の現状とニーズに即した『女性がリカレント教育を活用して復職・再就職しやすい環境整備の在り方』や、『女性の学びとキャリア形成・再就職支援を一体的に行う仕組みづくり』となるよう検討していく。『研究協議会の開催において生じた成果の普及』に取り組む。

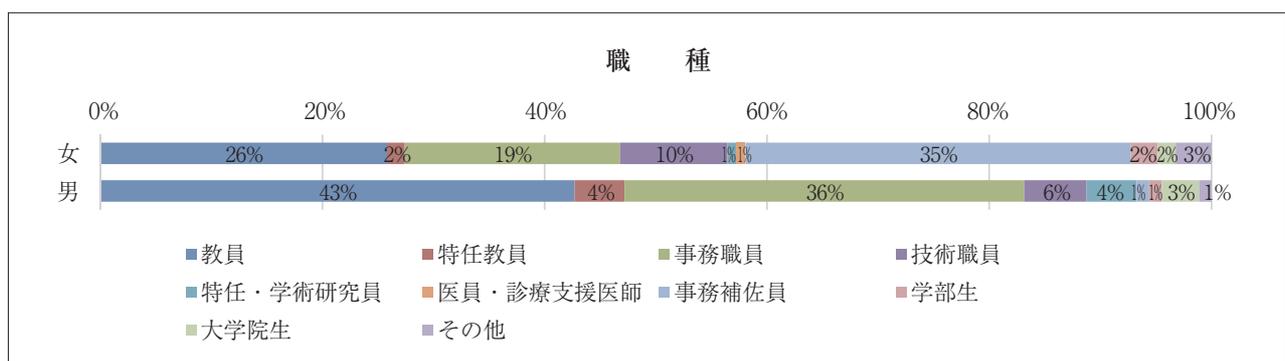
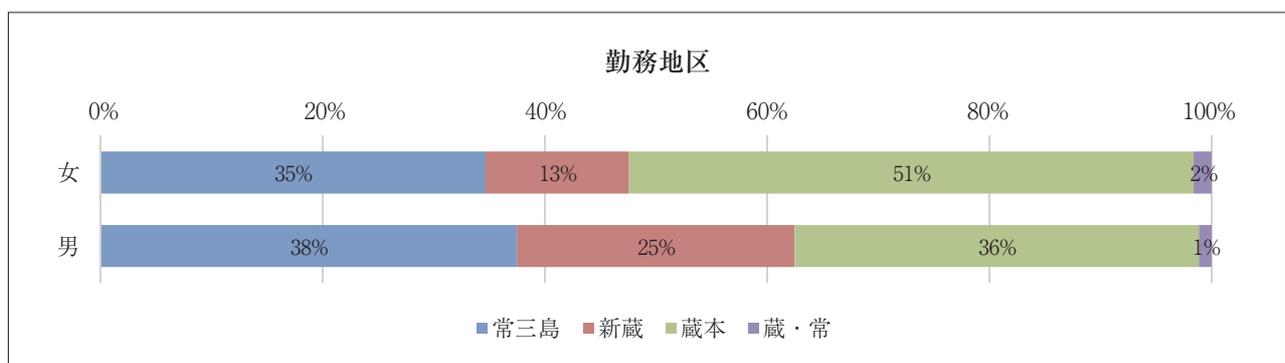
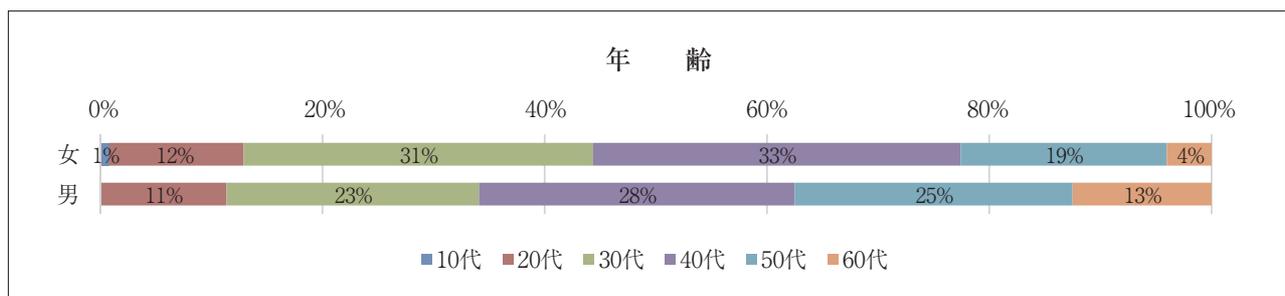
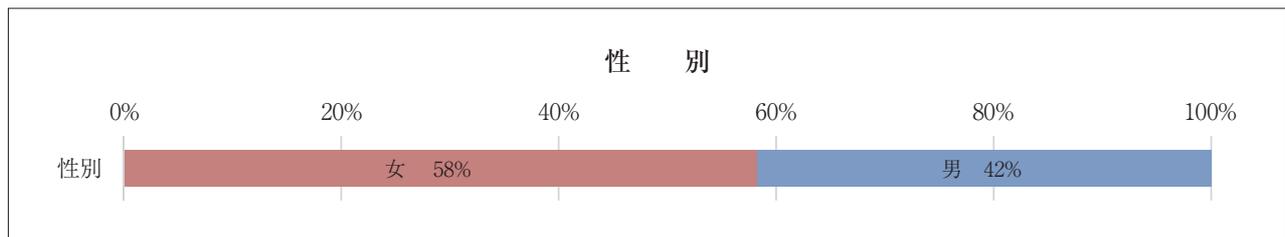
2 研究協議会：シンポジウム、研究交流発表会

- 2 シンポジウムでは、講演及びパネルディスカッション、ポスターセッション等により、『女性がリカレント教育を活用して復職・再就職しやすい環境整備の在り方』を学び、その現状と課題(事業1の「実証的な調査」の評価を踏まえ)、種々の取組みの有用性と新たな展開に向けての実現性について議論し、地方における『キャリア形成・再就職支援を一体的に行う仕組みづくり』の提示に繋げる。研究交流発表会では、研究成果の発表のみならず、キャリア形成支援として、女性が仕事と生活(出産・育児・介護等)を両立することの意義や両立事例について発表・交流する。

徳島大学における女性のキャリア形成支援と 保育環境整備に関するアンケート調査結果

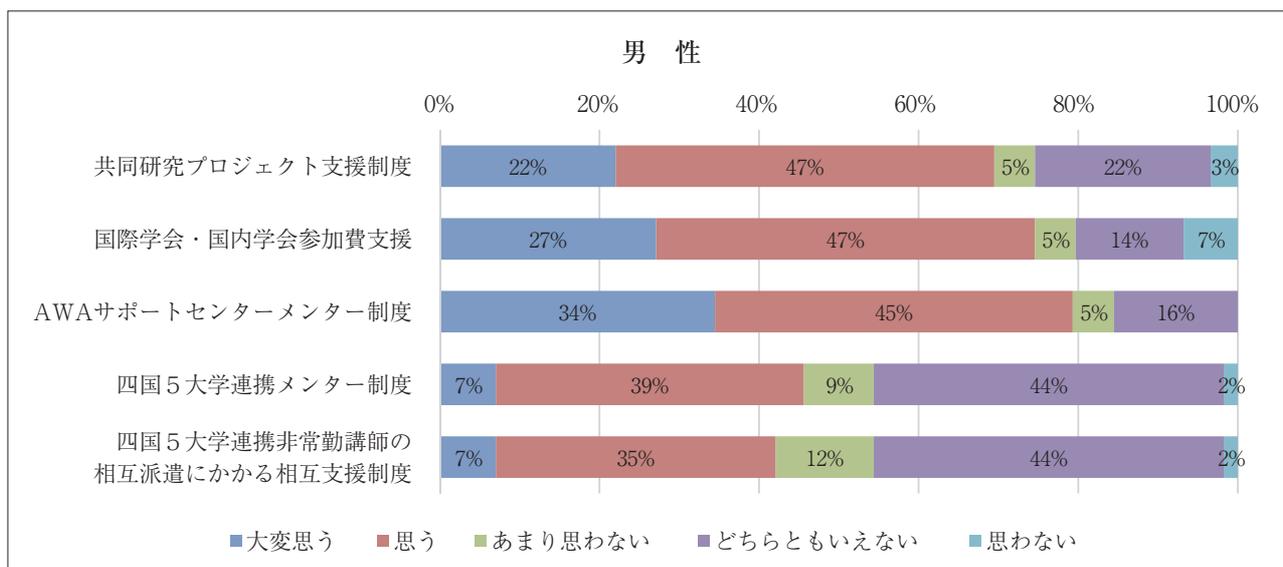
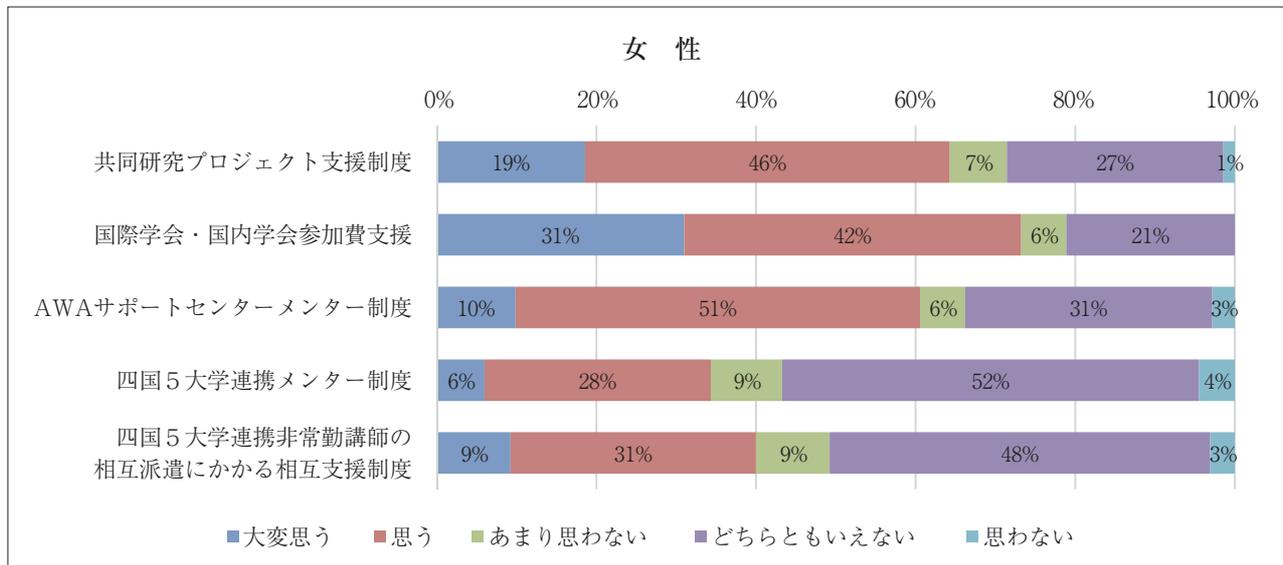
本学の教職員を対象に、これまで実施してきた「徳島大学AWA（OUR）サポートシステム」による保育支援制度及び研究支援等の認知状況とその必要性を把握するとともに、「女性の学び講座」等の企画・立案に向けてのニーズ調査（Webアンケート調査）を実施した。

実施期間 平成29年10月23日～10月31日
 対象者 徳島大学教職員及び大学院生・学部生
 回答者数 210名



徳島大学における女性のキャリア形成支援と 保育環境整備に関するアンケート調査結果

女性研究者の研究力向上に向けた、支援制度の有用性について

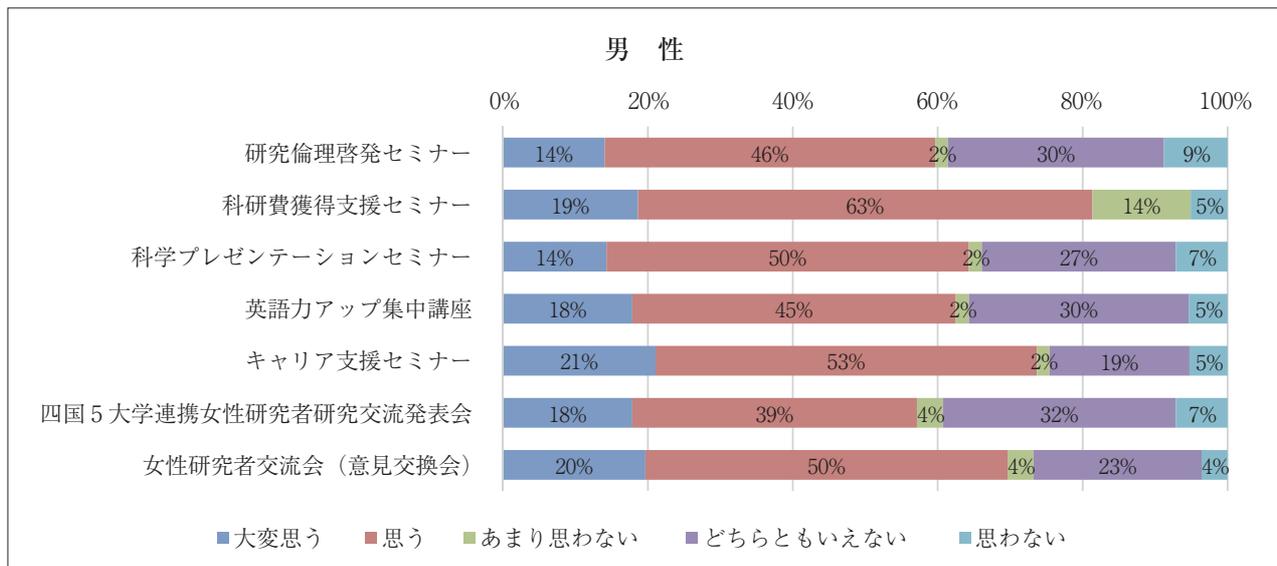
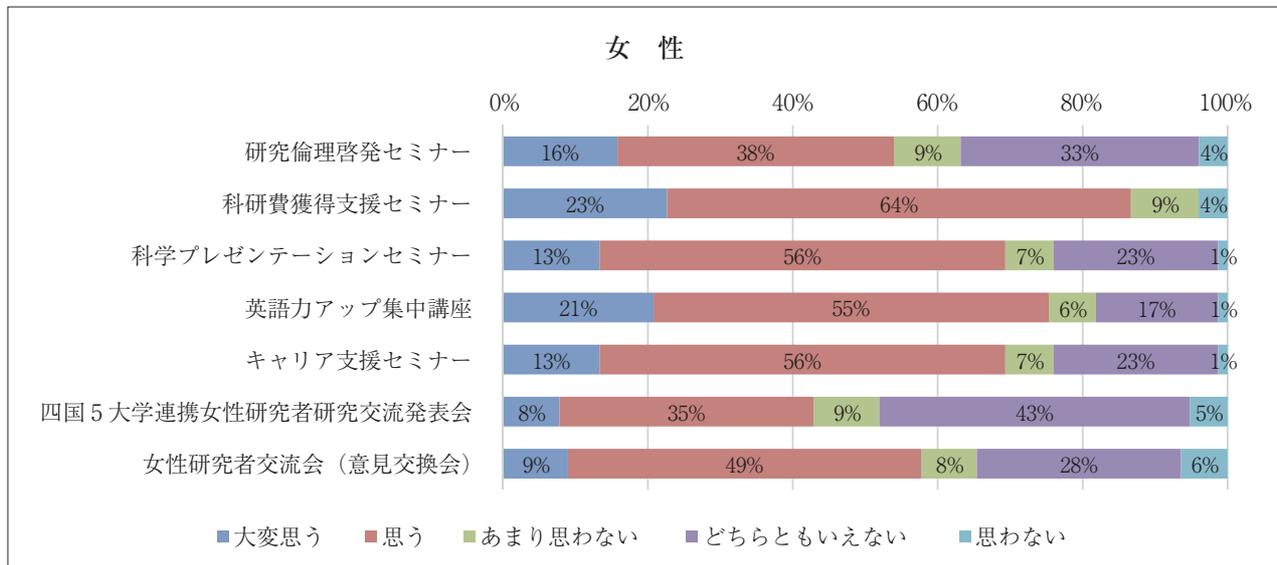


ご意見

- ・組織的な支援のシステムの充実や研究予算の確保が重要と考えます。
- ・どういう時に困るかと考えたら、働く女の人であれば、研究者じゃなくても皆同じだと思う。泊りの出張時の子どもの世話、遅くなる時の保育園の迎えなど、独身時とは同じにいけないときなので、その辺をフォローすることができればなどは思う。子どもが病気の時。日曜日で保育園に預けられない時など。
- ・もっと広報活動してもいいと思います。女性職員だけでなく男性職員に対して。男性が理解しないとうまく制度が使えないと思います。

徳島大学における女性のキャリア形成支援と 保育環境整備に関するアンケート調査結果

各種セミナーの有用性について

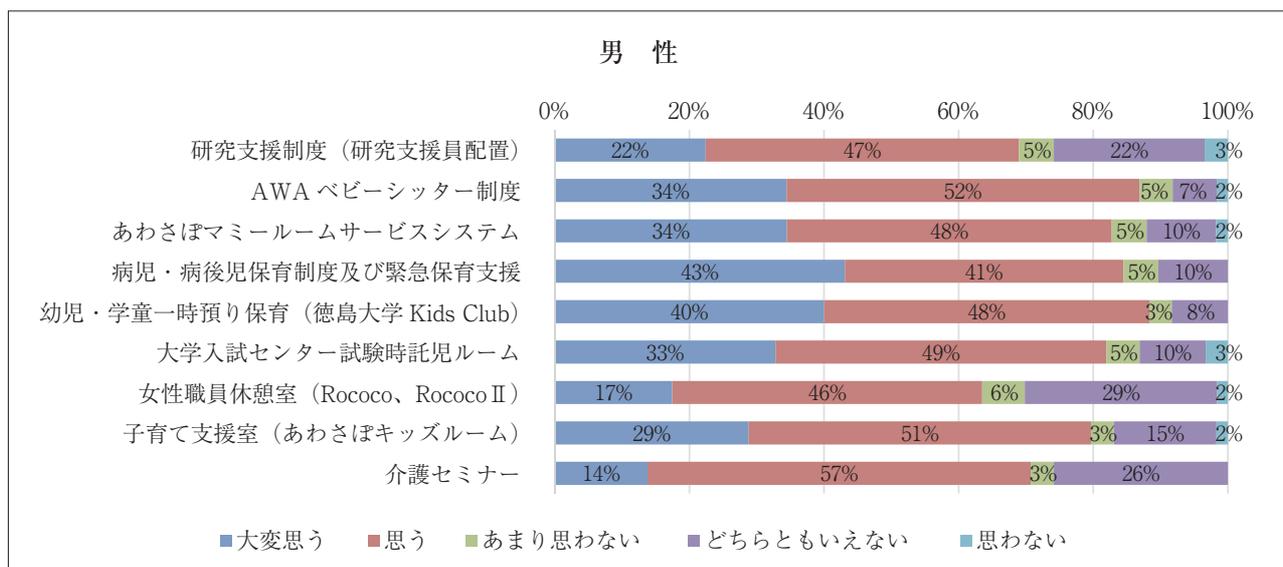
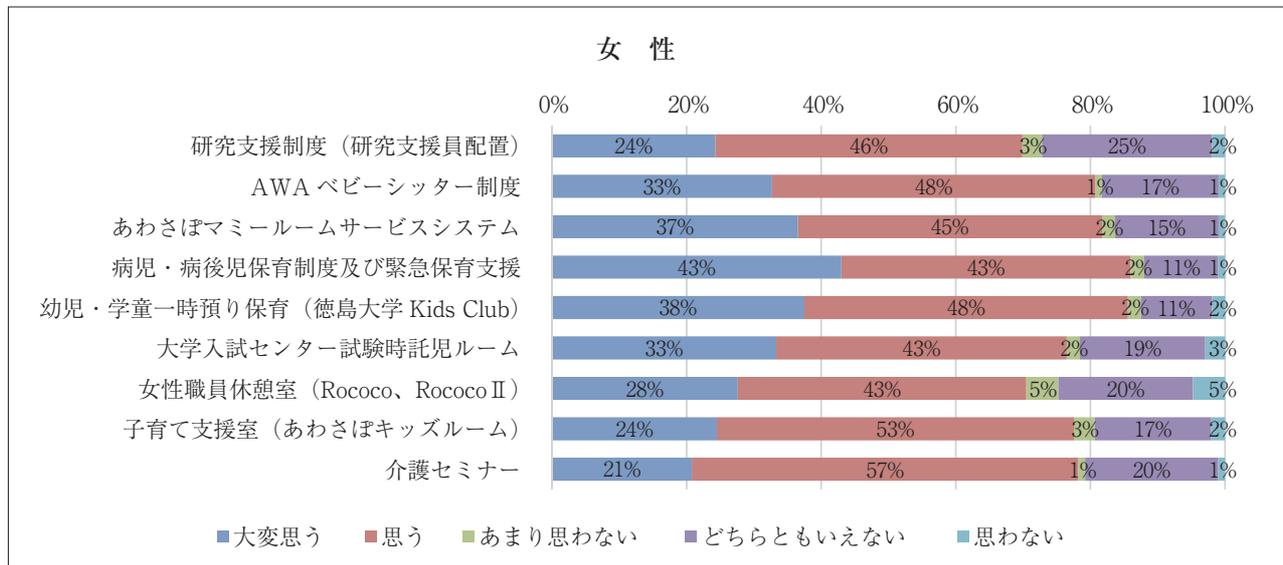


ご意見

- ・ 継続し取り組むことで研究力向上に繋がると思います。
- ・ 技術職員向けでは無いように感じられる。
- ・ 研究力向上に関するセミナーはあまり男女共同参画には寄与しない気がする。
- ・ 女性研究者のみならず、すべての研究者にとって有用なセミナーが多い。
- ・ 研究者対象だけでなく、事務職員向けセミナー等も開催して欲しい（常三島地区や新蔵地区での開催を希望）

徳島大学における女性のキャリア形成支援と 保育環境整備に関するアンケート調査結果

ライフイベントやワークライフバランスに配慮した、支援制度の有用性について



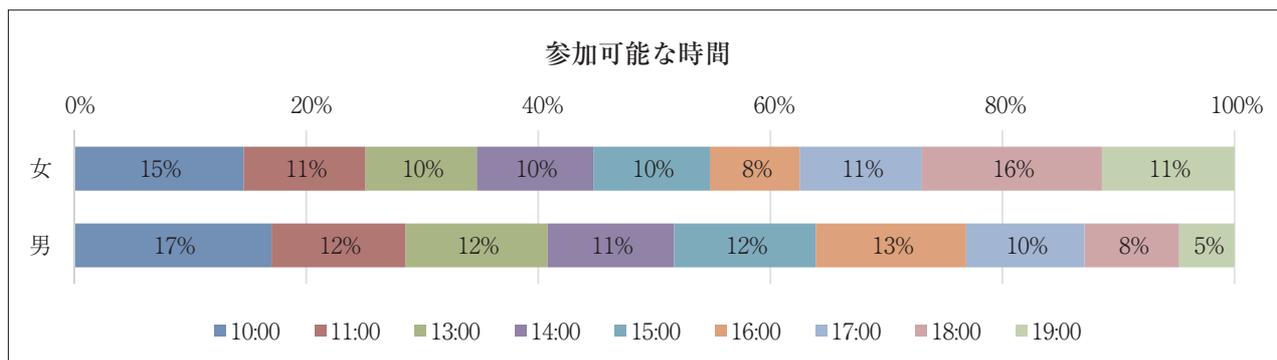
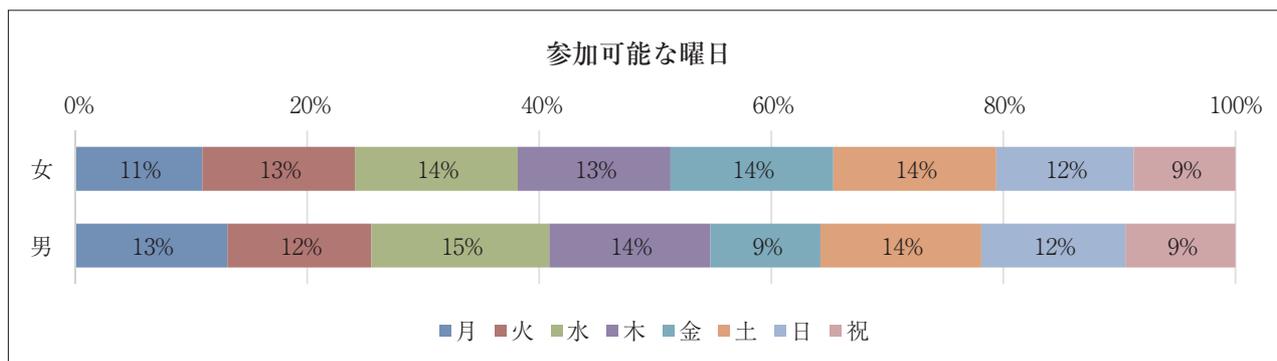
ご意見

- ・ 育児関係のサービスは男性教職員も利用できて当然であると思うが、利用できるかどうか不明である。女性専用の制度があるなら男性専用制度も欲しい。gender差別では？
- ・ 上司が子育てに参加したことがない男性であったりすると、配慮してもらえなかったりします。男性向けのそういうセミナーなど企画されてはいかがでしょうか。
- ・ 以前、研究支援員のサポートを受けられる状況になった研究者が、現実的には適切な支援員が見つからなかったと聞きました。難しいと思いますが、そのあたりをサポートできるような人材バンクが将来、開発できるといいですね。

徳島大学における女性のキャリア形成支援と 保育環境整備に関するアンケート調査結果

「女性の学び講座」の開催について

男女がともに子育てをしながら、“安心して、学び、働く”ことができる環境整備を一体的に推進するための「女性の学び講座」の開催にあたり、下記について、ご希望を伺いました。



どのような学び講座を希望されますか。

- ・男性（夫）の育児を推進する講座
- ・女性のキャリアアップに関する講座・女性のキャリア支援に関する講座
- ・男性教職員のための育児、介護等に関する講座
- ・誰がどのような研究協力ができるか？という講座。
- ・男性の意識改革に関する講座を男性向けに。
- ・非常勤の教職員に向けた講座。家庭の事情等でキャリアアップを考えられない方も多いと思う。
- ・女性が活躍していくために役立つ講座
- ・女性リーダー育成
- ・育児に関する講座が多くあると嬉しく思います。
- ・管理職を中心とした男性に対して、育児中の女性研究者の現状を理解してもらえるような講座を希望します。できるだけ多様な女性研究者の生活スタイルの話聞かせて欲しいです。
- ・女性リーダー育成に関する講座、男性（夫）の家事・育児を推進する講座

徳島大学における女性のキャリア形成支援と 保育環境整備に関するアンケート調査結果

ご意見・ご感想

- ・男性側への働きかけが重要である。女性が育休や産休に入ると、仕事を減らすことで配慮してくださるが、できる範囲で精一杯仕事に取り組みたい女性が多い中で大変失礼な配慮である。しかし、こういった事情は男性には理解されにくい。確かに十分に仕事に時間を割けない状況は不十分に映るかもしれないが、費やす時間と成果は一致しないことを理解してもらう必要がある。女性のモデルケースも種々いた方がよい。いずれのモデルケースも、子供を産んでも成果十分、という研究者が取り上げられるが、そうなる自分はそのままでできない、と失速することを恐れ、女性研究者はプライベートを後回しにしがちである。早く、高度成長期に培った精神論が払しょくされることを願う。
- ・講座開講にあたり、無料の一時預かり保育も大切であるが、例えば、上記講座に平日の勤務時間中などに開催し、参加する場合、勤務を免除し、セミナーに参加できる環境が必要であると思う。結局、いろんな制度ができることや講座が開催されることは望ましいし、私は参加したいと考えるが、勤務を免除し（年休などを取得せず）、快く講座に参加してもよいと職場全体が思える職場環境が成立していないと参加は困難である。制度や講座の充実が良いことだが、職場の同僚や上司の「意識」を変革できないことには、制度や講座の利用率等も真に上がってこないと思う。
女性のキャリア形成等の充実には、上述した職場の構成員の「意識」の変革と、すべての女性がキャリアアップを望んでいないということを念頭に置き、取り組むことが大切であると思われる（例えば、非常勤職員の方、全員が定員へのキャリアアップを望んでいない。定員になると、残業が生じたり、責任が増えるため、家庭で家族と過ごす時間が減る理由などから）。

委託事業を実施するに際して、これまで実施してきた支援等の有用性や課題、要望についてWebアンケートにより調査した。

1. 課題

- ・セミナー並びに子育て等支援の有用性は高く評価されているが、相対的に認知度が低く、広報の仕方について検討が必要である。
- ・セミナー等の開催曜日時間のニーズは、ばらつきがあるが、『平日の勤務時間中などに開催し、参加する場合、勤務を免除し、セミナーに参加できる環境が必要』という意見を踏まえて、開催時の配慮の検討が必要である。

2. 学び講座の内容（テーマ）へのニーズ

ニーズが高かったのは、「男性（夫）の育児を推進する講座」、「女性のキャリアアップ・支援」、「女性リーダー育成」、「男性の意識改革に関する講座」、「上司のための部下のキャリア開発セミナー」、「男性の介護」などであった。





事業報告1

**女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備と
キャリア形成支援の一体的な取組推進に係る
実証的な調査**

徳島大学男女共同参画推進実行委員会

男女共同参画推進実行委員会委員名簿

氏 名	機 関 名	役 職 名
野 地 澄 晴	国立大学法人徳島大学	学長
根 本 幸 枝	国立大学法人徳島大学	理事（総務・財務・男女共同参画推進担当） 副学長・徳島大学男女共同参画推進室長
葉 久 真 理	国立大学法人徳島大学	大学院医歯薬学研究部教授・副理事 AWA サポートセンター長
笥 善 行	国立大学法人香川大学	学長
澤 井 行 広	国立大学法人香川大学	給与福利グループリーダー
山 田 圭 吾	大塚製薬株式会社	人事部 部長補佐
長 野 千富美	大塚製薬株式会社	徳島研究所 前臨床研究センター 探索安全性研究部 研究員
竹 岡 正 雄	徳島県立工業技術センター	所長
山 本 澄 人	徳島県立工業技術センター	企画総務担当 課長
正 木 孝 一	徳 島 県	県民環境部男女参画・人権課 課長
三 木 哲 史	徳 島 県	県民環境部男女参画・人権課 男女共同参画担当 主任
川 村 美 樹	徳 島 県 立 男女共同参画交流センター	所長
藤 井 八重子	徳 島 県 立 男女共同参画交流センター	課長補佐
阪 間 稔	国立大学法人徳島大学	大学院医歯薬学研究部教授 AWA サポートセンター啓発・広報部門主任
伊 藤 桃 代	国立大学法人徳島大学	大学院社会産業理工学研究部講師 AWA サポートセンター人材育成部門主任
山 本 恭 代	国立大学法人徳島大学	徳島大学病院泌尿器科講師 AWA サポートセンターワークライフバランス部門主任
中 島 佳 子	国立大学法人徳島大学	AWA サポートセンター コーディネーター

徳島大学男女共同参画推進実行委員会

第1回

開催日時 平成29年11月8日(水) 16時00分～17時00分

開催場所 徳島大学 医学部第一会議室

出席者数 16名

文部科学省委託事業平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」

委託事業名：女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査

題名：「地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証」の事業実施について

1. 協議事項

協議1：「地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証」事業（案）について

協議2：女性の学び講座Ⅰ実施要項（案）について

協議3：女性の学び講座Ⅲ及び男性育児推進セミナー実施要項（案）について

協議4：成果・効果の測定指標について（アンケート調査内容検討）

2. 報告事項

報告1：「徳島大学における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関するアンケート調査結果」について

(2) その他

参考資料「女性の学び支援のための研究協議会の開催」（事業計画案）について

議事要録

1. 協議事項

協議1：年間計画、並びに事業の実証検証について説明があり、これを承認された。

協議2：女性の学び講座Ⅰ「四国5大学連携メンター研修2017」の実施要項（案）について、説明があり、承認された。

協議3：実施要項の説明及び事業の目的について、説明があり、承認された。

協議4：本事業の成果・効果測定について説明があり、測定指標に基づいてアンケート（案）を作成し、メール会議にて意見を伺い、完成させることが承認された。

2. 報告事項

報告1：アンケート調査結果について、報告があった。

支援や事業について、肯定的な回答が多かった。調査結果からみえた課題は、新たな広報・周知方法の検討である。

保育環境を整備した「女性の学びの講座」へのニーズ調査では、参加可能な日程は、平日が59%で最も多く、開始時間は、平日18時または19時が最も多かった。

講座内容は、男性の育児を推進する取組やキャリア開発に関するものが多かった。



徳島大学男女共同参画推進実行委員会

第2回

開催日時 平成29年11月22日(水) メール会議

文部科学省委託事業平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」

委託事業名：女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査

題名：「地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証」の事業実施について

1. 協議事項

協議1：第1回徳島大学男女共同参画推進実行委員会議事要録（案）について

協議2：女性の学びの講座Ⅰのアンケート調査（案）について

四国5大学連携メンター研修で配布するアンケートの内容について

協議3：女性の学びの講座Ⅱの実施要項（案）について

開催予定の講座の内容について

平成29年12月12日(火) 18：00～19：30

「メディカルサイエンス系英文の読解／ライティング（セミナーのレベル：初級～中級）」

協議4：女性の学び講座Ⅲ 実施要項（案）について

議事要録

協議1～4 すべて承認された。

第3回

開催日時 平成29年12月18日(月) 12時00分～13時00分

開催場所 徳島大学 医学部第一会議室

出席者数 16名

文部科学省委託事業平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」

委託事業名：女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査

題名：「地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証」の事業実施について

1. 協議事項

協議1：女性の学び講座Ⅳ実施要項（案）について

協議2：女性の学び講座Ⅴ実施要項（案）について

2. 報告事項

報告1：第2回徳島大学男女共同参画推進実行委員会

・メール会議議事要録

・女性の学びの講座Ⅰのアンケート調査

・女性の学びの講座Ⅱの実施要項

報告2：女性の学び講座Ⅰアンケート調査結果（女性・全体）

議事要録

1. 協議事項

協議1：承認された。

協議2：承認された。



徳島大学男女共同参画推進実行委員会

2. 報告事項

報告1：メール会議議事要録及び、女性の学びの講座Ⅰのアンケート調査、女性の学びの講座Ⅱの実施要項について、報告された。

報告2：結果を報告した。阻害要因と受講するための工夫を検討し、来年度に反映させることとした。

第4回

開催日時 平成30年1月16日(火) メール会議

文部科学省委託事業平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」

委託事業名：女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査

題名：「地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証」の事業実施について

1. 協議事項

協議1：女性の学び講座Ⅵの実施について

2. 報告事項

報告1：女性の学び講座Ⅱアンケート調査結果について

議事要録

協議1、報告1について、すべて承認された。

第5回

開催日時 平成30年2月21日(水) 15時30分～17時00分 及びメール会議

開催場所 徳島大学 医学部第一会議室

出席者数 17名

文部科学省委託事業平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」

委託事業名：女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査

題名：「地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証」の事業実施について

1. 協議事項

協議1：事業実施による成果／効果と課題、課題解決の方向性について

2. 報告事項

報告1：地方における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関する実証的検証における事業報告書について

議事要録

協議1：総合評価について、確認するとともに承認された。

報告1：資料の報告書案について、概ね了承された。

資料修正後、欠席者については、メール会議にて確認後、承認された。



女性の学び講座 I

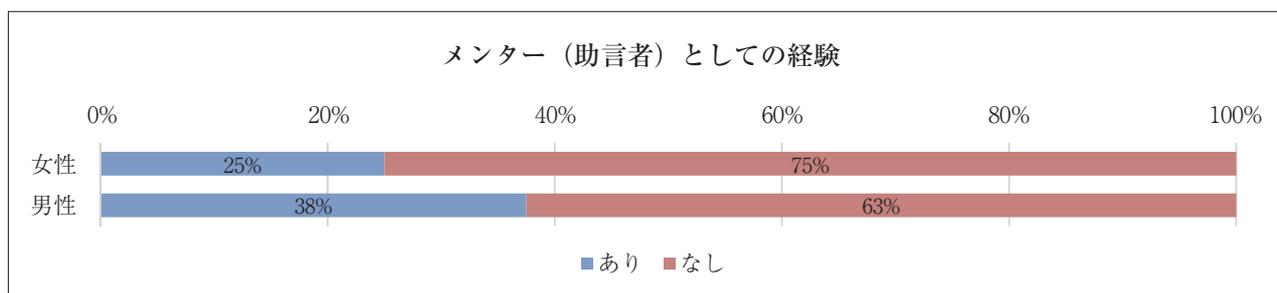
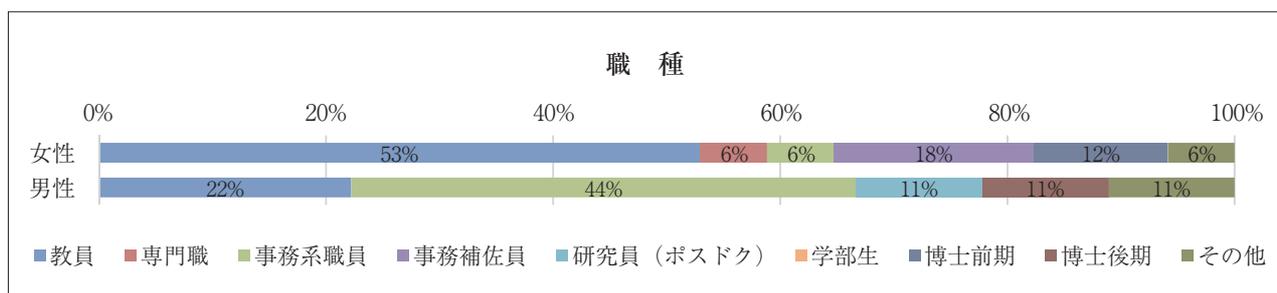
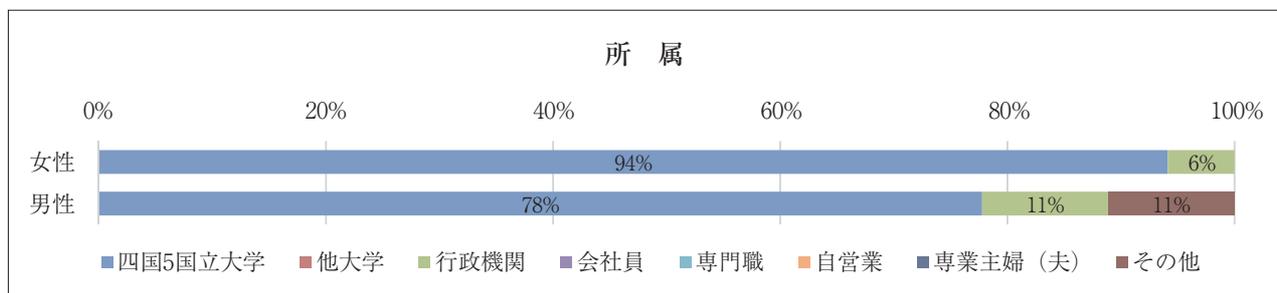
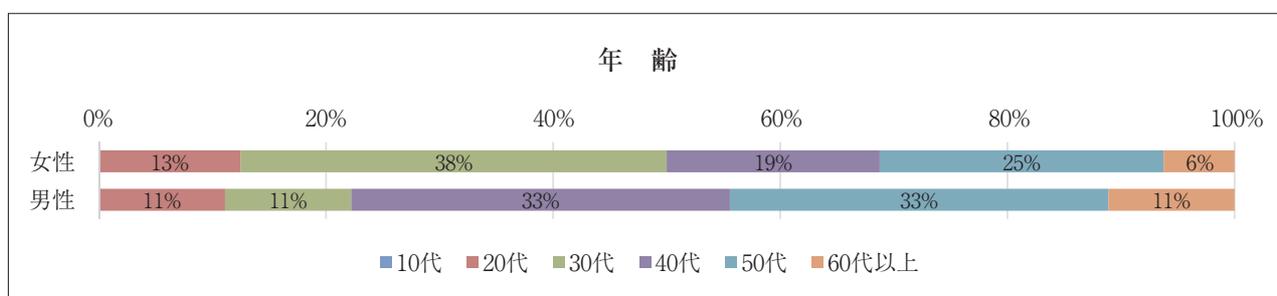
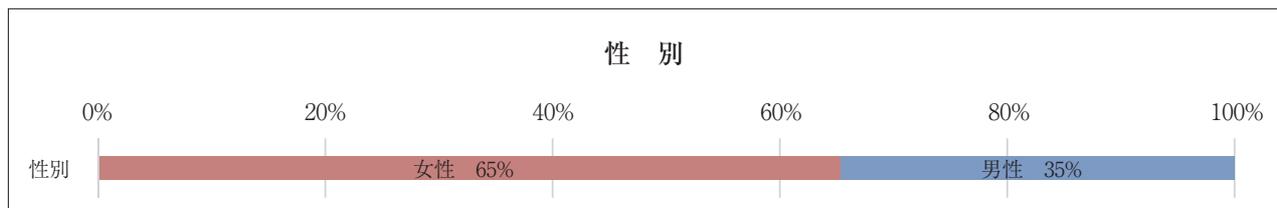
女性のキャリア形成におけるメンタリング～メンタリング効果とスキルを知る～

アンケート結果（ご自身の事について）

参加者数 29名

回答率 女性：85%

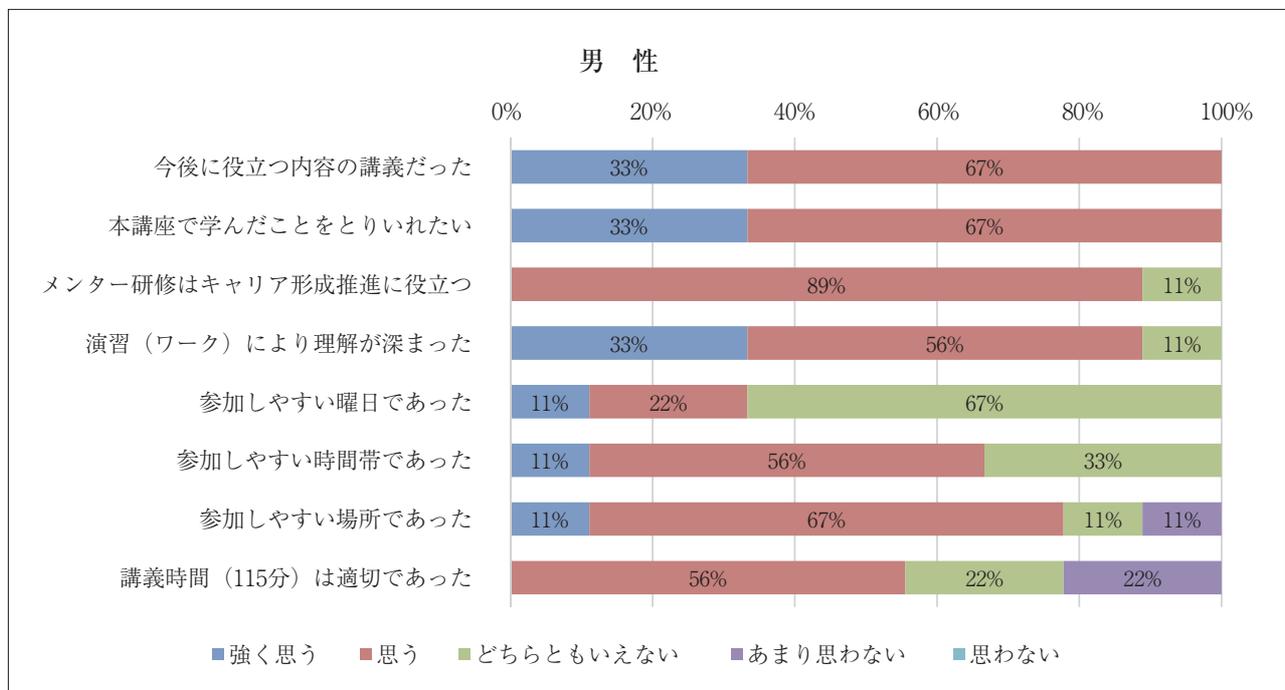
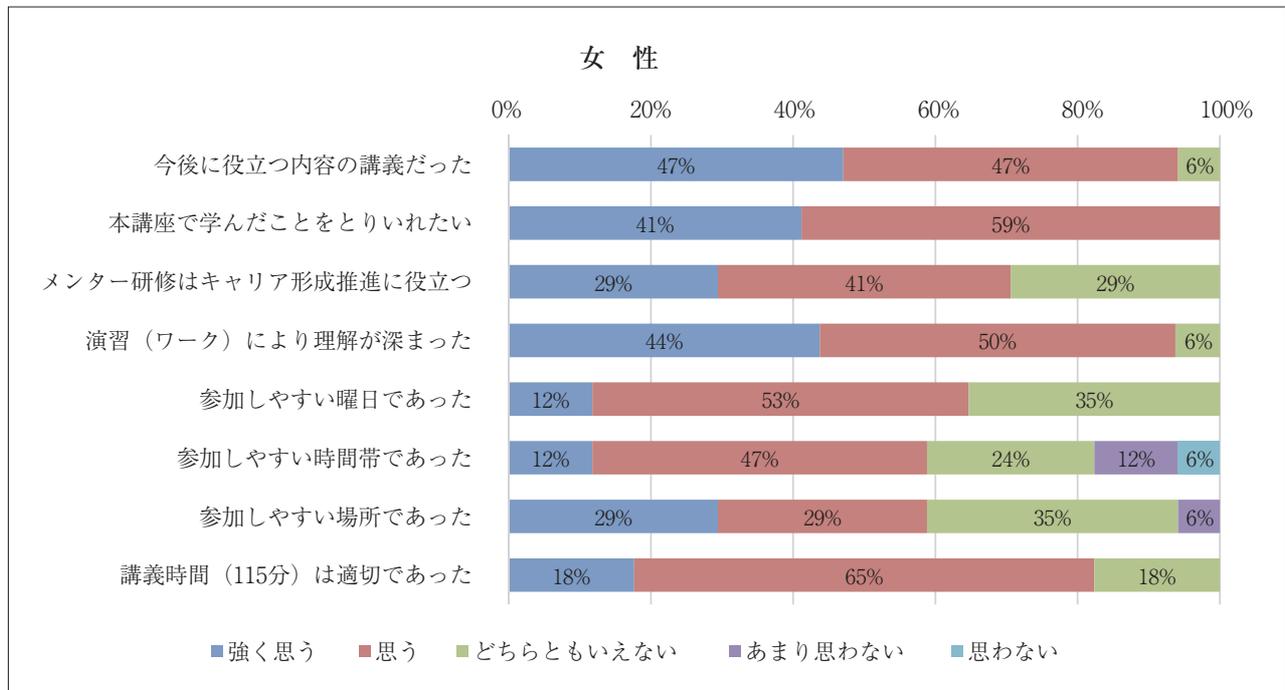
男性：100%



女性の学び講座 I

女性のキャリア形成におけるメンタリング～メンタリング効果とスキルを知る～

アンケート結果（評価について）



女性の学び講座 I

女性のキャリア形成におけるメンタリング～メンタリング効果とスキルを知る～

アンケート結果（ご意見・ご感想について）

【女性】

- ・自分自身のキャリア形成にも、後輩・学生のキャリア形成にも有意義な講座だったと思う。
メンター制度のキャリア形成における有意性はとても高いと思うが認知度が低いと思う。
- ・実際に役立ち、スキルアップになる講座の開設は有用だと思う。
- ・「女性の学び」と、女性に限定しなくても良いのでは。
- ・テレビ会議でも、きちんと講座内容を理解し、進めることができてよかった。
- ・スキルワークは大変勉強になった。
- ・一時預かり保育を準備しているように、安心して育児を任せられるシステムがあれば参加しやすいと思う。
- ・毎回有意義なセミナー・ワークショップの企画ですが、本当に忙しくしている人には負担が大きいかもしれない。
- ・メンタリング制度のことをさらに学んでいきたい（メンターとメンティーのマッチング・期間の設定の仕方など）とても参考になった。
- ・メンターとなる人に年数回受講を義務づけ、メンタースキルを高める→キャリア形成につながる
- ・質問が自分の興味にかたよるので、こちらも切り口を考えて、自ら考えられる質問ができるようになりたいと思った。

【男性】

- ・家庭でも役立てたい
- ・メンター制度は言葉だけ知っていましたが、よい気づきがあった。
- ・実際に導入されている大学の方の苦労話なども聞きたかった。

【研修の意義と評価】

徳島大学における女性のキャリア形成支援と保育環境整備に関するアンケート調査（以後事前アンケートとする）からも、メンター制度の有用性が認識されておらず、研修への参加ニーズは高くない。しかし、女性が学びを通じて活躍していく状況の中で遭遇する様々な困難に対処していくためには、メンタリングの効果は大きい。

そのためには、メンターとなる者は、メンタリングについて学び、求められる役割を遂行するためのスキルを高めておく必要がある。「女性が子育てをしながら学びやすい環境整備」の1つとしてメンター制度は、その基盤を支える重要なものといえる。

【課題と今後の方向性】

メンター制度の認識・理解を促し深める手段・方法を検討する。

- ・いつでも利用・対応できる分野メンターの配置

例) 研究メンター（現在5大学連携はこの制度）、育児メンター、介護メンターなど

- ・メンター研修の義務化に向けたポイント制など（メンターへのインセンティブ付与）

女性の学び講座Ⅱ

メディカルサイエンス系英文の読解/ライティング (セミナーのレベル:初級~中級)

開催日時 平成29年12月12日(月) 18:00 ~ 19:30
会場 大塚講堂小ホール (徳島市蔵本町3丁目18-15)
参加者数 49名 (女性 37名) 一時預り保育 お子様5名利用



公益社団法人日本工業英語協会
専任講師 徳田 皇毅 氏
工業英検 1 級取得実務翻訳者

本講座は、文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、グローバル時代の社会・大学・企業、そして女性が求めるキャリア形成を支援するために、論文の読解や執筆を中心として、英語力のブラッシュアップを図るとともに、学生等の論文指導にも役立たせることを目的として、実施しました。



平成 29 年度第 9 回研究力伸張セミナー
文部科学省平成 29 年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」
女性の学び講座Ⅱ

無料 託児あり 申込締切 12/6(水)

本講座は、文部科学省平成 29 年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、グローバル時代の社会・大学・企業、そして女性が求めるキャリア形成を支援するために、論文の読解や執筆を中心として、英語力のブラッシュアップを図るとともに、学生等の論文指導にも役立たせることを目的としています。

メディカルサイエンス系英文の読解/ライティング
(セミナーのレベル:初級~中級)

2017. **12.12** [火] 18:00 - 19:30
大塚講堂 2 階小ホール (徳島大学蔵本キャンパス)

講師 **徳田 皇毅 氏** 公益社団法人日本工業英語協会 専任講師 / 工業英検 1 級取得実務翻訳者

対象 **教職員・大学院生・学生・一般 (男性の参加可)**
※ 四国 5 国立大学・連携機関 (他大学・企業・行政機関等)

概要

- 論文の読解と執筆に役立つ表現 / 文法事項を、文脈の豊か、といわれる翻訳の視点から
- メディカルサイエンス系のサンプルを毎日本文の英訳を通して解説
- メディカル系英文を読み取らせる際に利用される単語の紹介
- 読解の裏、資料のどこに注目すればいいのかわかる
- 読解に必要なのは単語と語彙だけ
- 読解の裏の裏からライティングが学べ、意味が取りやすくなる
- 多読された新聞を中心とした英文を読み立てる
- 多読された新聞の発行で使われるサンプル英文を解説
- レターに役立つ単語
- 英米ライティングの 3C とは

参加費無料 (定員 50 名程度) 申込締切 12 月 6 日(水)

お申込

最新の申込書または Email に併せ、所属、職名、性別、学年をご記入の上、下記の徳島大学 AWA サポートセンターまでお申し込みください。

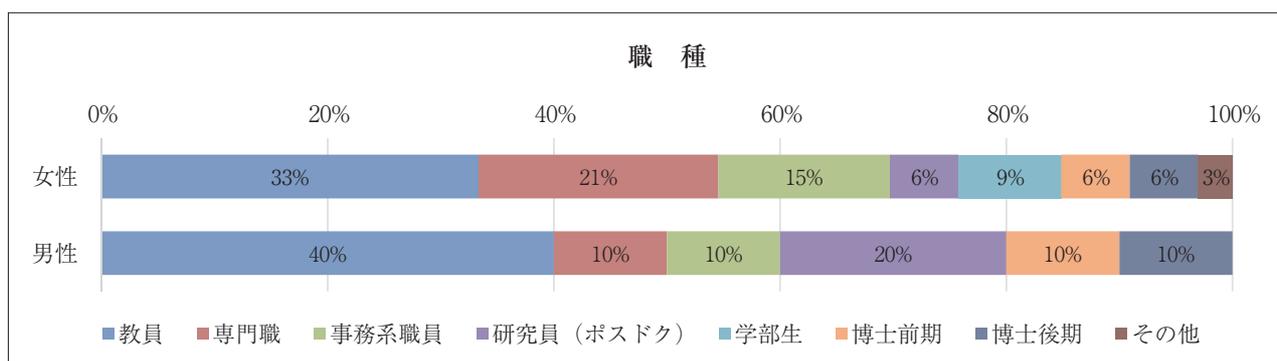
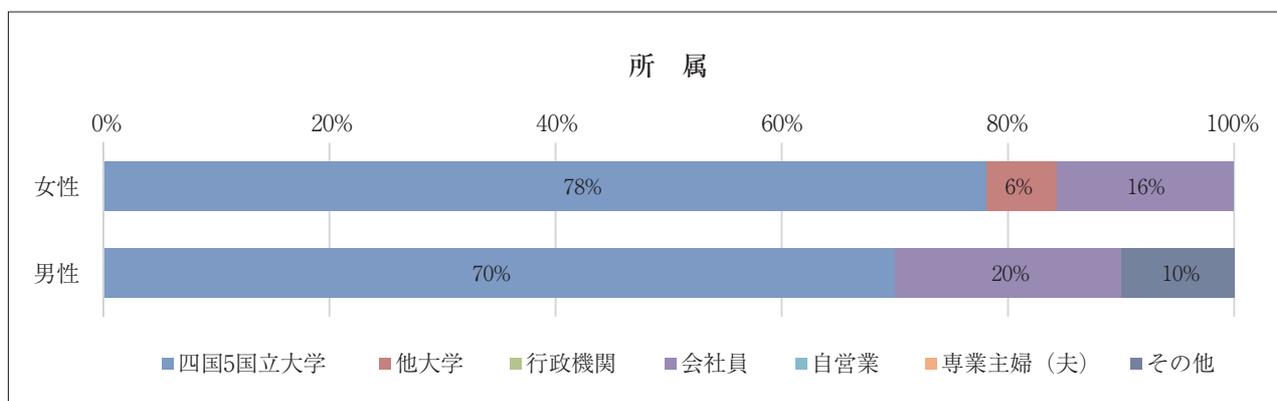
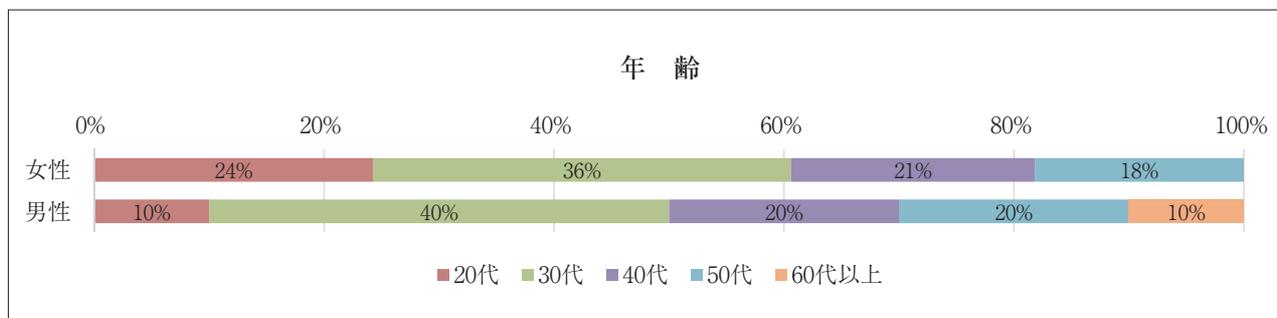
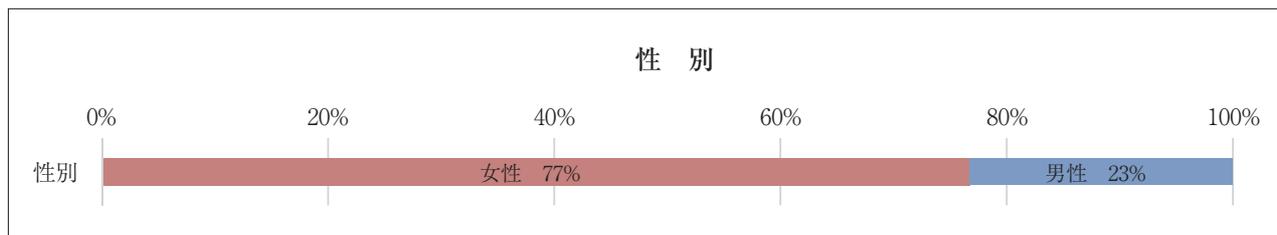
お申込/お問い合わせ: 徳島大学 AWA サポートセンター [平日 9:00-17:00]
〒770-8502 徳島市蔵本町 4-18-15
Tel: 089-632-7575 Fax: 089-632-7572
E-mail: awa@awacenter.nu.ac.jp
URL: <http://www.awacenter.nu.ac.jp/>

女性の学び講座Ⅱ

メディカルサイエンス系英文の読解／ライティング (セミナーのレベル:初級～中級)

アンケート結果 (ご自身の事について)

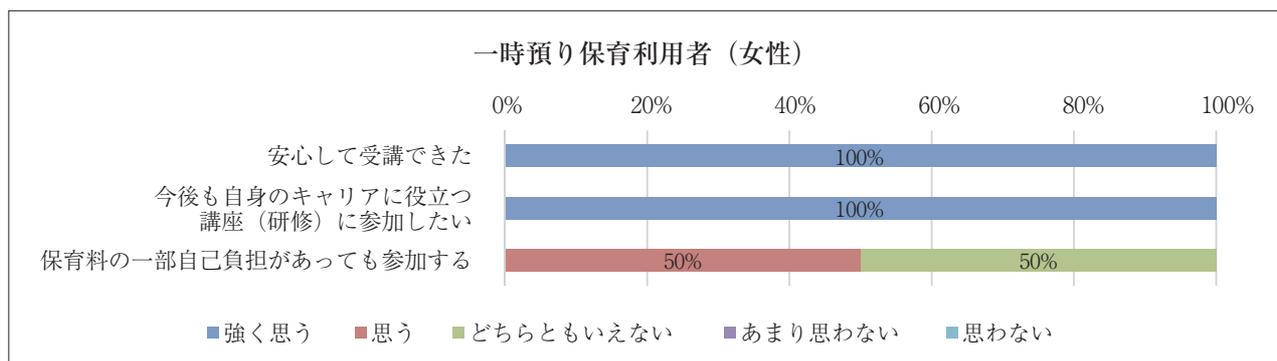
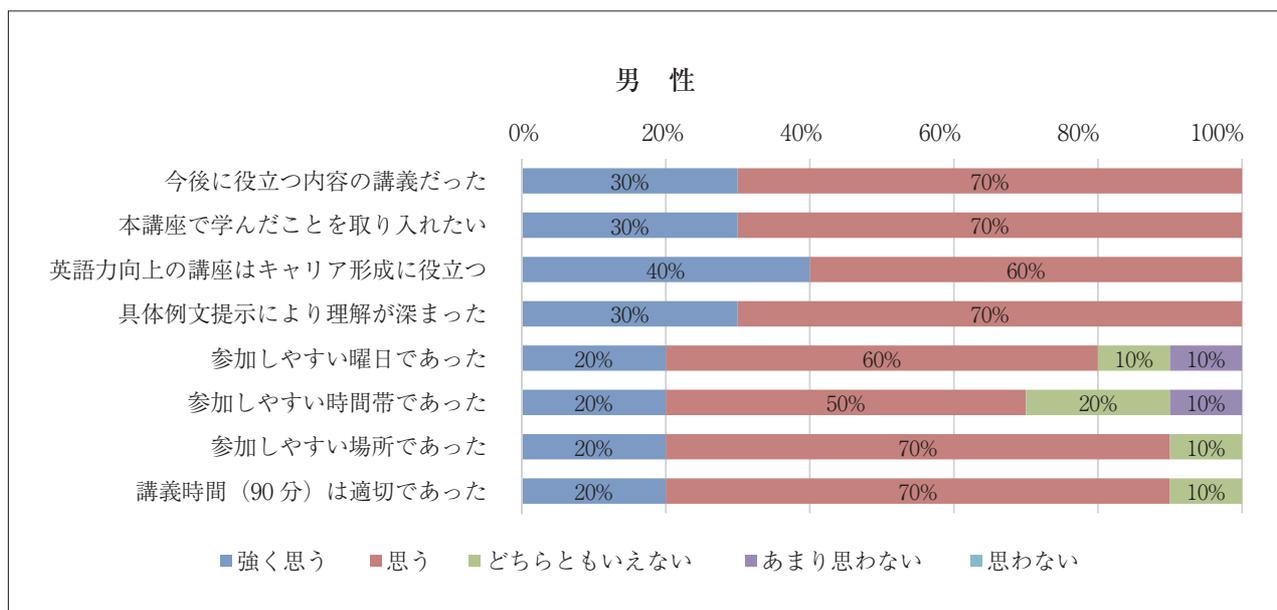
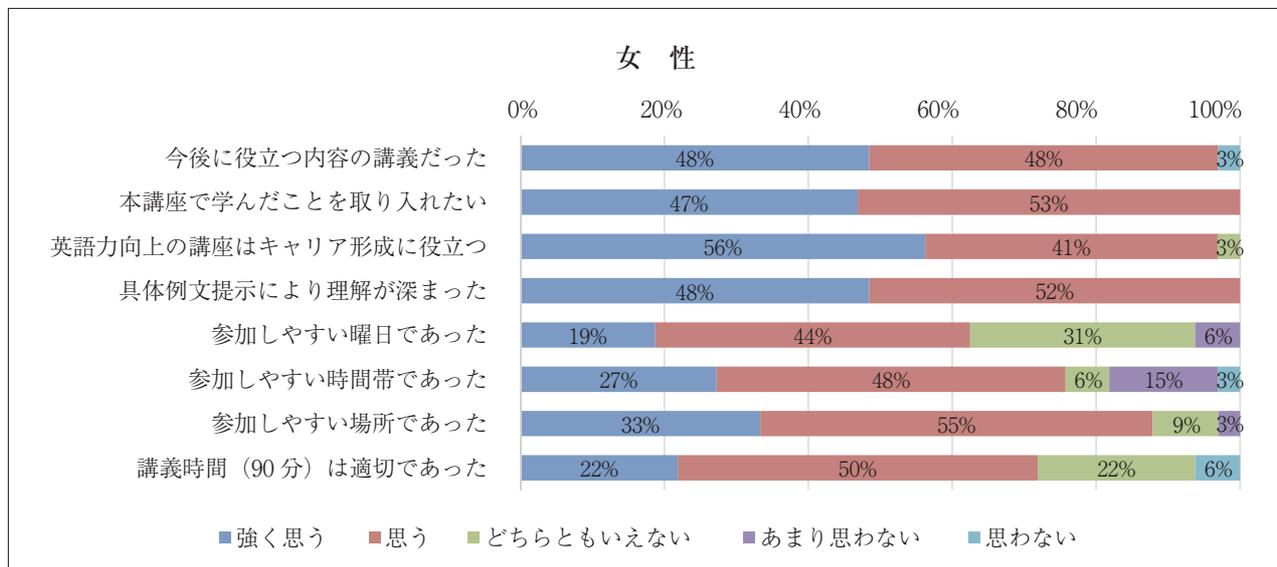
参加者数 49名
回答率 女性：89%
男性：83%



女性の学び講座Ⅱ

メディカルサイエンス系英文の読解／ライティング（セミナーのレベル：初級～中級）

アンケート結果（評価について）



女性の学び講座Ⅱ

メディカルサイエンス系英文の読解／ライティング（セミナーのレベル：初級～中級）

アンケート結果（ご意見・ご感想について）

- ・論文作成の際に本当に役に立つセミナーだったと思います。これによって業績数が上がったということが検証されるとすばらしいと思いました。
- ・小声で英文をつくりあげるさまが見られてよかった。
- ・論文作成に有用であった。ぜひ次回もお願いします。長文作成のときの語順・冠詞の使い方など希望。
- ・非常に役立つ内容だと思った。会社に入ってから授業を受ける機会がないので、とても貴重な時間でした。

【女性】

- ・参加して良かったです。ライティングのシリーズの講座をしてほしいです。
- ・英文での論文を相談できるところが学内であるとよいと思います。実際に書いた論文で相談できる場所があるとよいかと。
- ・90分が短く感じました。もっと長い時間もしくはシリーズ化してほしいと思いました。

【男性】

- ・すべて英語でも良かったです。

【研修の意義と評価】

事前アンケートからも有用性が高いと評価された英語力向上に向けたセミナーである。企業からの参加をはじめ、あらゆる職種・学生から多くの参加者を得た。

参加動機は、自身の研究成果を世界に向けて発信するために、英文論文の書き方等を学びたいというものであり、研究者等のニーズに合った評価の高いプログラムで、女性のキャリア形成・発展に結びつく研修と言える。

【課題と今後の方向性】

講義時間を子育て中の女性に配慮した90分としたが、短かったという意見が聞かれた。シリーズ化してほしい、英文論文を相談（校閲等）できる所がほしい等のニーズがある。

シリーズ化に向けては、受講者の開催日時のニーズを検討し、進めていく。その際には一時預かり保育を行う。また、英文論文を相談できる所というニーズに対しては、英文校正・校閲などのエキスパートの確保が課題となる。

四国発信！男女の働き方改革

Part1 女性の学び講座Ⅲ - 仕事と生活の両立 -

開催日時 平成29年12月18日(月) 13:30～17:00
 会場 藤井節郎記念ホール 藤井節郎記念医科学センター 1F
 (徳島市蔵本町3丁目18-15)
 参加者数 159名(女性 106名) 一時預り保育 利用無し



大阪市立大学大学院
 医学研究科分子生体医学講座
 病態生理学 教授
 大谷 直子 氏



大阪大学 微生物病研究所
 環境応答研究部門
 遺伝子生物学分野 教授
 原 英二 氏

本シンポジウムは、「四国5大学連携女性研究者活躍推進シンポジウム2017」及び文部科学省「平成29年度男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業～女性の学び講座～」を同時開催することにより、「四国発信！男女の働き方改革」をテーマに、男女がともに仕事と家庭、地域における活動に参画し、生涯において、能力を十分に発揮して、活躍できる社会環境づくりの実現を目指して実施しました。



四国5大学連携女性研究者活躍推進シンポジウム2017

文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」
 「女性の学びを通じた社会参画のための育英奨励金制度とキャリア形成の一歩踏み進め講座」による委託研究講座

Part1 女性の学び講座Ⅲ - 仕事と育児の両立 -
 Part2 男性育児推進セミナー

四国発信！ 男女の働き方改革

2017. **12.18** (月) 藤井節郎記念ホール
 徳島大学蔵本キャンパス
 藤井節郎記念医科学センター1F
 13:30-16:35

Part1 女性の学び講座Ⅲ - 仕事と育児の両立 -
 13:30-13:40 開会挨拶 野地 登博 徳島大学
 13:40-13:55 基調講演 文部科学省 科学技術・学術政策局次長 岡田 隆夫 (予定)
 13:55-14:00 基調 高橋 洋介 徳島大学大学院医学研究科長

14:00-14:40 特別講演 **大谷 直子 氏**
 大阪市立大学大学院医学研究科分子生体医学講座 病態生理学 教授
 「女性の働き方改革 - 研究者夫婦の一例 (看護) -」

14:40-15:20 特別講演 **原 英二 氏**
 大阪大学 微生物病研究所 環境応答研究部門 遺伝子生物学分野 教授
 「女性の働き方改革 - 研究者夫婦の一例 (医職) -」

15:20-15:30 特別講演
 15:30-15:40 基調
 15:40-16:30 パネルディスカッション

Part2 男性育児推進セミナー
 (P-1) **男性バーション：仕事と育児、家事の両立**
 司会 藤原 英二 氏 徳島大学 医学部 産科
 中村 豊 氏 徳島大学 大学院総合文化科学研究科 教授
 三本 敦史 氏 徳島大学 総合文化科学研究科 人間学 男女共同参画推進 主幹
 岡田 隆夫 氏 徳島大学 大学院医学研究科 長
 大谷 直子 氏 大阪市立大学 大学院医学研究科 分子生体医学講座 病態生理学 教授
 原 英二 氏 大阪大学 微生物病研究所 環境応答研究部門 遺伝子生物学分野 教授

(P-2) **ファミリーケース**
 司会 藤原 英二 氏 徳島大学 医学部 産科
 大谷 直子 氏 大阪市立大学 大学院医学研究科 分子生体医学講座 病態生理学 教授

16:30-16:35 閉会挨拶 野地 登博 徳島大学 医学部 産科

無料 託児あり
 応募は締め切り 12/8

四国5大学連携女性研究者活躍推進シンポジウム2017 平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」
 主催 四国5大学男女共同参画推進連絡協議会 主催 徳島大学
 協賛 徳島大学 徳島県 徳島市 徳島県立大学 徳島大学 徳島大学
 後援 徳島県 徳島市 徳島県立大学 徳島県立大学 徳島県立大学 徳島県立大学
 〒770-8502 徳島県徳島市蔵本町3丁目18-15
 TEL 087-833-7500 FAX 087-833-7501 www.sip2017.com

四国発信！男女の働き方改革

Part1 女性の学び講座Ⅲ - 仕事と生活の両立 -

特別講演 「男女の働き方改革－研究者夫婦の一例（妻編）－」

大阪市立大学 大学院医学研究科 分子生体医学講座
病態生理学 教授 大谷 直子 氏

座長：徳島大学医学部長
AWAサポートセンター
副センター長
丹黒 章



特別講演 「男女の働き方改革－研究者夫婦の一例（夫編）－」

大阪大学 微生物病研究所 環境応答研究部門
遺伝子生物学分野 教授 原 英二 氏



徳島新聞 平成29年12月19日(火) 社会面

女性研究者 活躍推進を

徳大で シンポ 仕事と家庭の両立議論

女性研究者が活躍できる環境づくりを模索するシンポジウム「四国発信！男女の働き方改革」(四国5大学男女共同参画推進連絡協議会主催)が18日、徳島市の徳島大蔵本キャンパスであり、大学や企業関係者ら約160人が研究現場でのワークライフバランス(仕事と家庭の両立)について考えた。

研究者同士の夫婦として、大阪市立大学大学院医学研究科の大谷直子教授と大阪大微生物病研究所の原英二教授が出た。(等井理)

女性研究者が活躍できる環境づくりを模索するシンポジウム「四国発信！男女の働き方改革」(四国5大学男女共同参画推進連絡協議会主催)が18日、徳島市の徳島大蔵本キャンパスであり、大学や企業関係者ら約160人が研究現場でのワークライフバランス(仕事と家庭の両立)について考えた。

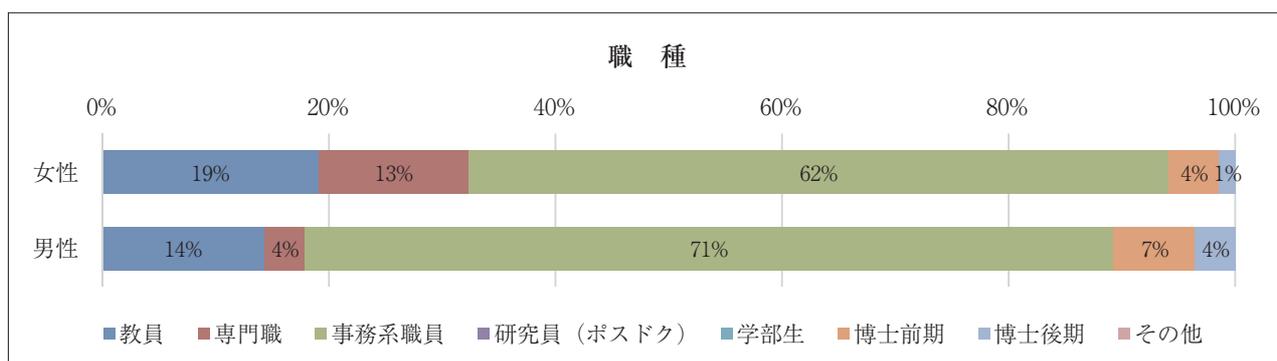
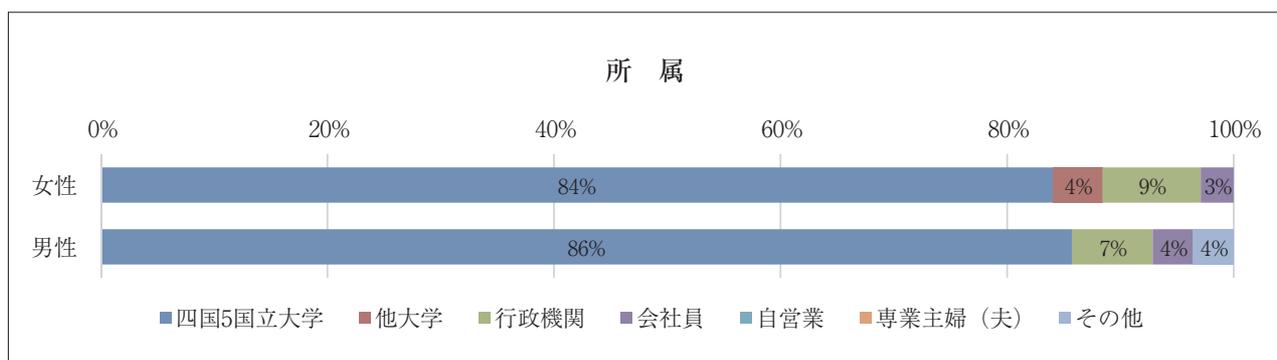
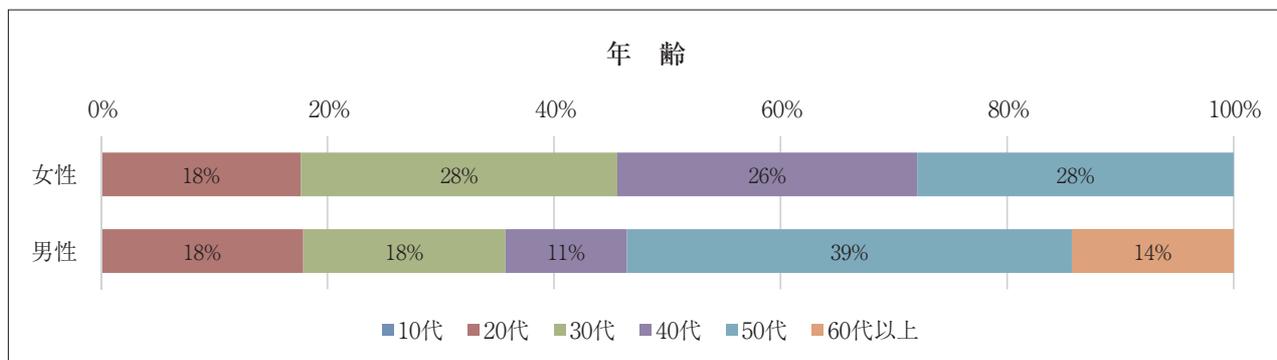
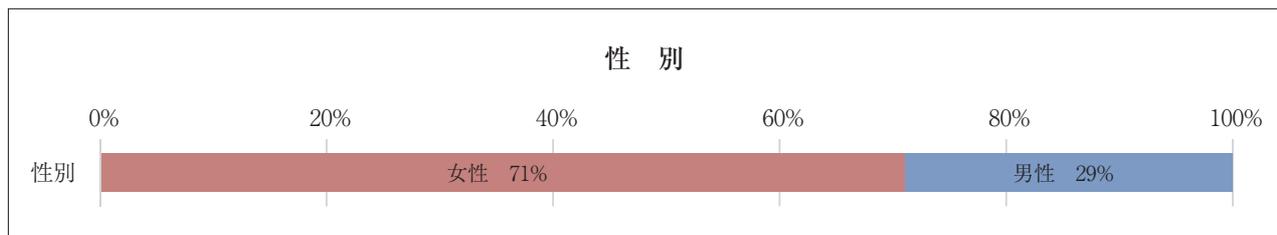
男性による育児をテーマに、大学教授や企業の研究者ら4人のパネル討論もあり、「男性の育児休業取得や時短制度導入がより進んでほしい」などの意見が出た。(等井理)

四国発信！男女の働き方改革

Part1 女性の学び講座Ⅲ - 仕事と生活の両立 -

アンケート結果（ご自身の事について）

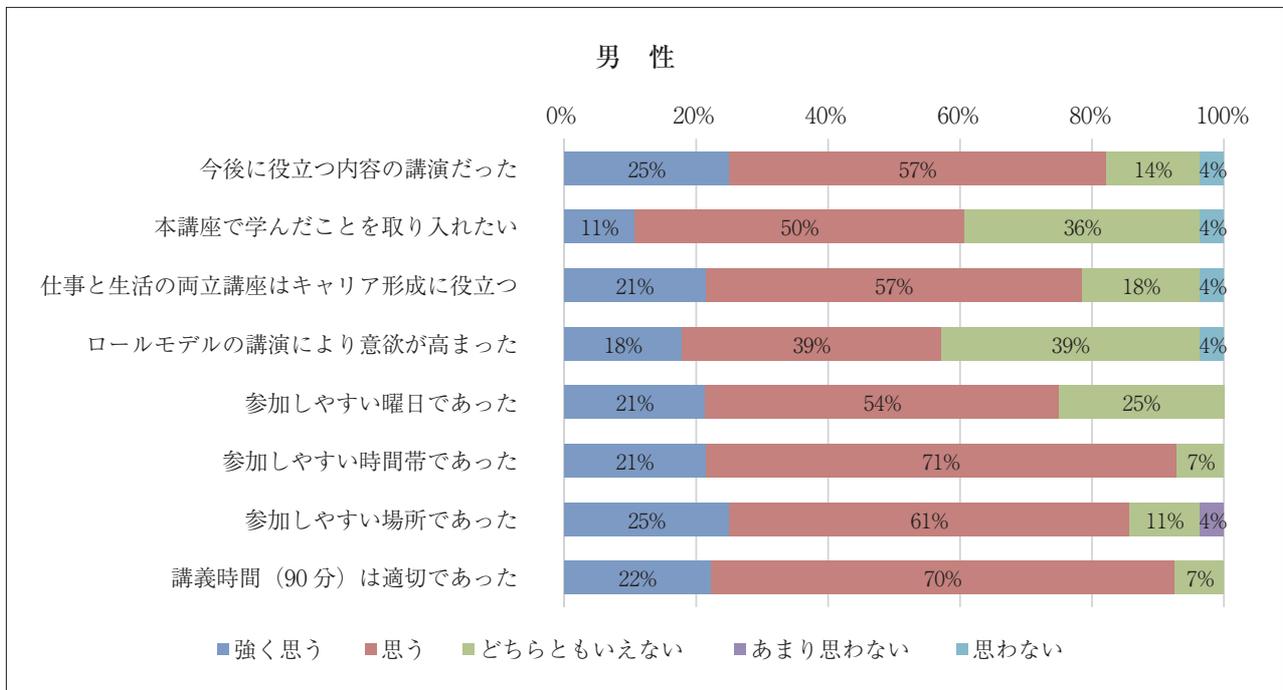
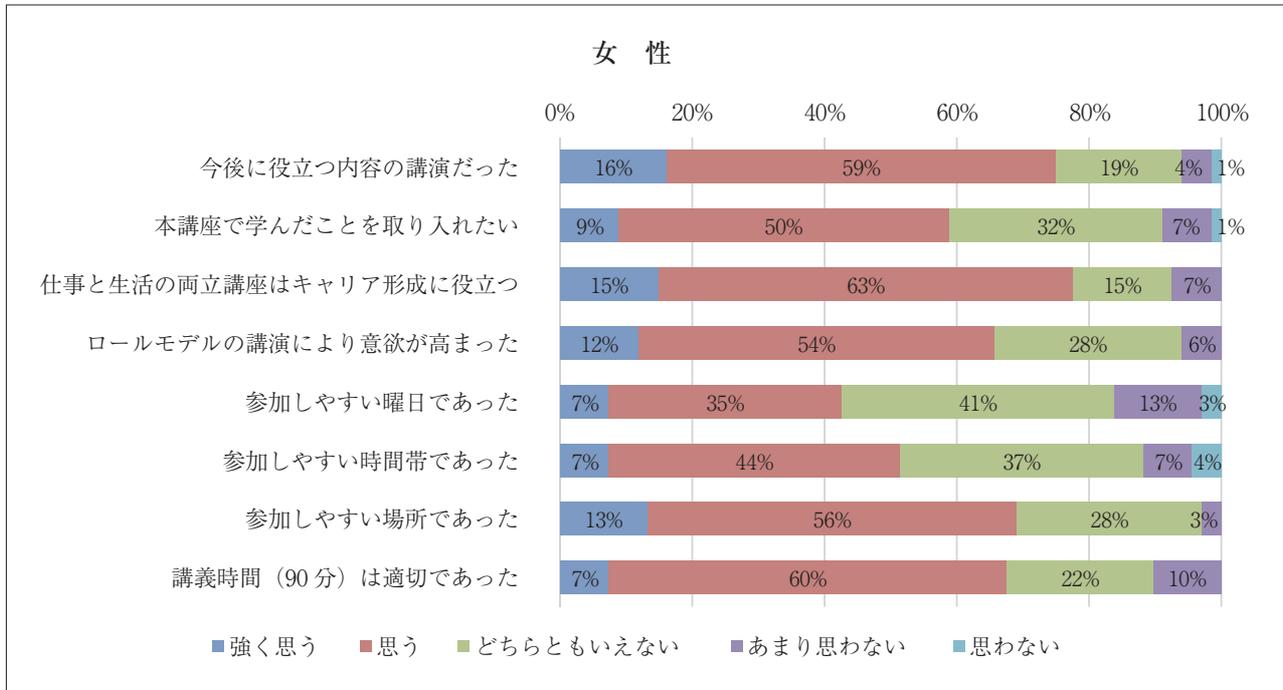
参加者数 161名
回答率 女性：65%
男性：40%



四国発信！男女の働き方改革

Part1 女性の学び講座Ⅲ - 仕事と生活の両立 -

アンケート結果（評価について）



四国発信！男女の働き方改革

Part1 女性の学び講座Ⅲ – 仕事と生活の両立 –

アンケート結果（ご意見・ご感想について）

【女性】

- ・遠距離婚の出産・育児については難しい問題だが、同じ地域で仕事ができるようにするなど解決することで研究成果やキャリアアップにつながると考えられるので、組織として取り組むべきだと思う。
- ・質疑にもありましたように、別居やひとり親での家庭生活や育児について、支援のあり方を考える機会が必要と思いました。
- ・原先生が質疑応答で環境がよかったとあったように、たまたまではなくどこに行っても理解の得られる環境づくりが必要である。
- ・女性（既婚）のキャリア形成を支援する場合、夫の理解が不可欠だと本セミナーで強く思いました。女性だけでなく、男性の意識改革が重要だと思います。
- ・女性にとってキャリアは必要だと思うが、責任をもった分、家庭等に影響がでる可能性がある（家庭の業務は女性がする方がやはりまだ多いため）。国全体の価値観の変革が必要だと感じる。

【男性】

- ・これから女性研究者を目指す大学院生・学部学生がもっと参加できる（する）よう時期や時間帯を考慮しての企画および広報を期待します。
- ・育児後の復職が困難な実を改善すること。
- ・多様な働き方促進のためのシンポジウム、ディスカッションの機会を提供していただけると大学での働き方も少しずつ変わっていくのではないかと期待しています。
- ・働くための環境作りが重要であると感じた。今後配慮すべきと思う。

【研修の意義と評価】

「仕事と生活の両立」をテーマに、研究者夫婦のこれまでの研究と子育て生活についての講演を企画した。本ロールモデル研修は、自身の仕事と生活の両立への意欲を高め、かつキャリア形成に役立つとの高い評価であった。

また、「夫婦で移動・共に雇用は当たり前」という諸外国の認識と、「仕事の為に単身赴任は当然」の日本の現状と課題について改めて理解を深めた講演であった。

【課題と今後の方向性】

診療等で本シンポジウムに参加できず残念であったとの意見もあり、シンポジウムの形式上、講師が多数の場合の日程調整が課題である。

地方転勤を躊躇する要因となる単身赴任や、女性あるいは男性のキャリアの中断を防ぐための夫婦帯同制については、近隣の大学・企業等との連携により実現させたい。

四国発信！男女の働き方改革

Part2 男性育児推進セミナー

男性教職員等を対象に、男性育児推進セミナー（理論・実技）を開催し、男性が仕事も育児や家事も楽しむ働き方の動機づけを行い、男女がともに働きやすい家庭環境づくりを推進する。



細谷 越史 氏
香川大学法学部 准教授



三木 啓史 氏
徳島県県民環境部男女参画・人権課
男女共同参画担当主任



中村 豊 氏
徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授



川添真史郎 氏
大塚製薬株式会社中枢神経疾患研究所研究員

〈コメンテーター〉

大阪市立大学大学院医学研究科
分子生体医学講座 病態生理学 教授
大谷 直子 氏
大阪大学微生物病研究所 環境応答研究部門
遺伝子生物学分野 教授
原 英二 氏

〈ファシリテーター〉

徳島大学副理事・AWAサポートセンター長
葉久 真理

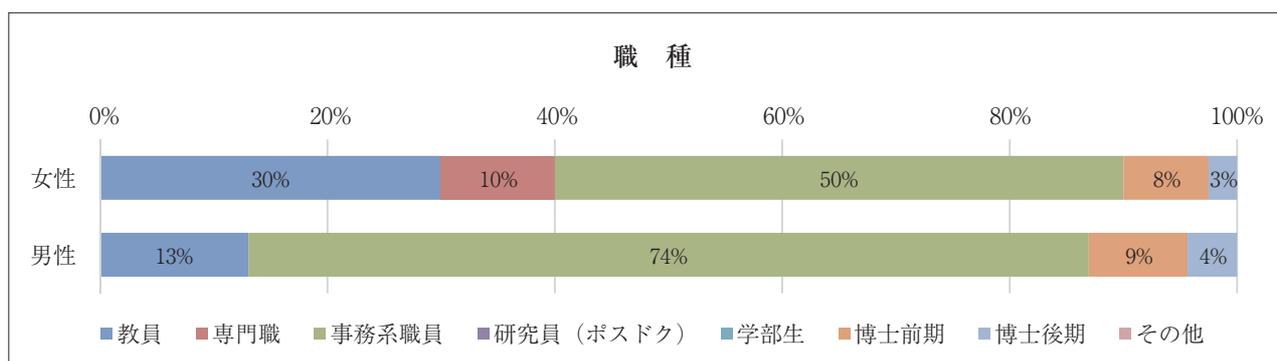
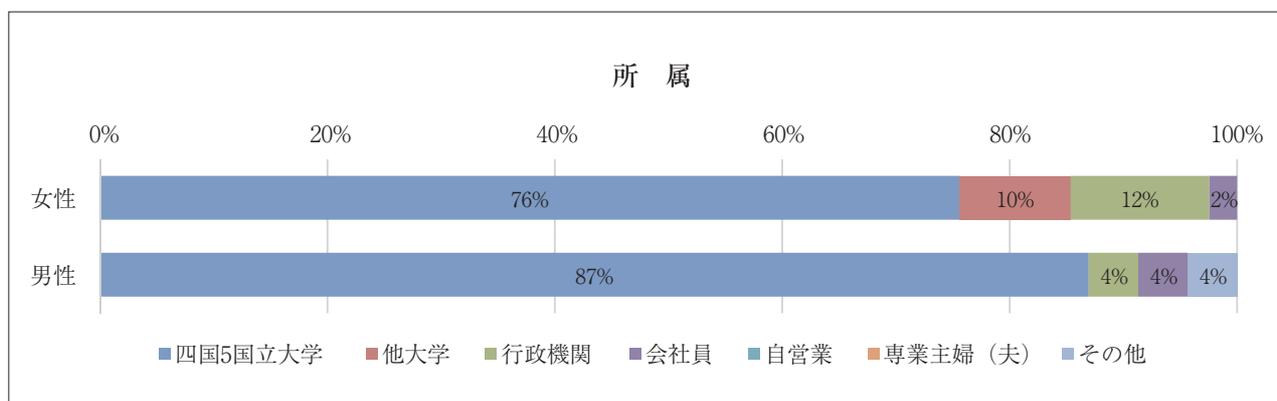
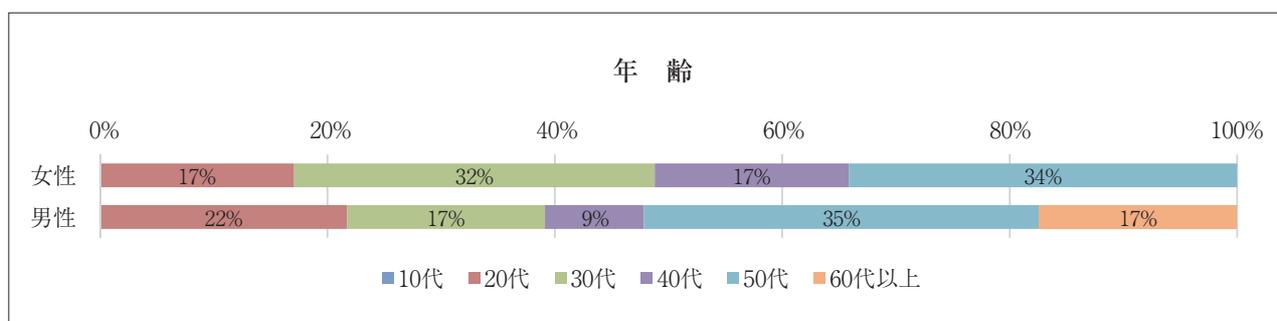
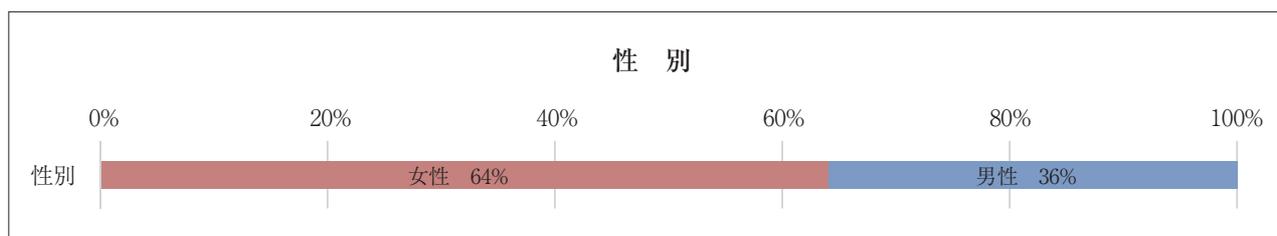


四国発信！男女の働き方改革

Part2 男性育児推進セミナー

アンケート結果（ご自身の事について）

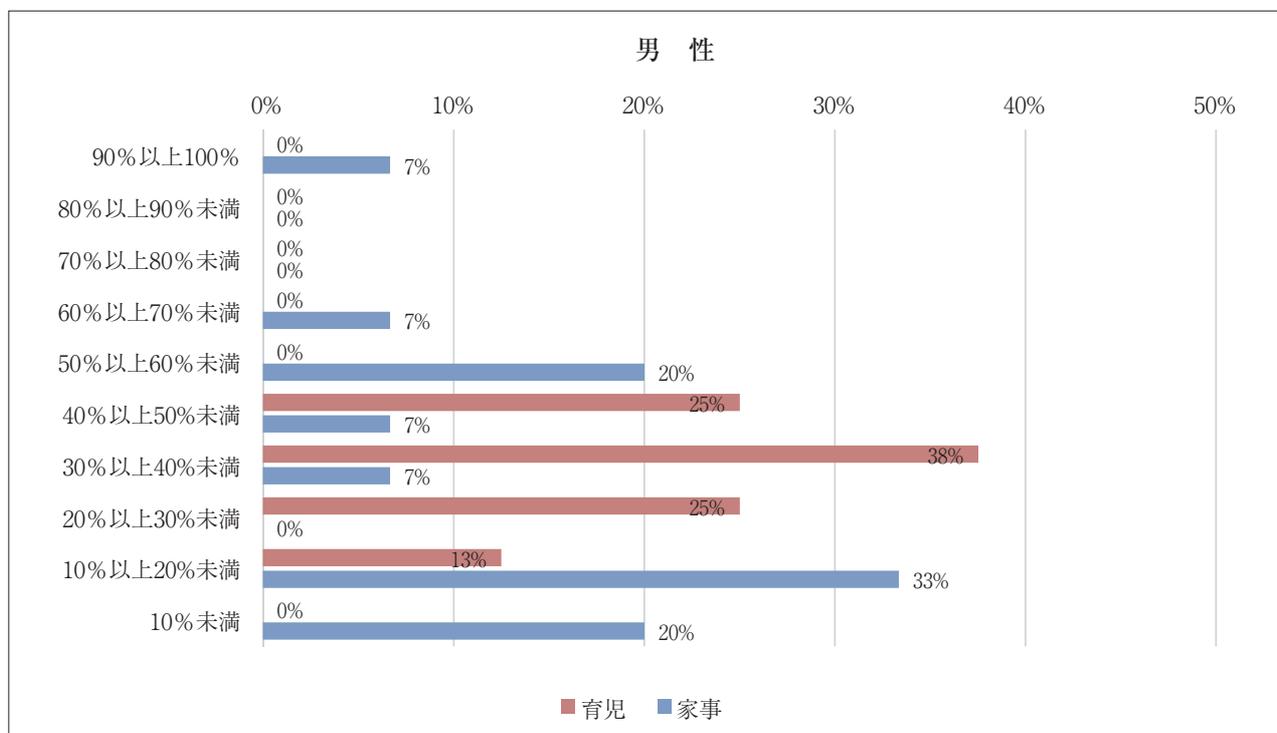
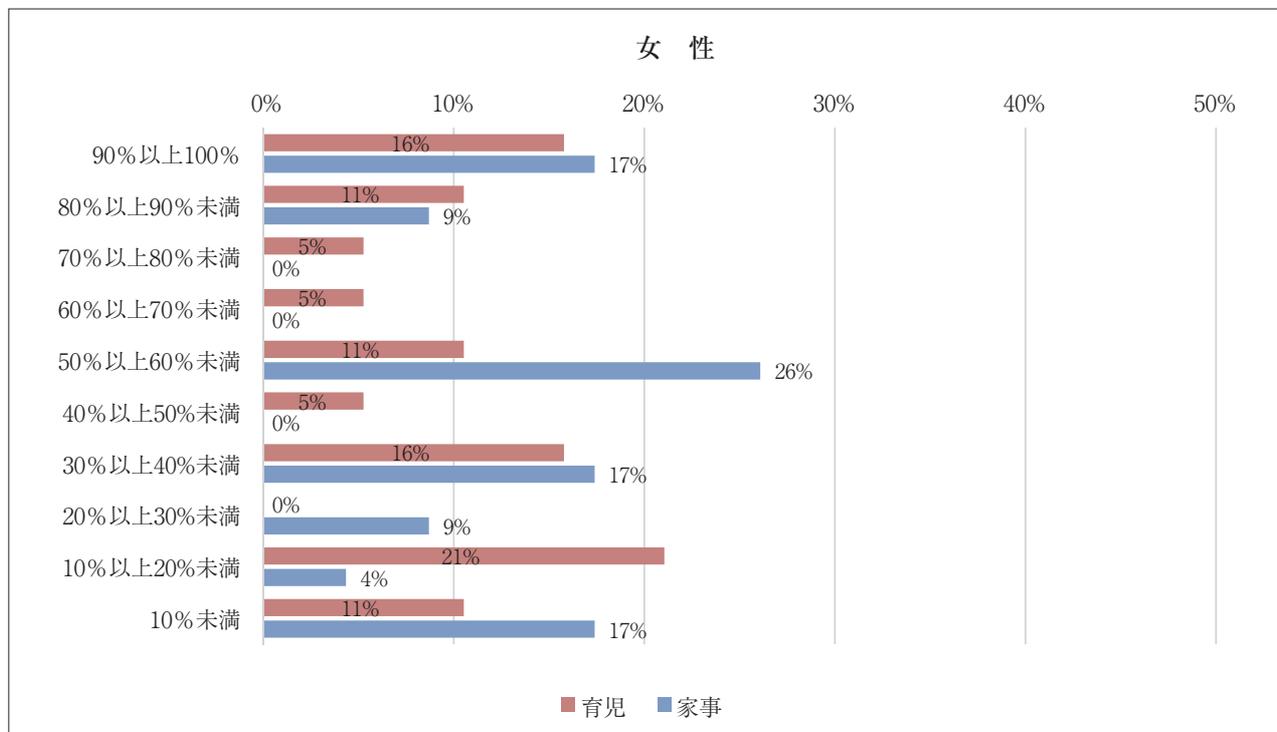
参加者数 161名
 回答率 女性：38%
 男性：43%



四国発信！男女の働き方改革

Part2 男性育児推進セミナー

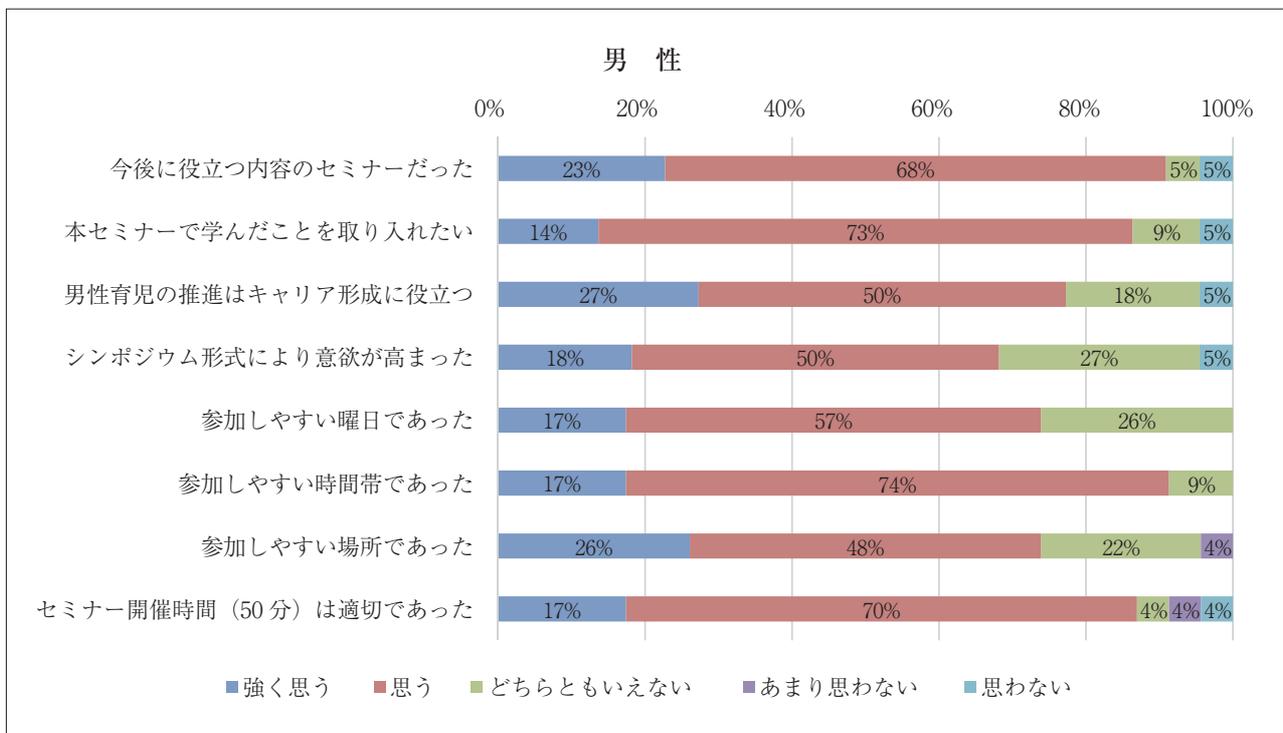
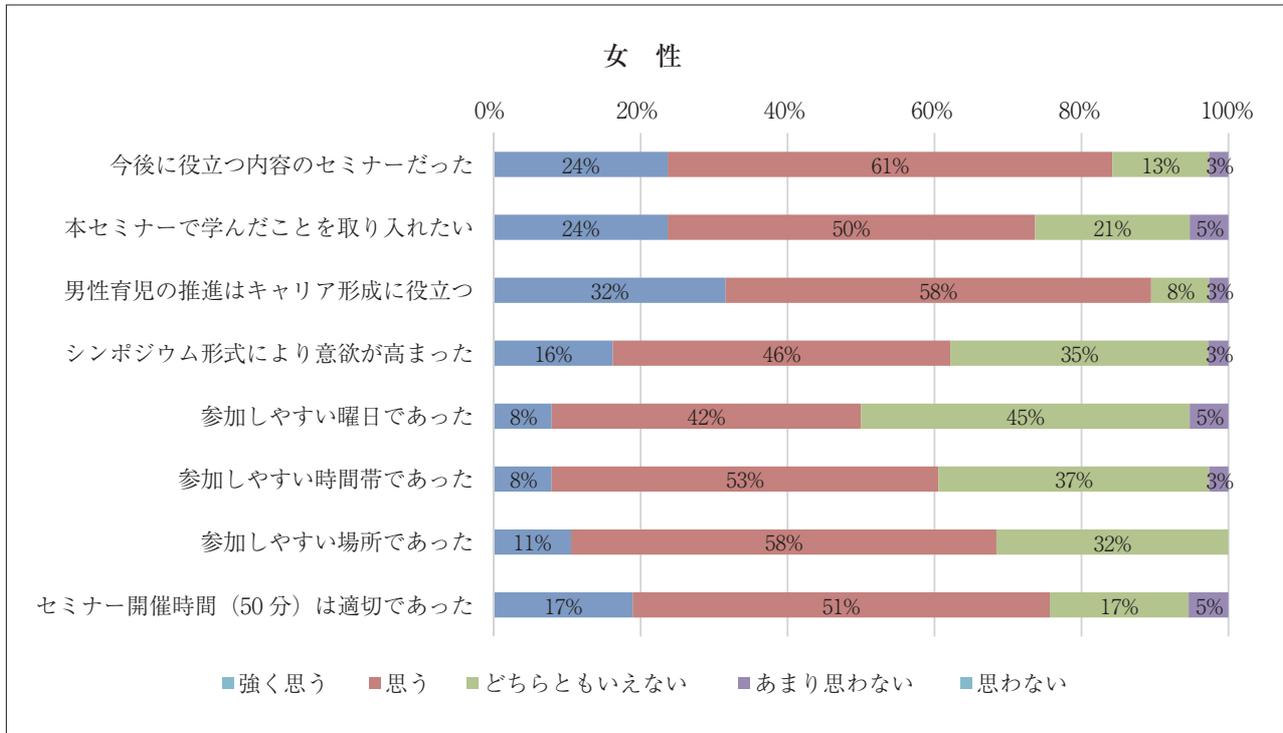
アンケート結果（家事・育児の現状について）



四国発信！男女の働き方改革

Part2 男性育児推進セミナー

アンケート結果（評価について）



四国発信！男女の働き方改革

Part2 男性育児推進セミナー

アンケート結果（ご意見・ご感想について）

【女性】

- ・管理職に就く人に対して、セミナーへの参加を義務化した方がよい。
- ・家族の協力は不可欠なことは当然ですが、負担が他の一部の方に集中することをお互い様の一言ではすまされないので、職場の他の方へ負担が増えることを当然と考えるのは問題と思います。
- ・男性・女性に関わらず、仕事と育児両方に無理なく取り組めたら、キャリア形成にもっとつながると感じた。また、皆が思っているよりも多くの男性が育児・家事を女性と一緒にしていると感じている。若い世代では特に多いと思う。

【男性】

- ・パネルディスカッションは、もう少し時間に余裕を取った方がよいような気がしました。もっと話を聞きたかったと思います。とても参考になりました。
- ・働くための環境作りが大切だと感じた。大学で配慮すべき事項だと思う。
- ・女性が働きやすい環境の職場であることは、大切なことと思います。一方で育休や時短勤務のしわ寄せが男性にいとってしまうと、逆に男性の家事・育児参画が阻害される要因にもなってしまいます。



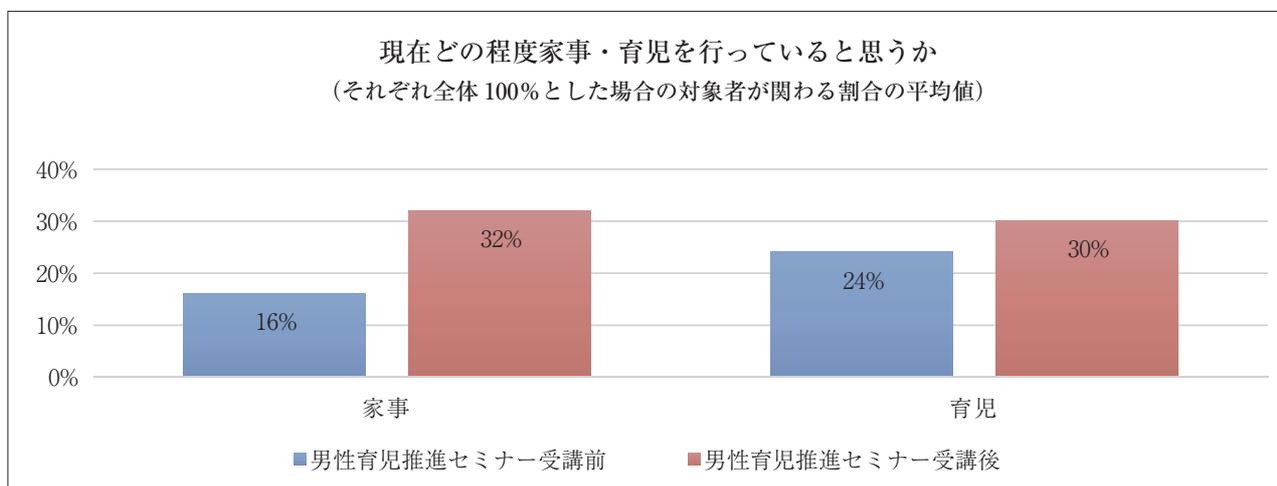
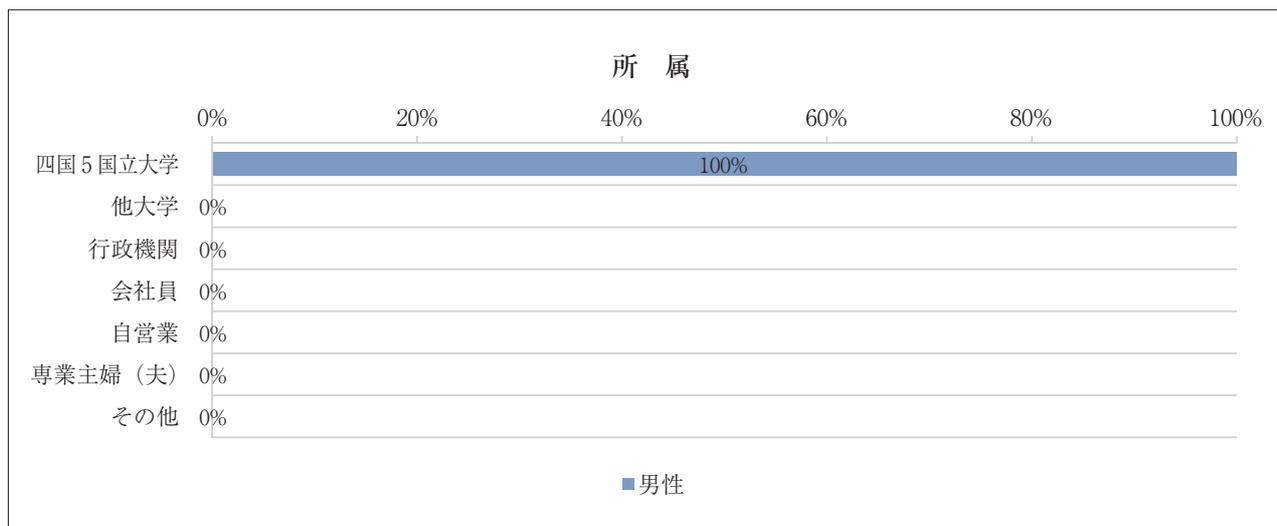
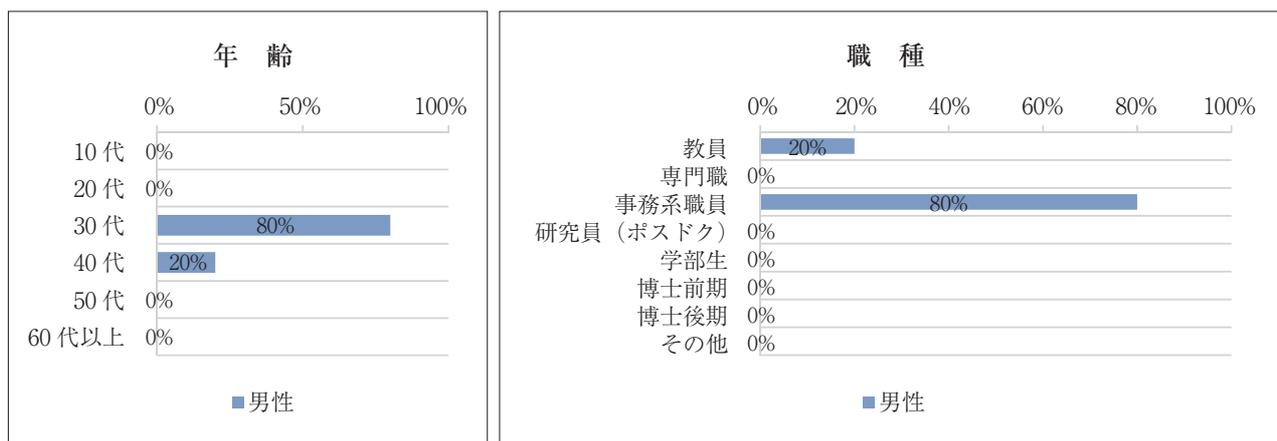
四国発信！男女の働き方改革

Part2 男性育児推進セミナー

追跡アンケート結果（ご自身の事について）

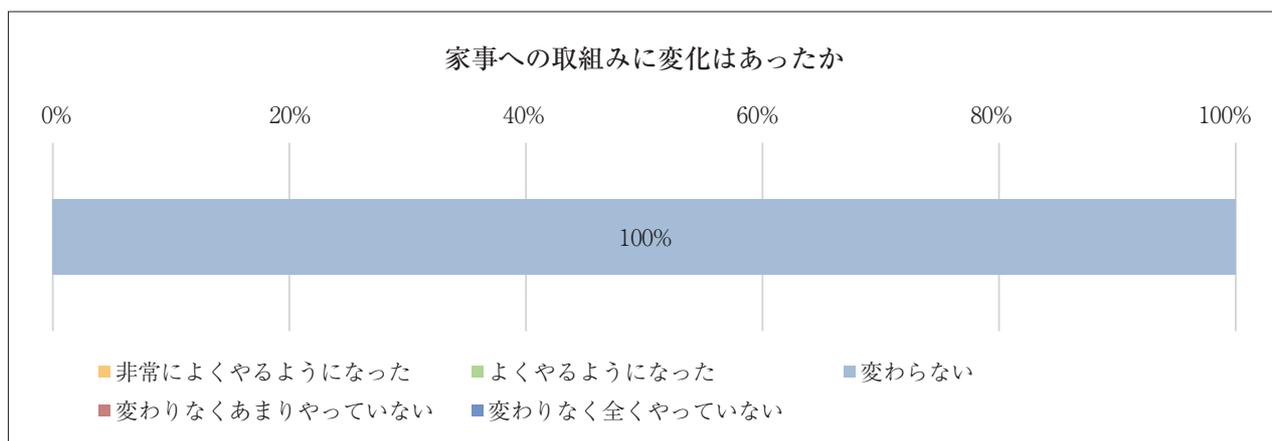
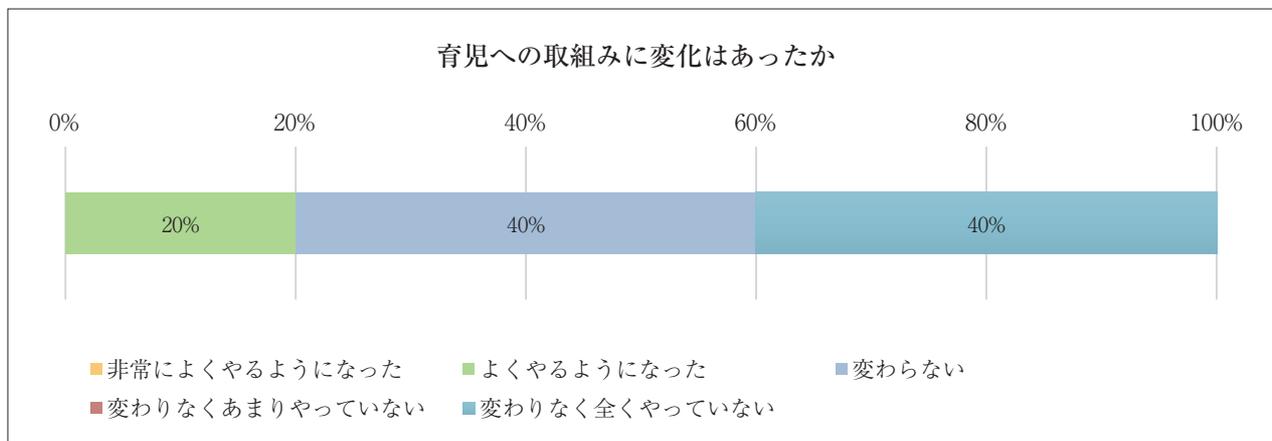
実施日 平成30年1月30日～2月6日

回答率 男性：83%



四国発信！男女の働き方改革 Part2 男性育児推進セミナー

追跡アンケート結果（セミナー受講後の変化について）



【研修の意義と評価】

女性が子育てをしながら学びやすい環境整備の1つとして、「夫」という環境がある。本参加者の夫（男性）自身が認識している育児分担率は、30～40%が13%、20～30%・40～50%が共に9%、家事分担率は、10～20%が22%、10%未満・50～60%が共に13%との回答であった。日本の共働き夫婦の家事・育児分担率は、夫15%、妻85%（0歳の子どもがいる家庭）との報告と大差ない現状である。本セミナーに対するニーズは高く、かつ評価も非常に高く、男性育児の推進は女性のキャリア形成に役立つとの回答であった。

追跡調査は、対象者数が少ないため、評価は避けるべきであるが、男性育児に関するロールモデル研修は、女性が学びやすい環境整備に貢献すると言える。

【課題と今後の方向性】

もっと話を聞きたかったという意見が聞かれ、パネルディスカッションの時間配分の課題がある。また、育児・家事の具体的な方法を学びたいという意見も聞かれた。

これから父親となる男性には、具体的な家事・育児の方法や男性同士で集まり話し合える場も必要であると考えます。

これまで、母親となる女性を対象とした講座や支援が展開されてきたが、男女共同参画に向けて女性、男性それぞれの特性・状況に配慮した支援の検討が必要である。

女性の学び講座Ⅳ データ解析セミナー ～臨床研究を紐解く統計学～

開催日時 平成30年1月16日(火) 18:00～19:30
 会場 大塚講堂小ホール(徳島市蔵本町3丁目18-15)
 参加者数 91名(女性 55名) 一時預り保育 お子様5名利用



大阪市立大学大学院医学研究科
 医療統計学
 教授 新谷 歩氏

本講座は、文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、データ解析に必要な統計手法を学び、妥当な統計手法を用いた信頼される研究成果を発表していくことにより、地域・企業との共同研究の活性化と今後のキャリア形成に繋げていくことを目的として、実施しました。



平成29年度第10回研究力推進セミナー
 文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」
女性の学び講座Ⅳ
データ解析セミナー
臨床研究を紐解く統計学

無料
託児あり
申込締切
1/12(金)

文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、女性の学び推進役としてデータ解析セミナーを開催いたします。講演では、研究者が知りやすいポイントについて、数式は一切無し、基本からわかりやすく、実践に役立つ多数の統計コンセプトを紹介いたします。

日時 2018. **1.16** [火] 18:00 - 19:30

場所 大塚講堂 2階小ホール(徳島大学蔵本キャンパス)

講師 しんたけ あゆみ
新谷 歩氏
 大阪市立大学 大学院医学研究科 医療統計学 教授

ご聴取 2000年 東京医歯学大学博士課程修了
 2001年 - 2007年 ワシントン・セントルイス市 医療統計学 助教授
 2007年 - 2014年 ワシントン・セントルイス市 医療統計学 准教授
 2014年 - 2018年 大阪大学大学院医学研究科 医療統計学 准教授
 2018年(1月)現在 大阪市立大学大学院医学研究科 医療統計学 教授
 国立がん研究センター がん予防・検診部 部長
 徳島大学 学務部長、徳島県立徳島大学 学務部長、徳島大学 学務部長

本学専門誌「JGIM」に数回寄稿し、統計学、シビック、倫、倫理、医療倫理、医療統計学に関する論文の執筆・編集、徳島県立がんセンターに数回寄稿し「JGIM」を編集。徳島県立がんセンター 2017年度 医学研究力向上コンファレンスの総括委員に就任。2017年ワシントン・セントルイス市 医療統計学 助教授のポストを受任。
 著書に「がん研究の基礎知識」、「がんの基礎知識 がん検診編」がある。最近では米国がん研究センターを掲載した「がんの基礎知識」の編集に協力している。
 米国 Washington State University である、夏山シムラヒト博士 Summer Therapeutic Research Institute (STRI) の共同創設者、国立がん研究センターがん予防・検診部 部長に就任している。

対象 教職員・大学院生・学生・一般(男性参加可)
 ※西国5国立大学・連携機関(他大学・企業・行政機関等)

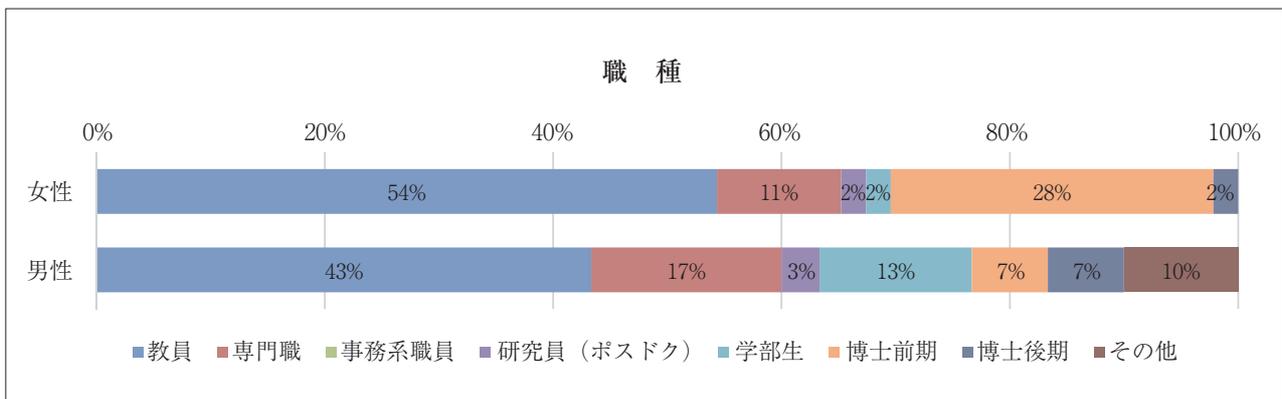
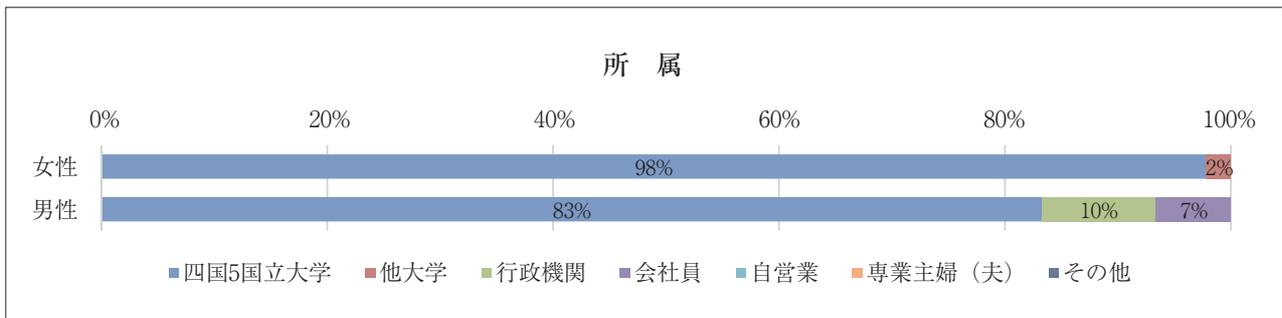
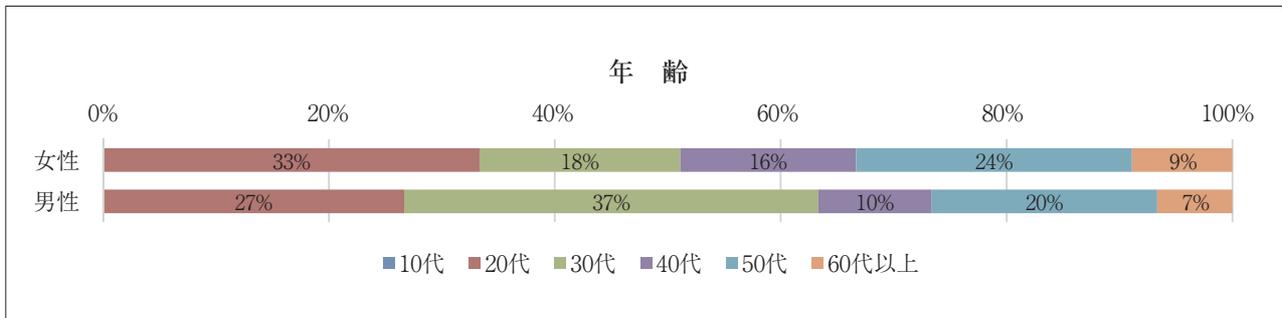
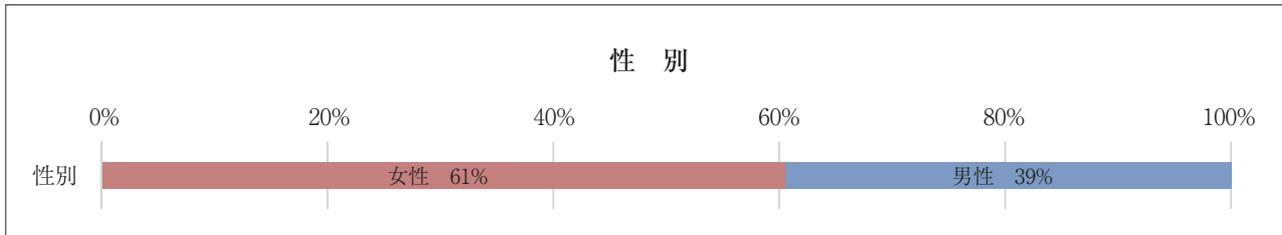
お申込 **参加費無料 申込締切1月12日(金)**
 最新の情報はこちらのメールにて、お名前、性別、お申込の人数、1月12日(金)まで大阪府立大学 AWA 学務センターまでお申し込みください。

お申込/お問合せ先 徳島大学 AWA 学務センター
 〒770-8502 徳島県徳島市蔵本町 3-18-15 (徳島県徳島)
 TEL:089-833-7338 FAX:089-833-7332
 E-mail:awa@wakai-u.ac.jp
 URL: http://www.wakai-u.ac.jp

女性の学び講座Ⅳ データ解析セミナー ～臨床研究を紐解く統計学～

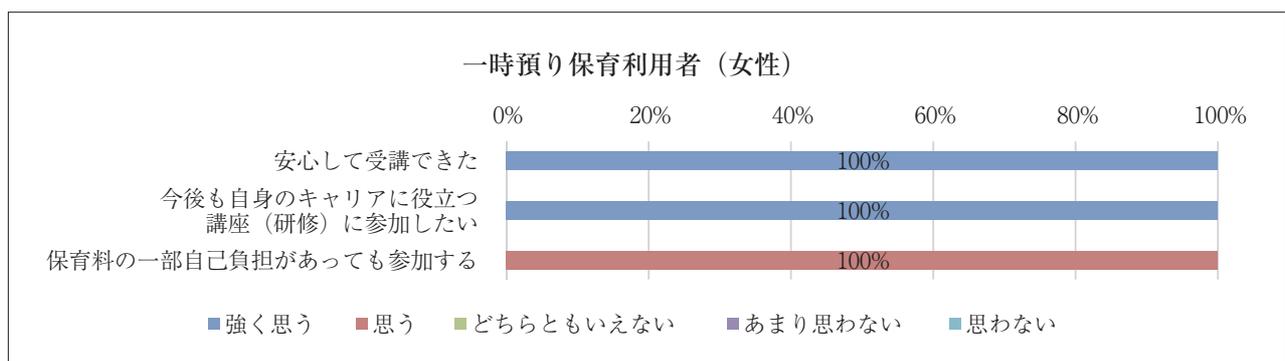
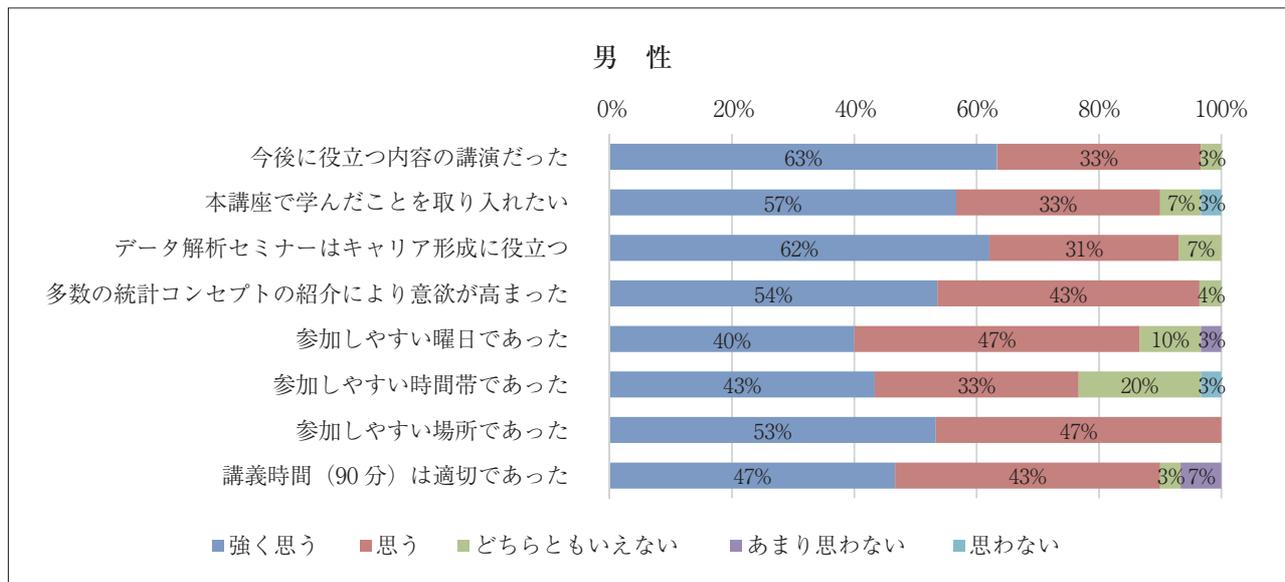
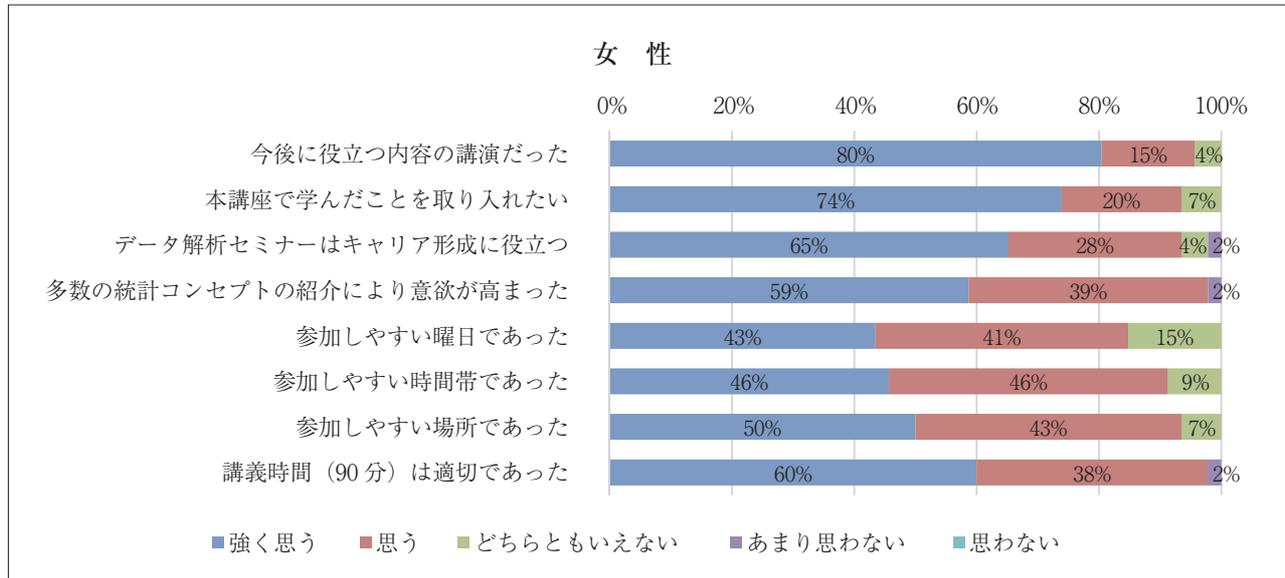
アンケート結果（ご自身の事について）

参加者数 91名
 回答率 女性：84%
 男性：83%



女性の学び講座Ⅳ データ解析セミナー ～臨床研究を紐解く統計学～

アンケート結果（評価について）



女性の学び講座Ⅳ

データ解析セミナー ～臨床研究を紐解く統計学～

アンケート結果（ご意見・ご感想について）

【女性】

- ・非常にわかりやすく、かつ知りたい情報を効率よく学べました。もっと学びたいので早速著書を購入します。
- ・モチベーションの向上につながった。
- ・シリーズの展開+eラーニングとしていただければ、参加できない人も受講できるのでは。
- ・とても分かりやすく説明していただき、理解が深まりました。とても有意義なセミナーでした。
- ・スライドを配布してほしかったです。
- ・研究の視点で基本的な講座を開講してほしい。
- ・統計学についてまたやってください。基本的な内容でいいです。どのレベルの内容かをお知らせしてください。

【男性】

- ・とてもわかりやすかったです。
- ・p値について理解できた。誤解していたので、改めて勉強したいと思う。
- ・大変参考になりました。

【研修の意義と評価】

女性のキャリアアップとして統計の学びへのニーズが高かった。対象のレベルを初級から中級として基本から解りやすく、具体的な論文作成（統計表現）までを提示しながらの講演であり、理解度・評価が非常に高かった。

【課題と今後の方向性】

統計手法は多岐にわたり、医療系、社会系、理工学系など領域によって、よく用いられる手法は多少異なる。統計手法とレベルを定めるのは難しいが、シリーズ化することによる長期的展開を検討し、その内容をあらかじめ提示することで（シラバス化）、データ収集、論文作成に大いに役立つものになると考える。又、eラーニング化により、学びの振り返りや時間を問わず学び続ける事が可能になる。

女性の学び講座V 女性リーダー研修 ～指導力向上編～

開催日時 平成30年1月23日(火) 18:00～19:30
 会場 大塚講堂2階小ホール (徳島市蔵本町3丁目18-15)
 参加者数 41名 (女性 39名) 一時預り保育 お子様5名利用



株式会社インソース
講師 糠塚 淳氏

本講座は、文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、社会・大学・企業等の女性リーダーとして求められるスキルを学び、キャリア形成に向けてモチベーションの向上を図ることにより、女性リーダーの育成を目的として、実施しました。



文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」
女性の学び講座V
女性リーダー研修★指導力向上編

無料 託児あり 申込締切 1/18[木] 本講座は、文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、社会・大学・企業等の女性リーダーとして求められるスキルを学び、キャリア形成・発達に向けて、モチベーションの向上を図ることにより、女性リーダーを育成することを目的としています。

日時 2018. **1.23** [火]
18:00 - 19:30

場所 大塚講堂2階小ホール (徳島大学蔵本キャンパス)

講師 高木つが あつし
糠塚 淳氏
 株式会社インソース講師

●担当企業：産学連携、リーダーシップ研修、研修企画、研修企画・研修センター、キャリア形成、キャリア形成センター、キャリア形成、キャリア形成センター、キャリア形成センター

内容

1. リーダーとは何か	2. リーダーとしての Must スキル～指導力
(1) 女性リーダーの必要性	(1) 業務執行の能力
(2) 期待を受け入れる	(2) 展示した内容を理解する
(3) 期待すべし事を考える	(3) 報告・相談を受ける
(4) 結果を導く意思	(4) 結果的な能力
(5) リーダー像はひとつではない	(5) 「見る」ということの理解
(6) 自らの経験すリーダー像を整理する	(6) 価値とパフォーマンスの違い
(7) リーダーとして展開しておくべきスキル (Must スキル)	(7) 半年未満の駆け出しの方

3. まとめ
 質疑応答

対象 教職員・大学院生・学生・一般 (男性参加可)
 ※西国5国立大学・連携機関 (他大学・企業・行政機関等)

申込 参加費無料 (定員50名程度:先着順) 申込締切1月18日[木]
 募集の申込書はmailに所収、所属、職名、性別、志願を記入の上、下記の徳島大学AWAサポートセンターまでお申し込みください。

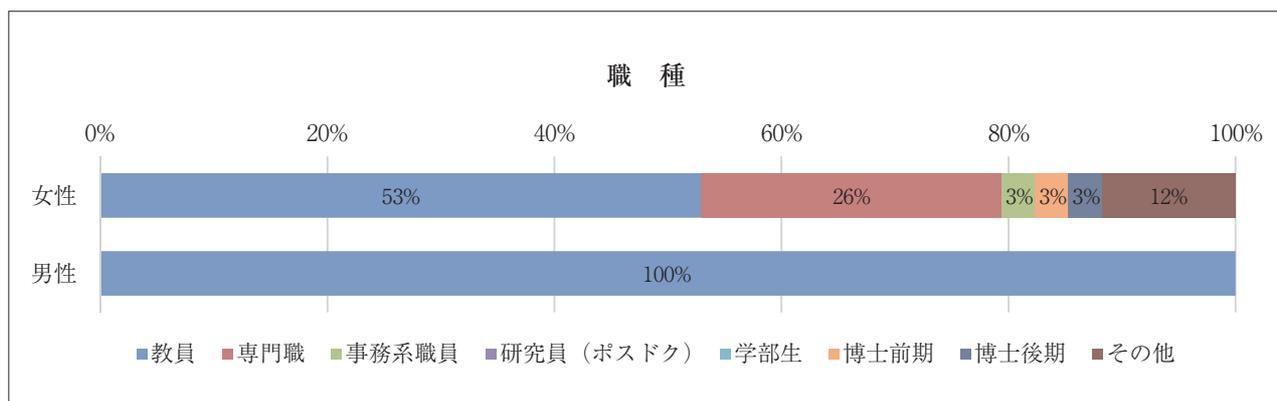
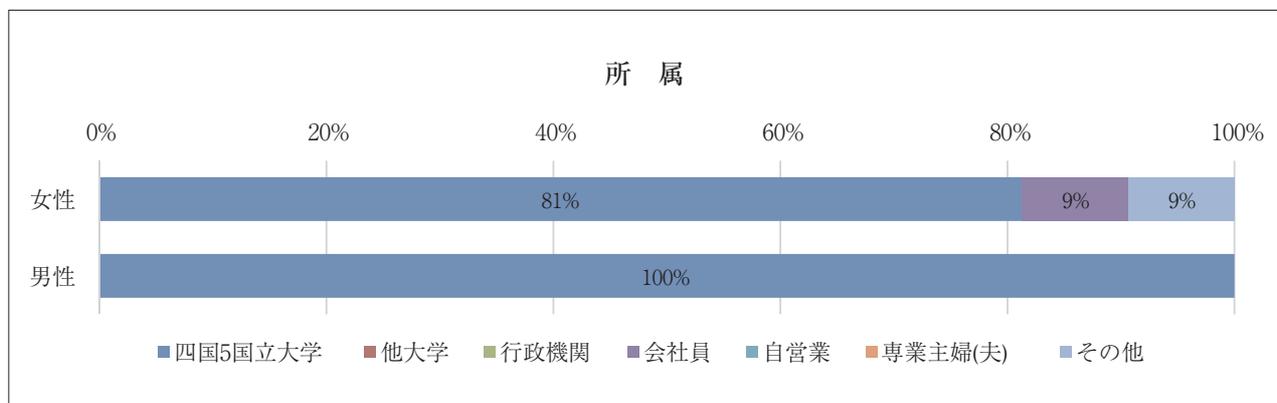
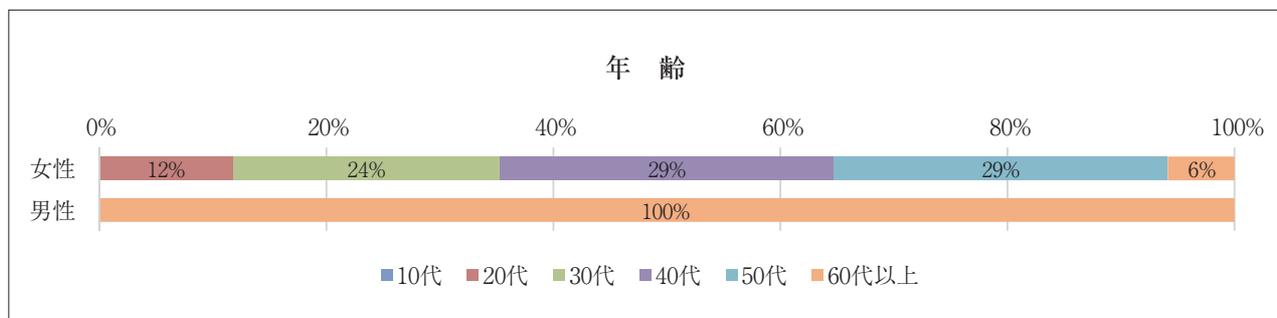
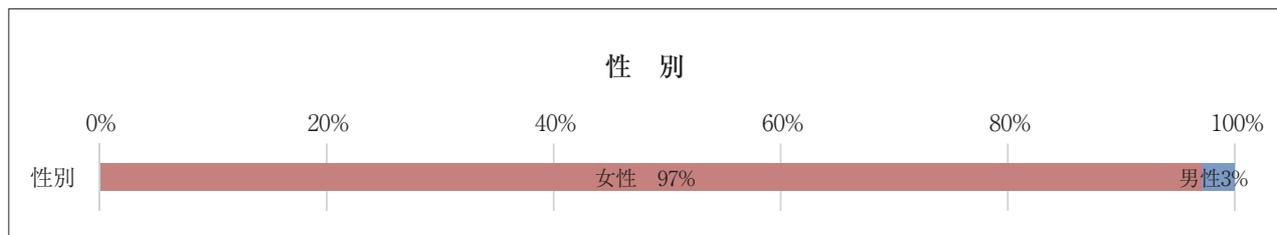
お申込/お問合せ：徳島大学 AWA サポートセンター
 〒770-8503 徳島市徳島本町3-18-15
 Tel: 0876-633-7539 Fax: 0876-633-7572
 E-mail: awa@kaiyodai.ac.jp
 URL: http://www.awasupport.kaiyodai.ac.jp

女性の学び講座V

女性リーダー研修 ～指導力向上編～

アンケート結果（ご自身の事について）

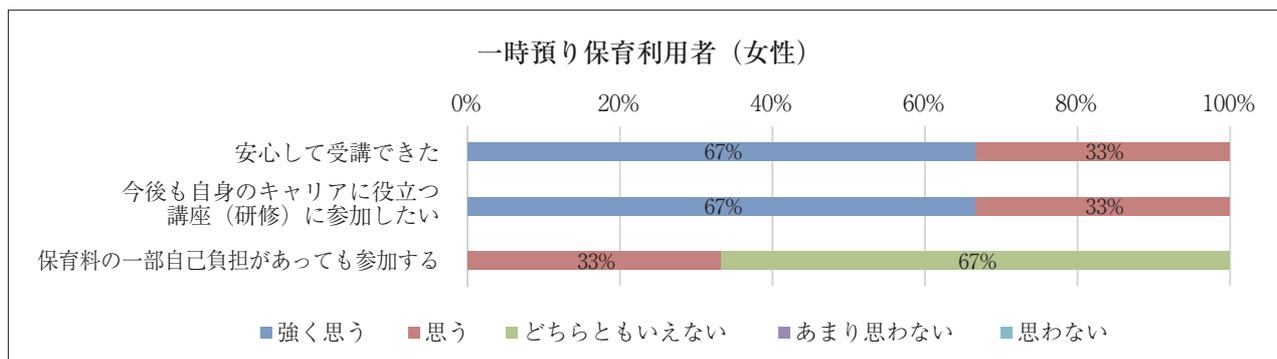
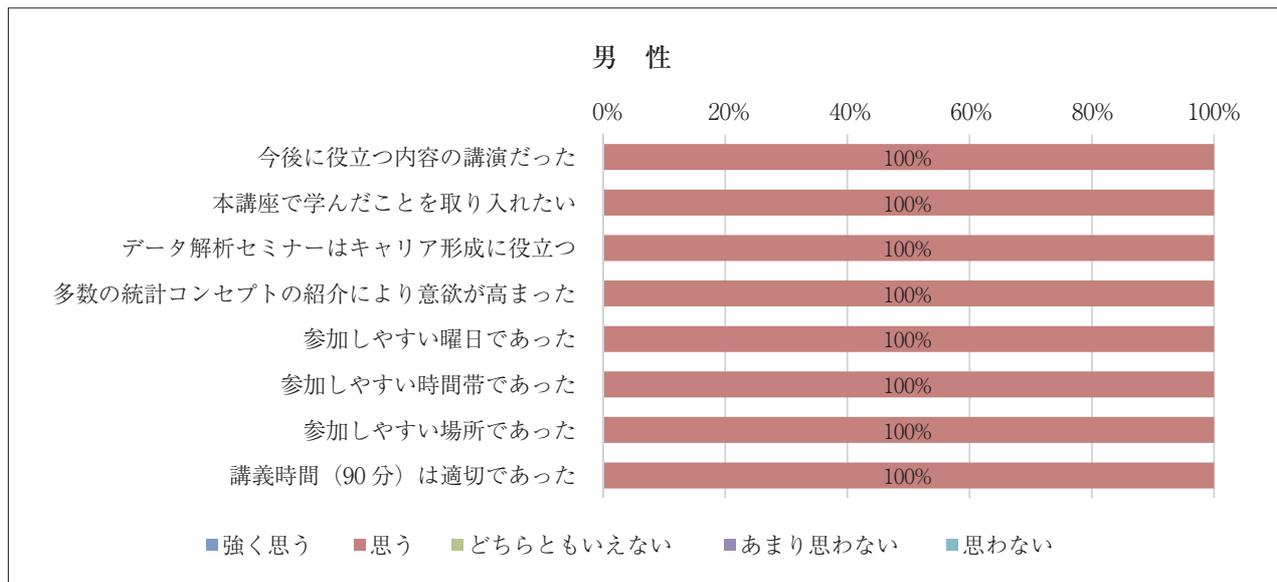
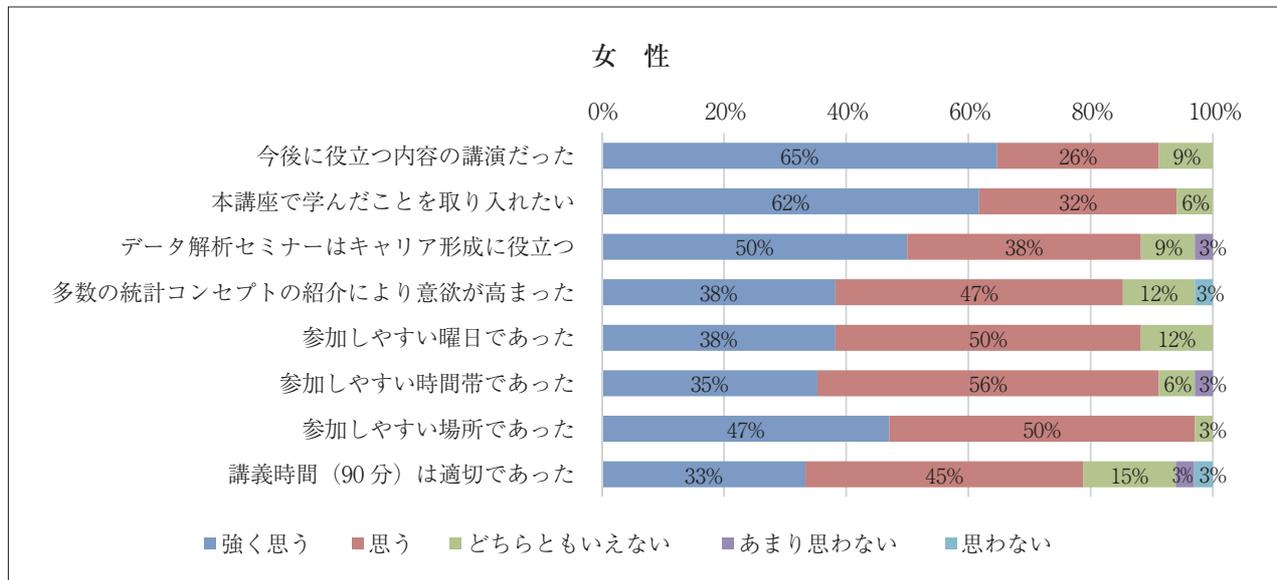
参加者数 41名
 回答率 女性：87%
 男性：50%



女性の学び講座V

女性リーダー研修～指導力向上編～

アンケート結果（評価について）



女性の学び講座V 女性リーダー研修～指導力向上編～

アンケート結果（ご意見・ご感想について）

- ・女性リーダー、女性のキャリア開発としてシリーズで行っているのはとてもよい企画だと思う。今後も続けていただきたいと思う。
- ・リーダーということ意識しすぎずに自分の成長と思えたことがよかったです。ありがとうございました。
- ・このような話が聞けて大変勉強になりました。今後もリーダー研修を続けてください。
- ・保育料が無料だと参加しやすい。やっぱり子育て中は子供にお金がかかるので。
- ・女性らしさを生かせるか、自分にあまりなくても自分らしくあってもよいとわかった。
- ・男性にも聞いていただけたらと思いました。
- ・いろいろな人材能力を生かしていくために、自分のあり方も見つめていきたい。
- ・タイトルと内容が一致しているかわからなかった。
- ・男性上司が多く、男性が女性に対して理解を深めないやはり先はないと思う。
- ・後日資料をいただけるだけでも活用したい。希望者への資料の配布
- ・キャリアとして認められるような視点を公開することで動機づけになると思う。

【研修の意義と評価】

女性リーダー研修では、現在リーダー役割を担っている人やこれからリーダーとなる人を対象に、リーダーに求められるスキルと、自己効力感を高めるための方策についての学びを実施した。リーダー研修もニーズの高い研修であり、広く対象を設定したことから参加者は多かったが、そのため講演内容が広く浅いものとなったように思われる。

【課題と今後の方向性】

他部署で行われているリーダー研修は、数時間をかけて演習を取り入れ、集中してじっくり学ぶ方法が見られる。学びと子育て支援という視点からは、1日当りの学ぶ時間の配慮が必要であり、短時間の学びを積み上げる方法で検討していきたい。

女性の学び講座VI

メディカル系英文ライティング（セミナーのレベル：初級～中級）

開催日時 平成30年2月6日(火) 18:00～19:30
会場 大塚講堂2階小ホール（徳島市蔵本町3丁目18-15）
参加者数 36名（女性 24名） 一時預り保育 お子様4名利用



公益社団法人日本工業英語協会
専任講師 徳田 皇毅 氏
工業英検1級取得実務翻訳者

本講座は、文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、グローバル時代の社会・大学・企業、そして女性が求めるキャリア形成を支援するために、シリーズ第2弾として開催いたします。第2回目は、正確、明確、簡潔な論文執筆の技法を中心に、自身の論文・論理構成を振り返りながら英語力のブラッシュアップを図るとともに、学生等の論文指導にも役立たせることを目的として、実施しました。



平成29年度第11回研究力伸張セミナー
文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」
女性の学び講座VI

原稿 託児あり 申込締切 2/1

本講座は、文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託を受けて、グローバル時代の社会・大学・企業、そして女性が求めるキャリア形成を支援するために、論文の読解や執筆を中心に、英語力のブラッシュアップを図るとともに、学生等の論文指導にも役立たせることを目的としています。

メディカル系英文ライティング

2018.2.6 [火] 18:00 - 19:30
大塚講堂2階小ホール(徳島大学蔵本キャンパス)

講師 徳田 皇毅 氏 公益社団法人日本工業英語協会 専任講師/工業英検1級取得実務翻訳者

対象 教職員・大学院生・学生・一般（男性の参加可）
※四国5国立大学・連携機関（他大学・企業・行政機関等）

概要 3Cに基づいた
メディカル系英文ライティング
メディカル系の例文

お申込 参加費無料 (定員70名超額) 申込締切2月1日[木](当日締切可)
郵送の申込書または姓名、所属、職名、性別、学年をご記入の上、〒760 E-mailまたはFaxにて、徳島大学AWAサポートセンターまでお申し込みください。

お申込/お問い合わせ：徳島大学AWAサポートセンター（申込担当課）
〒770-8502 徳島県徳島市蔵本町3-18-15
TEL：089-432-7539 E-mail：awasupport@ipc.uac.jp

女性の学び講座VI

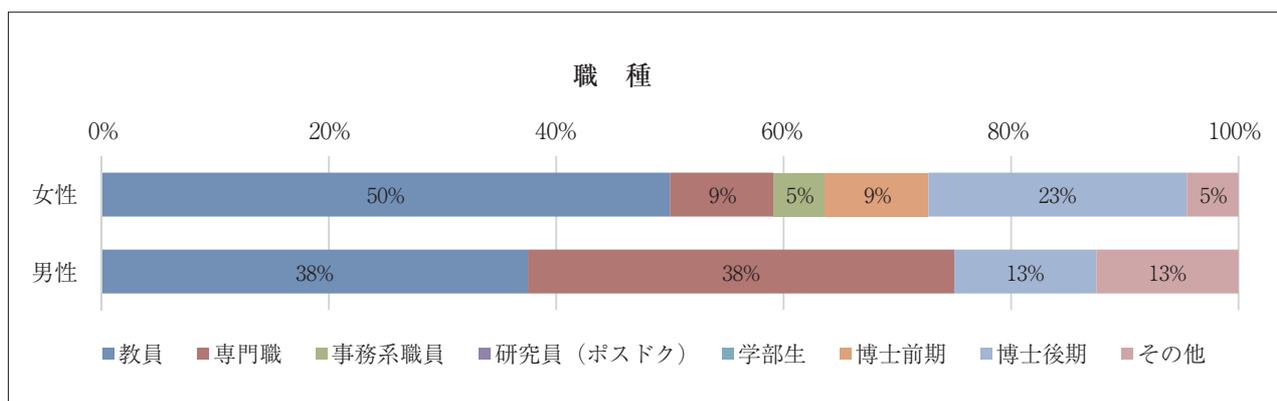
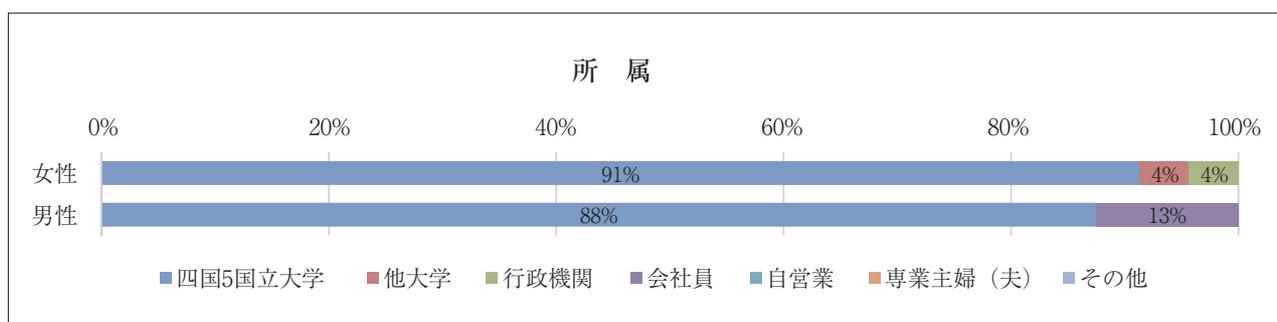
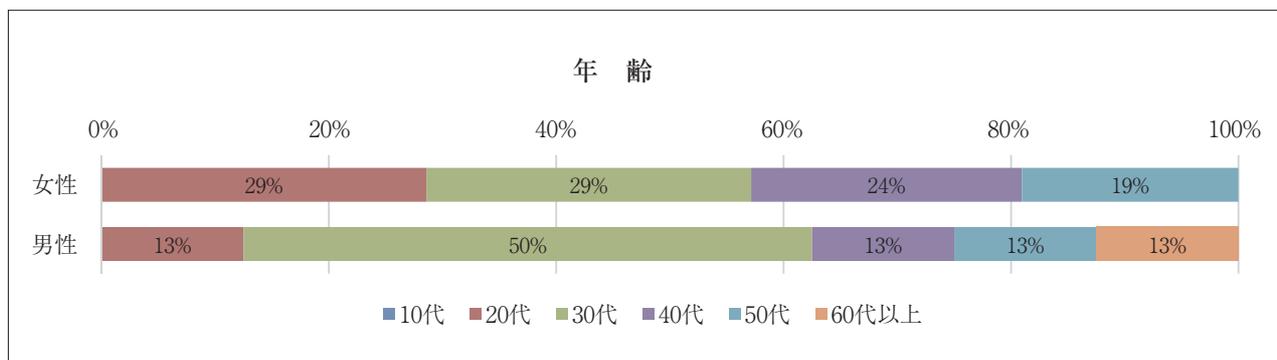
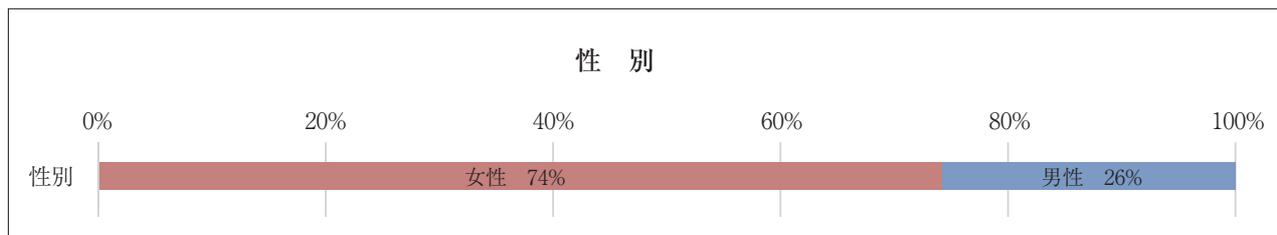
メディカル系英文ライティング（セミナーのレベル：初級～中級）

アンケート結果（ご自身の事について）

参加者数 36名

回答率 女性：85%

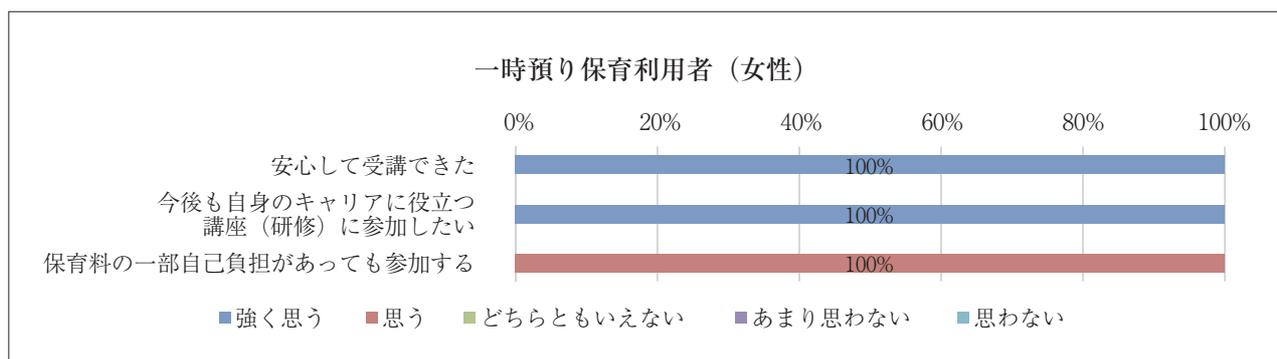
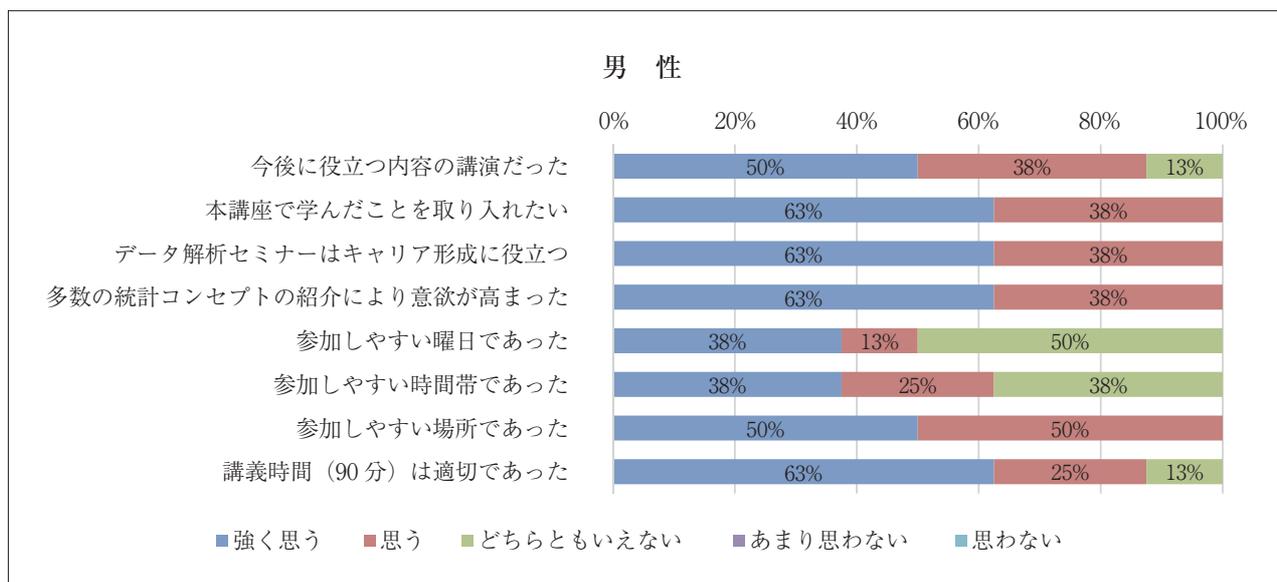
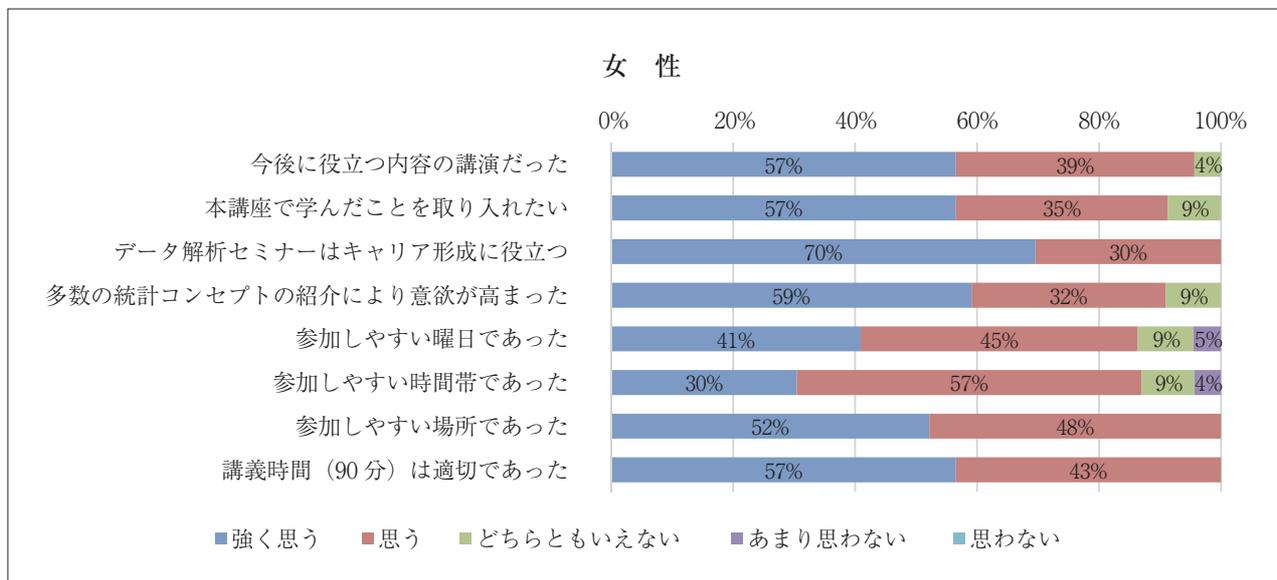
男性：89%



女性の学び講座VI

メディカル系英文ライティング（セミナーのレベル：初級～中級）

アンケート結果（評価について）



女性の学び講座VI

メディカル系英文ライティング（セミナーのレベル：初級～中級）

アンケート結果（ご意見・ご感想について）

- ・日本語を直訳で英語にしないので、日本語をかみくだいて英語にする方法が知りたかったです。
- ・また英語の研修をお願いします。
- ・前回に引き続き2度目の参加でしたが、大変わかりやすい内容でした。ぜひシリーズ化していただきたいです。
- ・添削などをうける機会があるとよいと思っております。（和文英訳は高額であるため）
- ・非常に勉強になりました。シリーズ化を期待します。また受講したいです。
- ・解説つきで分かりやすかったです。
- ・とても勉強になりました。今日のことを日常でも注意して使っていきたいです。
- ・あらかじめ冊子をいただけたら、少し（ゆっくり）考えられるかなと思います。
- ・英語のつづりが大きい文字だと見えやすかったかと思えます。
- ・非常にわかりやすく実践的で早速論文執筆に取り入れたいと思います。
- ・一時保育があり本当に助かりました。

【研修の意義と評価】

学びIIのパート2の開催であった。評価が非常に高く、参加者のレベルにあった内容となっていた。

【課題と今後の方向性】

シリーズ化に向けて、対象者のレベル設定、開催期間と間隔、到達目標・成果目標の設定などを検討し、一時預り保育を常設して取り組んでいく。

長期休暇時の幼児・学童保育の開設 徳島大学 AWA サポートセンター 冬休み Kids Club

開催日時 平成29年12月25日(月)～12月27日(水) 7:30～18:00
 会場 蔵本会館2階 多目的室1・4 (徳島市蔵本町3丁目18-15)
 参加者数 お子様 計47名 (保護者数 計38名)

Schedule

7:30 OPEN ～宿題タイム～
 9:50 English Time ～英語であいさつしよう～
 10:00 Activities① [Program on the day]
 ※内容は日によって異なります。
 12:00 Lunch Time
 13:00 Study Time、Story Time、Free Play
 15:00 Snack Time
 15:30 Activities② [Playing Game]
 ※内容は日によって異なります。
 16:30 Free Play
 18:00 CLOSE

女性の学びを促進する要因は、子どもであると捉え、子どもたちが親の職場内で遊びや学びを通して楽しく豊かな時間を持つための保育環境整備の1つとして、冬休み Kids Club (幼児・学童一時預り保育) を開催した。

□企画内容□

12月25日 クリスマス会 19名

カップケーキをかわいくデコレーションします。

クリスマスツリーを作ったら、キラキラの星で飾りつけ。イチゴのサンタ、マシュマロのオラフも飾ってみよう！クリスマスのゲームをして、一日クリスマスを楽しもう！

12月26日 ソックスパペット発表会 16名

アメリカTVでおなじみのソックスパペットを海外コミック風に仕上げてみましょう。想像力を膨らませて、いろいろな表情に挑戦してみましょう。素敵なイマジネーションを存分に刺激するActivity！先生たちのパペットショーもお楽しみに！

12月27日 鏡デコレーション 26名

今年はFaceがテーマ。

最後は「自分に向き合う」Activity。

鏡を素敵にデコレーションして、毎日素敵な笑顔を鏡で確認してみよう。ちょっと変わった“おもちゃでデコレーション”！

自分の好きなおもちゃや雑貨で、世界に一つだけの鏡を作ってみよう。

徳島大学 AWA サポートセンター
冬休み Kids Clubのご案内

【開催期間】 平成29年12月25日(月)～12月27日(水)
 ※申込期間が満了となりますのでお申し込みは、この期にお願いします。
 ※申し込みは先着順です。

【開催時間】 7時30分～18時00分
 【開催場所】 蔵本会館2階 多目的室1・4
 【対象】 4歳児～小学6年生まで
 【開催定員】 30名/1日
 ※申込人数が定員を超えた場合は、センターにてお申し込みの順番を調整させていただきます。

【参加費】 2,000円/1日(お子様1名につき)
 【お申し込み】 当日お申し込みまたは電話申し込みも可能です。
 【お申し込み先】 株式会社アワードワンにお願いします。
 【募集締切】 平成29年12月11日(月)
 【申込方法】 【申込費】に必要事項を記入の上、【開催費】と一緒に提出ください。
 ※お子様1人につき各1枚ずつの提出が必要です。
 ※【申込費】はご振替または現金、銀行振込が必要です。
 ※【開催費】は現金のみです。

【参加対象日】 平成29年12月14日(水)～12月15日(木)はすでにキャンセルされています。
 ※上記期間を過ぎてからも連絡がない場合は、AWAサポートセンターまでご連絡ください。

Stella
 徳島市蔵本町の保育園や幼稚園で定例に開催しているのは、下記へ連絡して下さい。
 新加谷町の連絡先
 9:00～18:00 089-623-6291 (TEL) 0790- 代表
 蔵本町の連絡先 089-6290-6171 (TEL) 0790- 091

株式会社アワードワン
 徳島大学AWAサポートセンター
 〒771-8581 089-613-7536
 内線 83-7629
 E-mail: awa@stella-aw.com (代表)
 担当: 田中由紀

長期休暇時の幼児・学童保育の開設 徳島大学 AWA サポートセンター 冬休み Kids Club

平成29年12月25日 クリスマス会



平成29年12月26日 ソックスパペット発表会



平成29年12月27日 鏡デコレーション



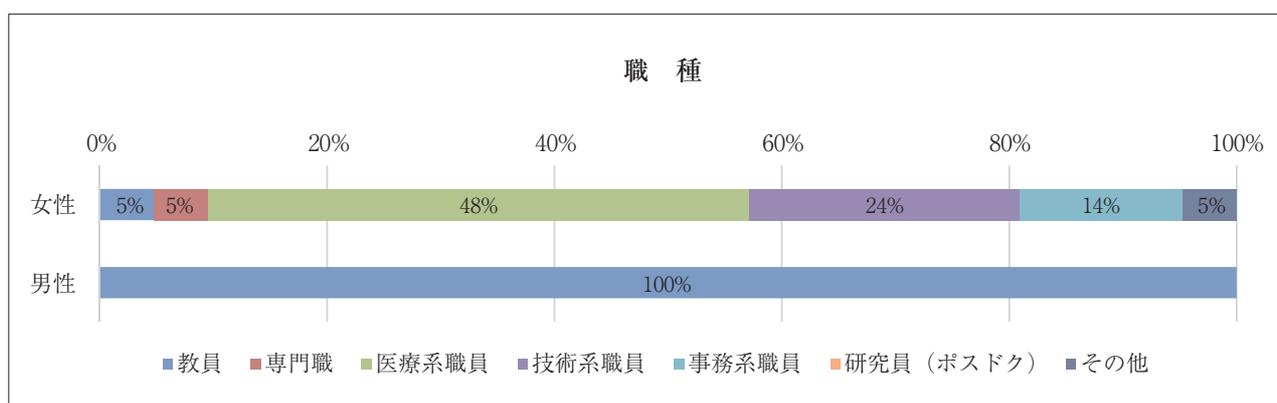
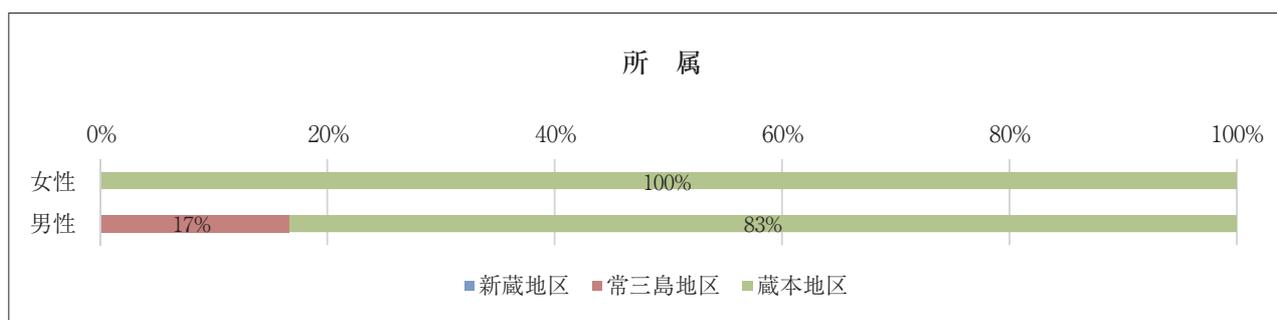
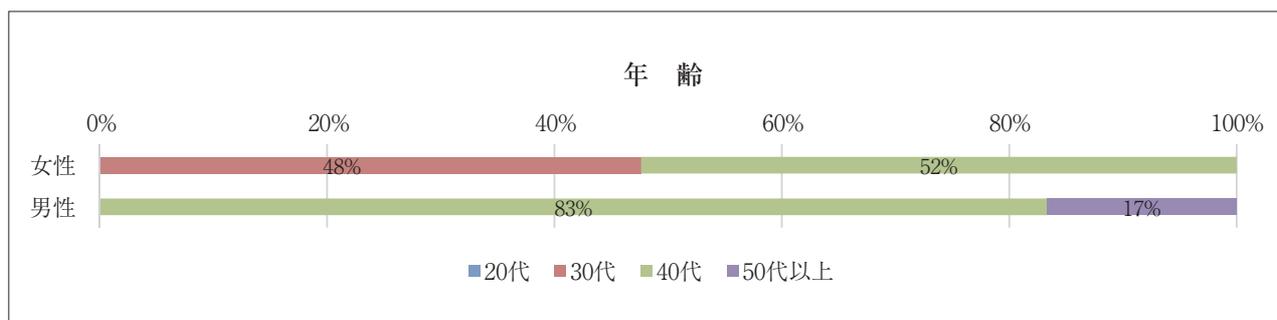
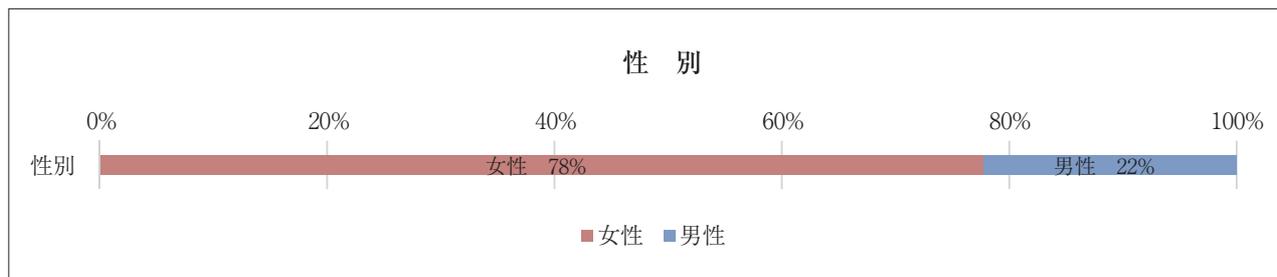
長期休暇時の幼児・学童保育の開設 徳島大学 AWA サポートセンター 冬休み Kids Club

アンケート結果（ご自身の事について）

参加者数 お子様計47名（保護者数 計38名）

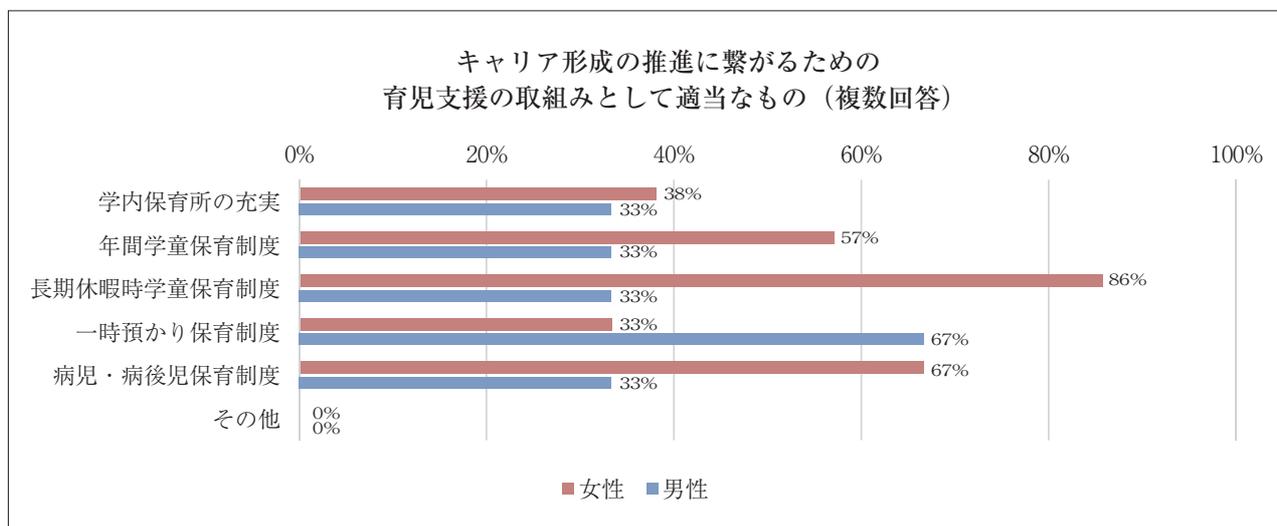
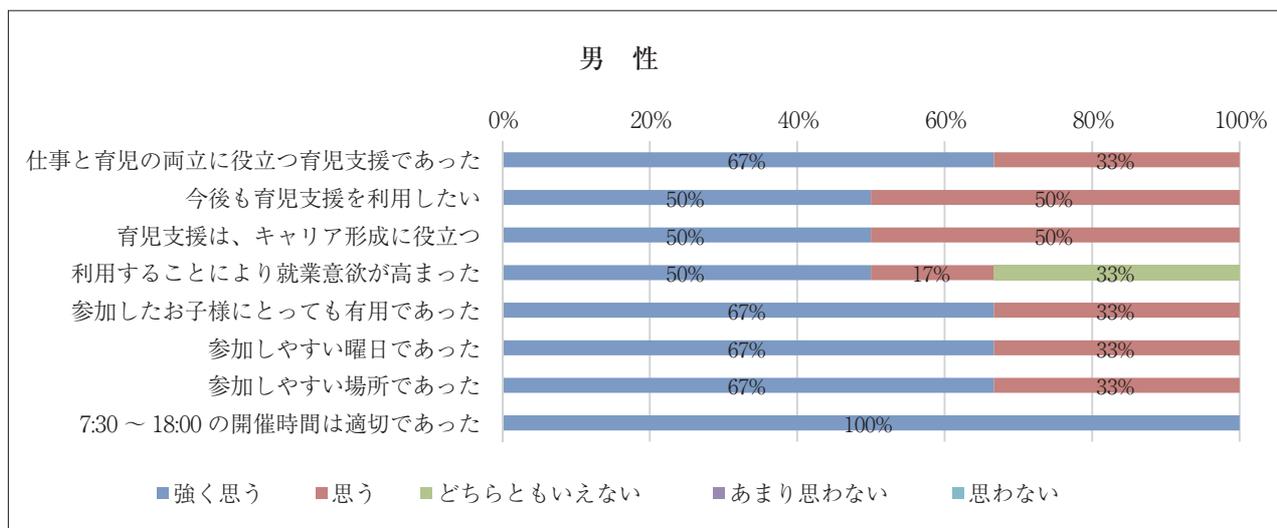
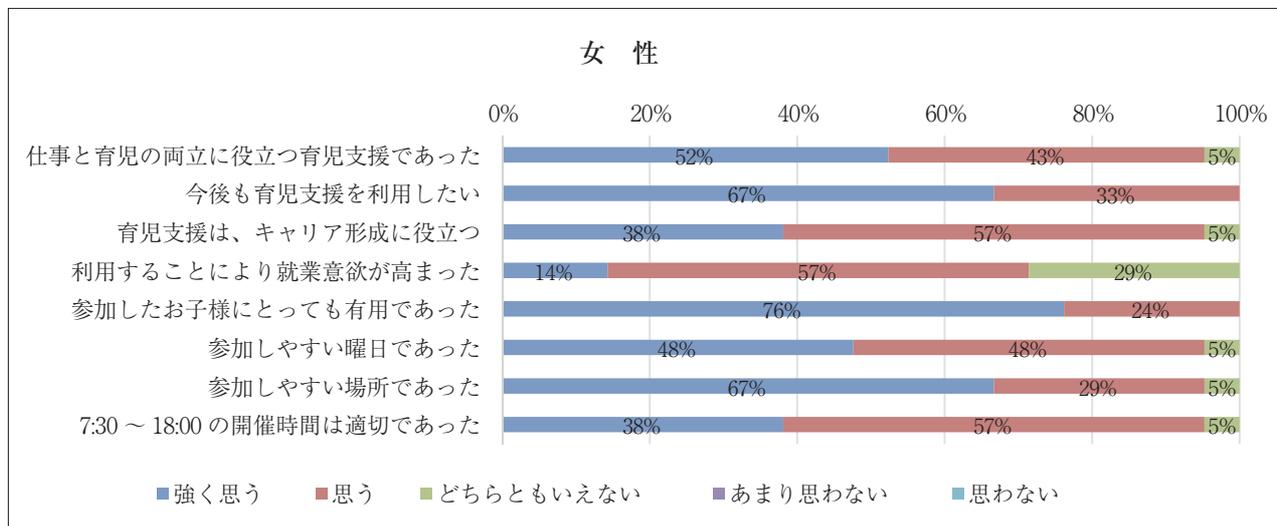
回答率 女性：95%

男性：55%

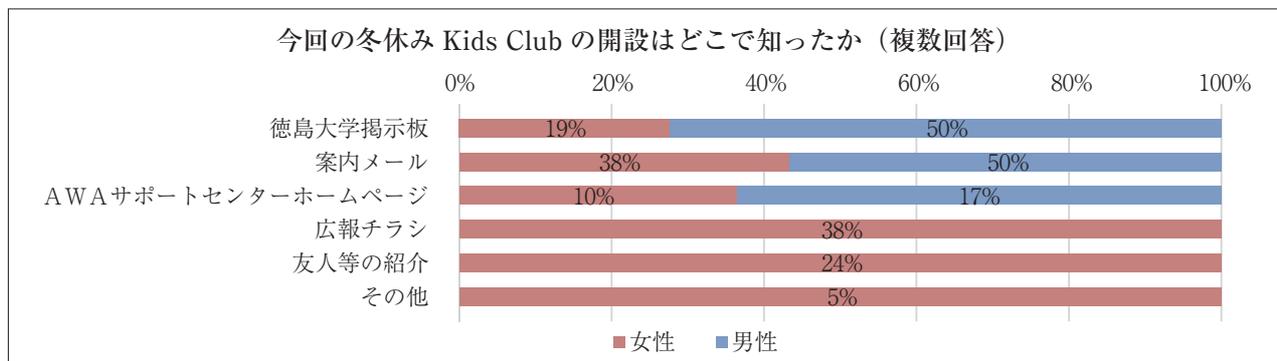


長期休暇時の幼児・学童保育の開設 徳島大学 AWA サポートセンター 冬休み Kids Club

アンケート結果（評価について）

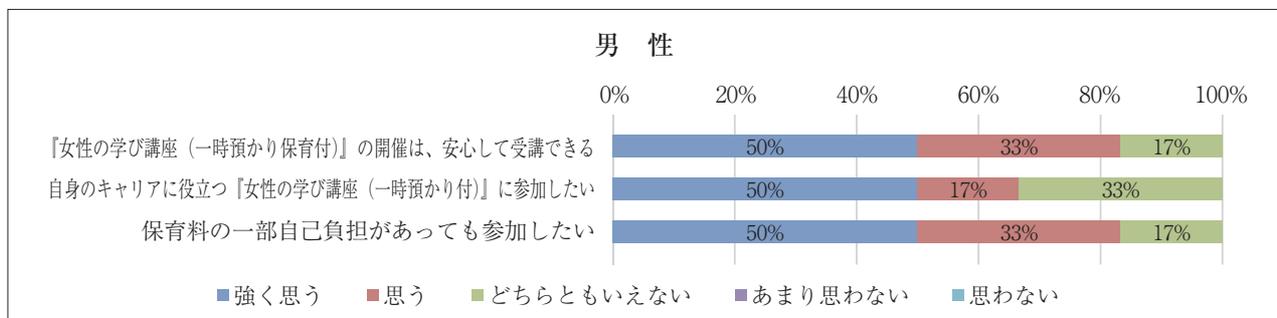
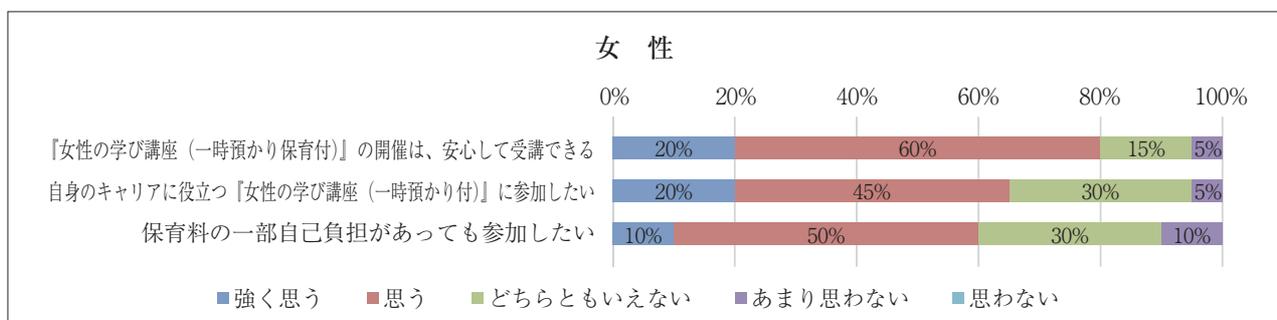


長期休暇時の幼児・学童保育の開設 徳島大学 AWA サポートセンター 冬休み Kids Club



冬休み Kids Club 参加者へ

『女性の学び講座』開催の際の一時預り保育の開設について、伺いました。



アンケート結果（ご意見・ご感想について）

【女性】

- ・ 子供もとても楽しかったと話してくれ、担当して下さった方のやさしい対応がすごく伝わりました。ありがとうございました。次回も参加したいと思います。
- ・ Kids Clubに参加したのは初めてでしたが、子供もすごく楽しかった！また行きたい！と喜んでいました。次回も参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・ 職業体験付（保護者の職場見学）があれば、残業時の延長保育があればありがたい。
- ・ Kids Clubはとてもありがたいです。子供をどこにも連れていけないので、子供もKids Clubをとて楽しんでしております。
- ・ 自身の子供はまだ未就学ですが、小学校にあがった際、学童保育があると安心して働けると思う。

【男性】

- ・ 今後も参加したいと思います。少しの負担は必要と思います。
- ・ 妻のキャリア支援にとて役立っているなので、今後もぜひ開催をお願いしたいです。

研修等参加に係る一時預り保育 徳島大学の職員・教員が学びの機会を得るため 一時預り保育の実施

利用者のご意見

「理系女子♡コラボ未来プロジェクト」に於いて、阿南高等専門学校の研究者及び大阪大学の研究者と、理系女子を育成するためのプロジェクトについて意見交換することができ、教員として他大学の取組などを学ぶ機会を得られた。一時保育預かりを利用させて頂いたので、開催日は日曜日でしたが、学ぶための時間ができ、集中してプロジェクトに臨むことができました。

「第7回徳島骨カルシウム懇話会」に於いて、異分野の先生方と骨代謝や骨免疫学等について意見交換を行った。日常診療および研究に活かしていきたいと感じた。一時預かり保育を利用することで、学ぶ機会を得ることができ、今後の自身のキャリアアップにも繋げていきたい。

夕方から開催の徳島県泌尿器科疾患研究会にて、一時預かり保育を利用させていただきました。保育園が終わってからの研究会に参加できる機会は、躊躇しがちですが、他の病院の先生方と交流や意見交換できることが、業務内容の向上や仕事に対する自信に繋がると思いました。

女性の学び講座 I～VI 研修等参加に係る一時預り保育

蔵本キャンパスでの学びの講座や研修時に保育可能な場所として、女性職員休憩室を利用しました。

蔵本地区

女性職員休憩室「Rococo」



和室にテレビやビデオも完備されています。玩具もあり、親子で過ごす事も可能です。子ども用のトイレも完備されています。その他、オムツ替えシートや授乳室もあります。

女性の学び講座 I ～VI 研修等参加に係る一時預り保育

常三島キャンパスの大学内には、女性職員休憩室と子育て支援室があり、保育できる環境も整っている為、保育を依頼する側も依頼される側にとっても利便性が高い保育環境と言えます。

ご利用者には、登録していただき、一時預り保育にも利用しました。

常三島地区

女性職員休憩室「Rococo II」



理工学部内にある、女性職員休憩室は、体調不良時の職員の休憩所だけでなく、職員採用試験時の休憩室や、イベント時の授乳室等にも利用されています。

子育て支援室「あわさぼキッズルーム」 ※お父さんも利用できます。



玩具や絵本、お子様用の椅子もあります。イベントや残業時の一時預り保育として利用されるだけでなく、個室は、職員の仮眠室や授乳室にも利用されています。

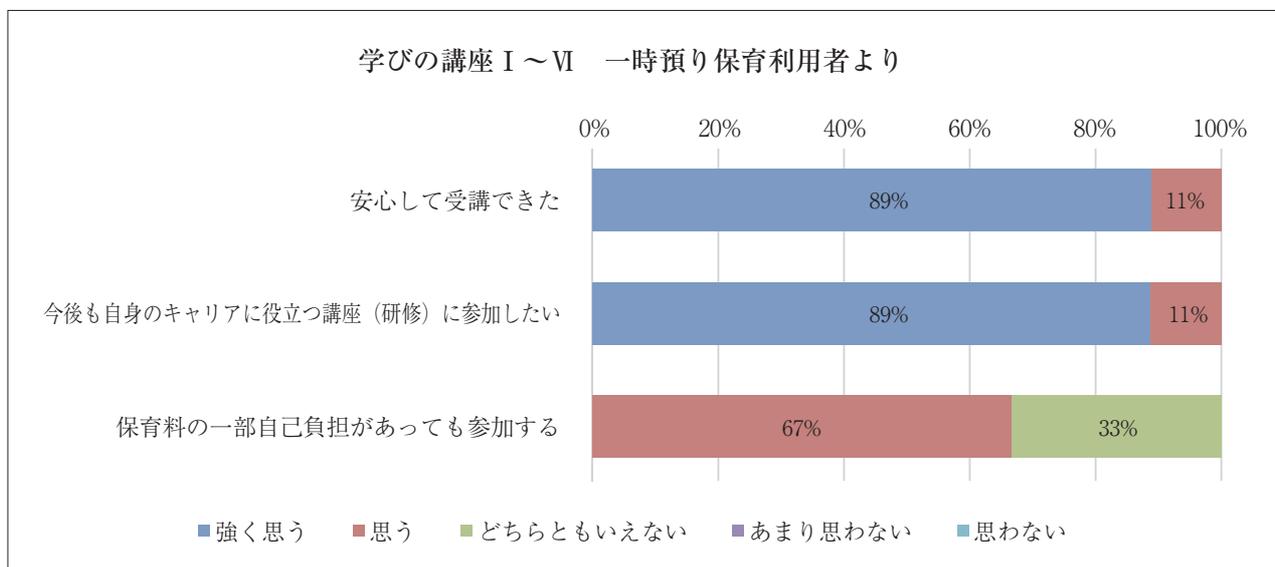
女性職員休憩室や子育て支援室は、登録者（毎年更新）のみ利用可能となっています。

更新手続きのできていない方は、利用できません。

セキュリティも24時間完備されています。安心して過ごしていただけます。

女性の学び講座 I～VI ご利用になった方のご意見

『女性の学び講座』開催時の一時預り保育の開設について



利用者からのご意見・ご感想

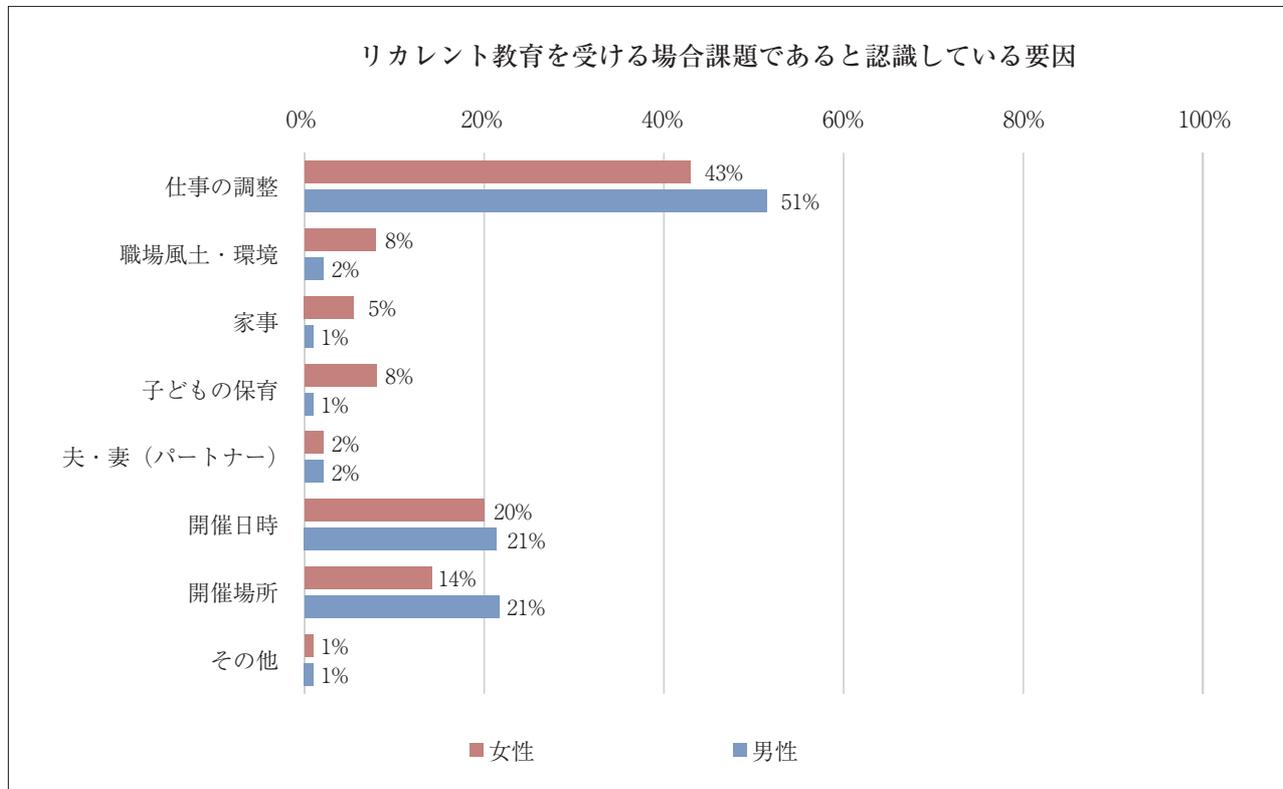
子供は非常に楽しかったようで帰宅後に「ママ来るの早かった、もっと遅く来てほしかった。また行きたい!」と申しておりました。

どこかに託児するということは、母親にとって子供に申し訳なさを抱きがちで、わざわざ託児してまで何か自分のことをするというに一步踏み出しにくいものなのですが、親子ともども、勉強になったり楽しめたりと本当に良いイベントでした。

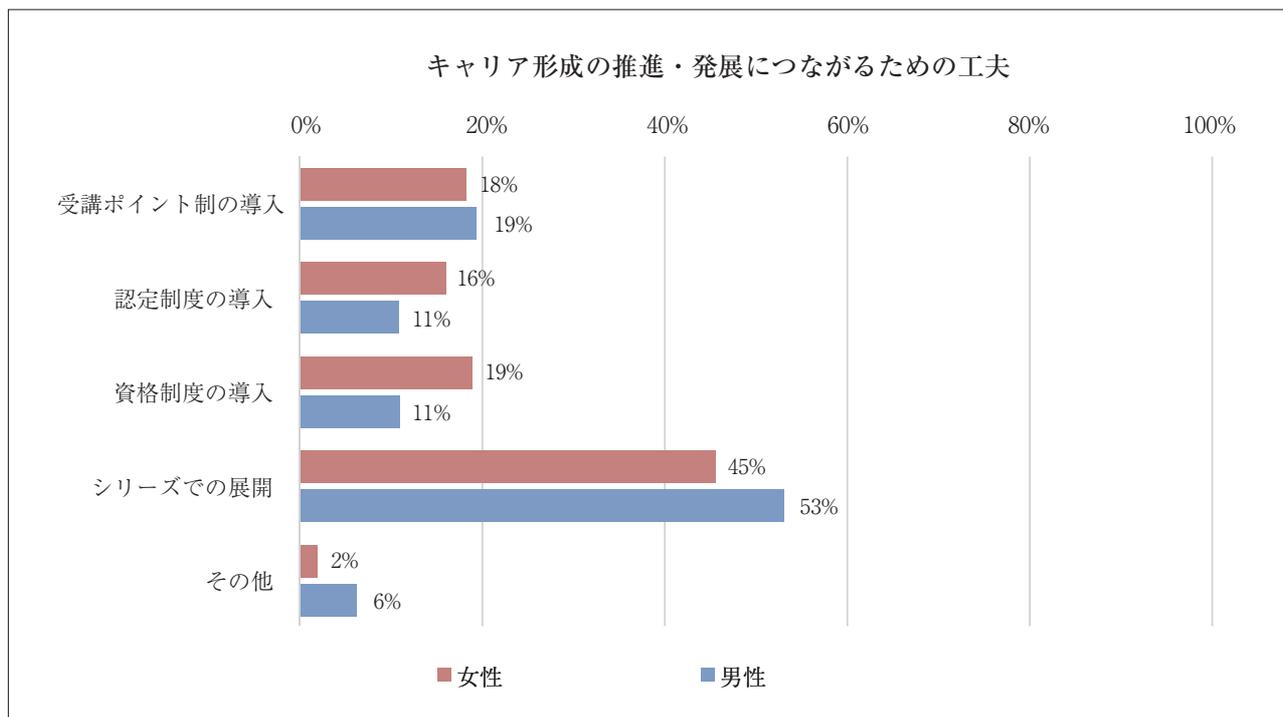
今回は短時間ということで他の受講者と話すこともなかったのですが、また別の催しで他の受講者と名刺交換などでき、つながりを増やせるようなものがあればぜひ参加したいと思いました。

女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備と キャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査

講座等学びへの参加に際して課題であると認識している要因



キャリア形成の推進・発展につながるための工夫



女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備と キャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査



総合評価

「女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査」では、学び講座を6テーマとシンポジウム並びに男性育児セミナーを開催した。

学び講座終了毎のアンケート結果では、いずれの講座も、『今後に役立つ』『学びを取り入れたい』『キャリア形成推進に役立つ』と非常に高い評価であった。

特に、参加者のほとんどが教員・研究者であったことから、『メディカルサイエンス系英文の読解・ライティング』、『データ解析セミナー』へのニーズと評価が非常に高かった。これらへの参加動機は、自身の研究成果を世界に向けて発信するために、英文論文の書き方や統計手法を学びたいというものであり、研究者等のニーズに合ったプログラムで、女性のキャリア形成・発展に結びつく研修と言える。

一方、学びたいとのニーズを持ちながら、学びへの参加に際して課題であると認識している要因には、男女共に『仕事の調整』との回答が多く、女性では『子どもの保育』が、男性1%に対して13%と、子どもの保育は女性の役割という傾向が感じられる。学びの際には、一時預り保育を開催したが、対象となる女性（母親）は、これまでも勉強会や学会参加時の子どもの保育対応を行っており、そのため今回の一時預りへの参加は多くない状況であった。しかし、自身の学びの時間が充実したものとなり、かつ子どもが楽しく過ごしていたという実感が、子育てしながら働くことへの意欲につながったとの感想も聞かれ、学びと保育の一体的な取組みは、学びの企画と保育内容の充実により大きな成果を生むものと思われる。

さらに、これら学びが、『キャリア形成の推進・発展に繋がるための工夫』では、『シリーズでの展開』との回答が多く、単発の講義ではなく、シリーズで展開ししっかり学びたいというニーズが多く、シリーズ化に向けて、対象者のレベル設定、開催期間と間隔、到達目標・成果目標の設定などを検討し、一時預り保育を常設して取り組んでいく必要性が見出せた。





事業報告2

女性の学び支援のための研究協議会の開催

四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会

四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会名簿

氏 名	機 関 名	役 職 名
野 地 澄 晴	国立大学法人徳島大学	学長
根 本 幸 枝	国立大学法人徳島大学	理事（総務・財務）・副学長 徳島大学男女共同参画推進室長
葉 久 真 理	国立大学法人徳島大学	大学院医歯薬学研究部教授・副理事 AWA サポートセンター長
笥 善 行	国立大学法人香川大学	学長
大 橋 裕 一	国立大学法人愛媛大学	学長
廣 瀬 淳 一	国立大学法人高知大学	男女共同参画推進室長
山 下 一 夫	国立大学法人鳴門教育大学	学長
山 田 圭 吾	大塚製薬株式会社	人事部 部長補佐
竹 岡 正 雄	徳島県立工業技術センター	所長
正 木 孝 一	徳 島 県	県民環境部男女参画・人権課 課長
川 村 美 樹	徳 島 県 立 男女共同参画交流センター	所長
阪 間 稔	国立大学法人徳島大学	大学院医歯薬学研究部教授 AWA サポートセンター啓発・広報部門主任
伊 藤 桃 代	国立大学法人徳島大学	大学院社会産業理工学研究部講師 AWA サポートセンター人材育成部門主任
山 本 恭 代	国立大学法人徳島大学	徳島大学病院泌尿器科講師 AWA サポートセンター ワーク・ライフ・バランス部門主任
中 島 佳 子	国立大学法人徳島大学	AWA サポートセンター コーディネーター

四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会

第1回

開催期間 平成29年12月22日(金)～平成29年12月27日(水) メール会議

文部科学省委託事業平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」

委託事業名：女性の学び支援のための研究協議会の開催

題 名：「四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト」

1. 協議事項

協議1：実施要項（案）について

添付資料：研究協議会の開催実施要項（案）

議事要録

すべて承認された。

第2回

開催日時 平成30年2月21日(水) 15時30分～17時00分 及びメール会議

開催場所 徳島大学 医学部第一会議室

出席者数 15名

文部科学省委託事業平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」

委託事業名：女性の学び支援のための研究協議会の開催

題 名：「四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト」

1. 協議事項

協議1：事業実施による事業成果、普及・広報について

2. 報告事項

報告1：四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクトにおける事業報告書

議事要録

協議1：総合評価について、確認するとともに承認された。

報告1：資料の報告書案について、概ね了承された。

資料修正後、欠席者については、メール会議にて確認後、承認された。



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

「四国地域の活性化を促進する女性のリカレント教育」
ー女性の限りない力で社会を変えるー

開催日時 平成30年2月2日(金) 13:00～16:55
会場 日垂メディカルホール 徳島大学病院西病棟11階
(徳島市蔵本町3丁目18-15)
参加者数 103名(女性 39名) 一時預り保育 お子様1名利用



独立行政法人国立女性教育会館
理事長 内海 房子 氏

本研究協議会は、文部科学省「平成29年度男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」の委託事業として、「四国地域の活性化を促進する女性のリカレント教育」をテーマに、地方における『キャリア形成／発展・再就職支援を一体的に行う仕組みづくり』の提示に繋げることを目的としました。



文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」
女性の学び支援のための研究協議会の開催
四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト

四国地域の活性化を促進する女性のリカレント教育 女性の限りない力で 社会を変える！

参加費無料
無料託児あり
お申込み切
1/26

2018.2.2 [金]
13:30-16:30
徳島大学日垂メディカルホール
徳島大学蔵本キャンパス
徳島大学病院西病棟 11 階

プログラム

13:30～13:45	開会挨拶	野地 達晴	徳島大学
13:45～13:55	開会挨拶	文部科学省	生涯学習政策局(下室)
14:00～14:15	基調講演	佐藤 達夫氏	徳島大学 特別学部長 兼 徳島大学人サポートセンター 副センター長
14:15～15:05	特別講演	いまあらためて男女共同参画とは何か	
		内海 房子 氏	独立行政法人国立女性教育会館 理事長
15:05～15:25	第 1 部		
15:25～15:35	パネルディスカッション		
(テーマ)	社会が求める女性の活躍と貢献すべき人材像の共通認識に向けて		
パネリスト	リカレント教育の現状と課題について		
司会者	野上 とも子 氏	徳島大学 大学院学際教育研究科 社会生活教育学専攻 教授	
パネリスト	大学が行っているリカレント教育：その目的／目指すもの		
	岡山 祥子 氏	山口大学 経済学部 教師・ダイバーシティ推進室長	
	行政が行っているリカレント教育：その目的／目指すもの		
	川村 美樹 氏	徳島県立男女共同参画推進センター 所長	
	企業が行っているリカレント教育：その目的／目指すもの		
	岡村 剛典 氏	大塚製薬株式会社 先端創薬研究所 研究開発部 研究課長	
司会者	内海 房子 氏	独立行政法人国立女性教育会館 理事長	
コーディネーター	葉久 尚博	徳島大学 生涯学習センター 所長	
16:30～16:50	閉会挨拶	野地 達晴	徳島大学 学長

主催：徳島大学
 ●お申込・お問い合わせ
 徳島大学 AWA 学術サポートセンター
 〒770-8502 徳島県徳島市本町4丁目1-1
 TEL: 089-855-7528 FAX: 089-855-7472
 E-mail: awa@awacenter.u-tokushima.ac.jp

協力：四国連携女性教育推進プロジェクト事務局
 徳島大学、香川大学、高松大学、高松大学
 徳島県生涯学習推進センター、人権推進センター、生涯学習推進センター、人権推進センター
 徳島県立生涯学習センター、人権推進センター
 徳島県立生涯学習センター、人権推進センター

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

特別講演

「いまあらためて男女共同参画とは何か」

独立行政法人国立女性教育会館
理事長 内海 房子氏

座長：徳島大学

特別修学支援室 教授
AWAサポートセンター
副センター長
住 谷 さつき



徳島新聞 平成30年2月3日(土) 総合面

女性の活躍できる社会を
徳島市でシンポ 学習支援策など討論

女性の再就職やキャリアアップを支援するため、仕事に役立つ知識や技術を学び直す「リカレント教育」について考えるシンポジウム。会場はAWAサポートセンター。住谷センター長の要旨を要約。

育兒などで離職した（徳島大主催）が2日、徳島市の徳島大学で、両院日産メディアカレッジであり、約100人が出席した。

同大AWAサポートセンター長の要旨を要約。

「女性にさらに活躍できる社会にするために、リカレント教育の現状と課題について、30、40代女性は子育ての真っ最中であることが多く、リカレント教育を受けたとしても受けられないのが現状である」と指摘。「保育環境を整えるなど、仕事との両立に配慮した学びの場を、産学官民が連携して提供する仕組みづくりが必要だ」と訴えた。

国立女性教育会館の内海房子理事長の講演もあり、男女共同参画社会の実現について

「女性がさらに活躍できる社会にするために、リカレント教育などを通じて、「人生100年時代」に向けた人材育成を進めなければならない」と強調した。（要整理）

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

パネルディスカッション

「社会が求める女性の活躍と養成すべき人材像の共通認識に向けて」

パネル講演

リカレント教育の現状と課題について

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 特別支援教育専攻 教授 井上 とも子 氏



本学では、直接学校現場で力を発揮出来る人を養成する為、知識と実践とを結びつける事が出来る実践力のある教員を育てる事を目的とした大学院に変わろうとしている。問題意識を持っている教員が多いが、職場の事情や家庭の事情でタイミングが合ってリカレント教育に出ていける条件が整う方が少ないのが現状である。自信を持って職場のリーダーになれる人材を養成していくために、リカレント教育が必要である。そのためには、自身の意識改革、職場の意識改革、行政的努力や企業努力、個人的な努力が必要であると考えます。

パネリスト講演

「リカレント教育の現状と課題」は、職業によって異なるため、職業にあわせた課題解決策が必要であること。主な課題には、職場の事情と家庭の事情による時間と財源（学校教員の場合は有給の所もある）の確保と、女性自身が持つリーダー意識と職場の男性優位の意識があること。課題解決のためには、リカレント教育をバックアップする施策と、子どもの頃からこれら意識改革を図っていくことの必要性について共通認識が図られた。

大学が行っているリカレント教育：その目的／目指すもの

山口大学経済学部 教授 ダイバーシティ推進室長 鍋山 祥子 氏

山口大学の取組みとして、保育サービス（長期休暇中の学童保育所の開設、病児保育利用料金の一部負担、学内託児スペースの設置など）では、学生サポーターを活用し、学生の学びと利用者のニーズが合致し、共に満足度が高いこと、現在では、利用者を大学教職員に限らず、大学に学びに来る人に拡大したこと、地域にいる潜在保育士やシニア層を活用した一時保育を展開し、その際には保育士の養成講座受講を義務付け、またステップアップ講座も開講し、かつ潜在保育士の子どもの保育も保障（2つの部屋で保育を展開）して、安心・安全な保育を提供していること。山口大学での学び（リカレント）から、保育士サポーターとしてシニアを含めて、山口大学で活躍して頂くという仕組みを作り、ひいては、この取組みが、潜在保育士の再就職のためのステップアップに繋げるといふ、多くの方のニーズに合致した循環性のある取組みが紹介された。



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

パネルディスカッション

「社会が求める女性の活躍と養成すべき人材像の共通認識に向けて」

パネリスト講演

行政が行っているリカレント教育：その目的／目指すもの

徳島県立男女共同参画交流センター 所長 川村 美樹 氏

徳島県立男女共同参画交流センターからは、徳島県の女性活躍を示す指標として、「管理職等に占める女性の割合」が全国1位、「女性社長の割合」も全国3位と非常に高いこと、この背景には、「6歳未満の子どもを持つ夫の1日あたりの家事関連時間」が全国第5位であるという、男性が女性の活躍をサポートしている現状が示された。男女共同参画の総合的な推進拠点であるセンターのリカレント教育としては、これまで、「再就職準備講座」や働いている女性向けの「ブラッシュアップ講座」を開講してきており、近年では、起業支援として開講した「ネットショップ講座」が好評であること。今年度は、「探してみよう“好き”からはじめる働き方」というテーマで、働くことへの動機付けとなるような講座（女性起業家等による講演）を開講したが、仕事に直接結びつけることがセンター単独では困難であるため、関係機関との連携を更に強化していき、引き続き起業支援の講座や働いている女性のキャリアアップの講座にも取り組んでいきたいとの展望についても紹介された。



企業が行っているリカレント教育：その目的／目指すもの

大塚製薬株式会社 先端創薬研究所 探索研究部 研究員 岡村 陽香里 氏

大塚製薬株式会社では、企業理念の基、創造性と実証を持続させる為の人を選抜して育てており、その取組みが紹介された。主な人材育成プログラムは、研修、MBA取得プログラム、経営者教育育成、国内や海外への大学への留学などである。大学留学では、現在、国内・海外の大学に20名ほど留学しており、徳島大学にも毎年2～3名が大学院生として学位取得を目指している。全社員に対して、資格取得応援や自己研鑽の推進を行っており、会社のホームページには英語学習やその他大学公開講座の情報を見る事ができる学習サポートサイトがある。事業所内に保育所を設置し、育児休職からの復帰率は女性技術職では100%である。リカレント教育として徳島ウーマンビジネススクール（管理職の立場にある女性か、今後リーダーとして活躍が期待される女性を対象にした講座）に参加している女性研究員もいるなど、人材育成システムと環境が整備され、講演者ご自身も創薬研究に従事しながら、現在、徳島大学の先端酵素学研究所プロテオゲノム研究領域免疫制御学分野で研究（博士課程に入学）をされていることが紹介された。



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

パネルディスカッション



大学、地域（行政）、企業の立場から、リカレント教育についてディスカッションしていただきました。



〈コメンテーター〉

独立行政法人国立女性教育会館
理事長 内海 房子 氏
鳴門教育大学 大学院学校教育研究科
特別支援教育専攻 教授
井上 とも子 氏

〈ファシリテーター〉

徳島大学副理事・
AWAサポートセンター長
葉久 真理

ディスカッション内容

葉久 リカレント教育の現状と課題を踏まえて、女性が就職、再就職あるいはキャリア発展に繋げる為のリカレント教育のあるべき姿とはどういうものかを見据えながら、四国全体で連携共同体制を構築してリカレント教育を推進し、女性が活躍していく方向性が見出せる様に、ディスカッションを行いたいと思います。このディスカッションで結論が出せる所までの時間が残念ながらございません。このあと夕方より座談会がございます。更に明日は、四国5大学男女共同参画推進連絡協議会を開催いたしますので、継続して議論していきたいと思っております。

まず、山口大学さんが保育を受けたいという人のニーズと、保育士としてもう一度働きたいという人のニーズを合致させて、非常に上手くいっているというこの仕組みについて、上手くいった要因をお教え頂けますか。

鍋山 非常に上手くいったと褒めて頂いて嬉しいのですが、今、まさに現在進行形で進めているところです。上手くいくように、試行錯誤しているという状況です。保育サービスというのは、やはりお金が非常に高くなりますので、今保育をお願いしている団体が、おさえた単価で保育サービスを実施していただいていることも、事業の継続性にとって大きなポイントになっています。また、事業全体がうまくいくように、その団体に対して山口大学が、より専門性の高い教育をアレンジしたり、地域にある繋がっていない様々なサービスを繋ぐというような役割を担っています。やはり連携というのが大きなポイントで、お互いに得意な分野で協力し合うことで上手くいくのではないかと考えています。

葉久 ギブアンドテイクということでしょうか。今回、学び講座を開いた時に一時預かり保育を開催しました。学び講座を受ける時に、子どもさんの保育をどうするかということが、不安・心配要因でありますので、一時預かり保育は大変助かるという評価でした。徳島県立男女共同参画交流センターさんでも講座を開講される時には一時保育をされておられますね。その時の保育料は個人負担でしょうか。どのようにされておられますか。

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

ディスカッション内容

川村 指定管理で民間の企業にお願いをして運営をしておりますので、直接受講される方から、保育料を取るといふ事は行っておりません。指定管理の委託料で、お支払いをしているという事になります。

葉久 学びに来て、保育料も払ってということでは、学びが継続できませんね。大塚製薬さんはビーンスタークの大きな保育所を持っておられますが、大塚製薬さんが公開講座をされる時などに、外部の方も利用出来るのでしょうか。

岡村 そちらは私は把握しておりませんが、保育所は、大塚製薬の女性社員だけではなく、男性社員も利用して子育てにかなり積極的に行っているという現状です。

葉久 安心して働く環境があるということですね。保育料がリーズナブルなお値段であることは、経済的には安心出来るのですが、子どもさんを預ける場合の安全性が重要ポイントになると思います。徳島大学では、保育料はおそらく少し高めかも知れませんが、安全性・信頼性に関して非常に信頼できる場所を選んで、一時預かりなど依頼しています。安全性・信頼性が担保され利用しやすい料金の保育が提供できれば、学びへの参加も促進されるのではないのでしょうか。また、保育に関して、学生ボランティア、学生サポーターを活用されていました。徳島大学でも学生サポーターの養成講座を開講し、学習と実習を経て認定するシステムを構築しましたが、学生は4年程で卒業し、他県に出ていってしまいますので、養成しても本学には定着しないという様な現状です。山口大学さんでは、学生サポーターはどのように運用されておられますか。

鍋山 山口大学では、そこは非常に上手くいってございまして、教育学部を通じて募集をすると、教育学部の学生さんや幼児教育を専攻している学生さんなどやる気のある学生さんがいて、応募が非常に多く、すぐそのままサービスを提供してもらう事が出来ています。学生サポーターさんの満足度もとても高いです。

葉久 それは、大学の特徴ですね。やはりリカレント教育をする際には、子どもさんを持たれている方の場合はその時の保育が大きな課題になっていきますので、そこをしっかりと整備して取組む必要があります。これから、山口大学さんの仕組みを参考にさせて頂きたいと思っております。

徳島県立男女共同参画交流センターさんから先程ご紹介頂いた様に、徳島県の女性は凄く活躍していて、全国ナンバー1、ナンバー2ですという誇らしい現状がございます。センターでは、様々な学習の機会を提供されていますが、そこに参加される方は、職業についていない方が多いのでしょうか。講座によっては現在の職業に関わる学びもあると思いますが、どういう年齢層でどのようなニーズや期待を持って来られているのか、把握されておられるのでしょうか。

川村 年間の講座数は、昨年度は220くらいでした。2万人ぐらいの方に、受講して頂いておりますが、受講後のアンケート調査で、大まかな年代層は把握しています。男女比では、女性が7割程度で、年齢層は、30代、40代の女性の受講が多いという状況です。ときわプラザは火曜日が休館ですので、土日の開催もしております。仕事を持たれている方は、土日に受講されていると思います。

葉久 その女性の中には、もう一度社会に出たいというニーズがあるのでしょうか。生涯教育の定義をみますと、「国民1人1人が自己の人格を磨き豊かな人生を送る事が出来るように」という事と、



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

ディスカッション内容

「その成果を適切に生かす事の出来る社会の実現」という事が書かれています。豊かな人生の為に来られている人が多いのか、学びを得て次に進みたいという人が多いのか、その感触はいかがでしょうか。

川村 それは講座の内容によると思うのですが、先程ご説明させて頂いたような、ネットショップという講座であれば、在宅で何か仕事をしたいなという方が受けられていると思いますし、今年度は開講していませんが、キャリアアップ講座を開講していた時には、お仕事をお持ちの方が受講されていたと思います。

葉久 学びの講座が生涯教育なのかリカレント教育なのか、似たような感じでしかし少し違っている。私が今回シンポジウムをするにあたって、行政と大学とそれから企業が、どのように連携をすれば女性が学んだ事を社会の中で活かしていけるのかと考えた時に、男女共同参画推進室交流センターさんでの学びが生涯教育という領域とさせて頂いたとして、女性がこれから社会に出て働きたい活躍したいというモチベーションを高められる様な講座をして頂くと共に、近くの大学では、こんなリカレント教育が行われていまずよという紹介・広報をして、大塚製薬さんをはじめ企業さんがこういう人を求めていますよというようなワンストップで情報が得られる様な仕組みができないだろうかと考えました。現状は、ここでこのようなことを学びました、次はこれを活かしてどこで働けるのかハローワークに行く、あるいは企業説明会に行くというように、多くの時間と労力をかけて職を見つける見つけられないという状況ではないでしょうか。特に子育て中の女性には、このような時間と労力を考えただけでも前に進めない。企業では、35社とか40社とか沢山の企業が合同企業説明会をされていますよね。大きな企業も中小企業もあって、大学生の新規採用者への説明会が多いと思うのですが、企業がこんな人を求めているというのはそこで理解できるものなのでしょうか。岡村様の場合は、研究者ですが、どういう方を求めているのか、お聞かせ頂けますか。

岡村 女性研究者として、やはり我が社の経営理念である独創的な発想が出来る研究者という方を求めています。

葉久 研究者として独創的であるということは重要なことと思います。一方、独創的といわれると非常に大きくて、リカレントという状況にある人には、具体的にこういう事が出来る人、こういう研究手法を取得している人とか。そういう風に提供して頂けますと、そこに来た女性が、じゃあその為には自分はここまでは知識・技術があるのだけれど、もう一歩学んでみようかなという事に繋がるのではないかと考えております。

山口大学さんの様に世の中のニーズを把握する、どういうニーズがあるのかをリカレント教育を企画・展開していく者が十分把握しておかないと、自分達が出来ものだけをオープンにしておいても学びを通じた社会参画には発展しないような気がします。ここではこういう事が学べますよ、これも私達教えますよと、皆さんどうぞ来てくださいというだけではなくて、この学びからここへの道が開けますという所まで示す。その為には、学部や大学院のカリキュラムを改革しようかというところまで、日本全体で展開できれば、女性だけでなく男性も皆が活躍出来る社会になるのではないかと考えておりますが。もう時間がありませんので、3名のパネリストから、連携をするという事に対して、何かアイデアがありましたら、ひと言ずつお願いいたします。



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

ディスカッション内容

鍋山 今お話を伺っていて、やっぱり学びはもちろん大事なんですけど、まず場を設定するという事が凄く大事で面白くて、例えば山口大学の今回の保育サービスであれば、この勉強をしてもらったらこういうメリットがあって学んだ成果をここで発揮してもらえますよというところまでセットで用意する。そういう事も出来れば凄く面白いのではないかなと思います。

川村 アンケート調査でどういう講座を受けたいですか？とお伺いすると皆さん一番仰るのが「健康」なんです。健康問題に凄く関心を持たれている方が多いので、もし大学と連携させて頂けるのなら、先月初めて、歯学部の先生と一緒に、「働く女性の健康講座」というのをさせて頂きましたが、そういう形で連携させて頂けたらなと思っています。

岡村 私は少し立場が違うのですが、研究者としてはやはり研究の場で、アカデミックの方々と交流する事で人材、そういったところでも関わっていきたいというところもありますし。人材育成というところではニーズがその時々によって変わってきますので、密に連携を取っていきながらこういう人材を育成して欲しいといったところを作っていきたいなと、出来たらなと思っています。

葉久 ありがとうございます。是非連携して色んな女性の学びの場、それからその学びを通して活躍出来る場というのが、繋がり広がっていくように今後継続して検討していきたいと思っております。

井上先生全体を通してコメントはございませんか。

井上 今教えて頂いて、やはりリカレント教育を受けたら、自分はその後何処へいけるのだろう、どうなるのだろう、得たものをどう活用出来るのだろうと、ある程度その先を示してもらわないと、中々一歩踏み出せないかも知れないという事を感じました。

葉久 続いて、内海先生コメントをお願いいたします。

内海 パネルディスカッションに対する、意見ではないのですが。リカレント教育にしても、今の働き方で中々途中で学び直しという事は時間が作れないという人生の話もありましたけれど、人生100年時代ですね、人生長いわけですから、この22歳から60歳までは働いて、60歳からは定年後のボランティアをやったり勉強したり学び直しをしたりというそういう人が多いのかなと思います。そうではなくて、やはりいつの時代にも勉強もしてボランティアも社会貢献もし、そして仕事もして家事も育児も介護もという、そういう人生100年じゃないかなという風に思うので、リカレント教育のお話と直接ないかもしれませんが、これを機会に是非人生の生き方というか、女子大生のキャリア形成セミナーではないですが、私達の人生100年の生き方を今一度見直すチャンスではないかなと思いました。

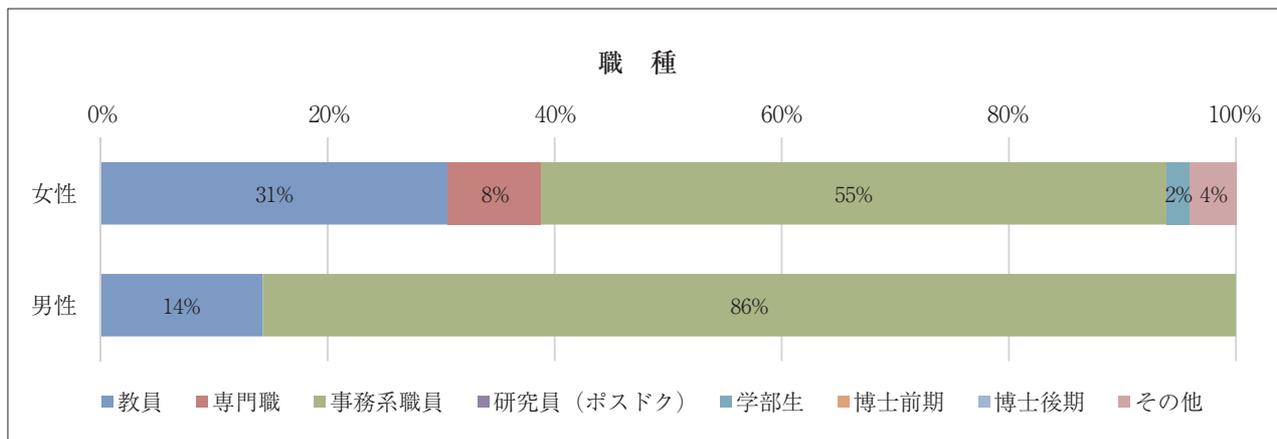
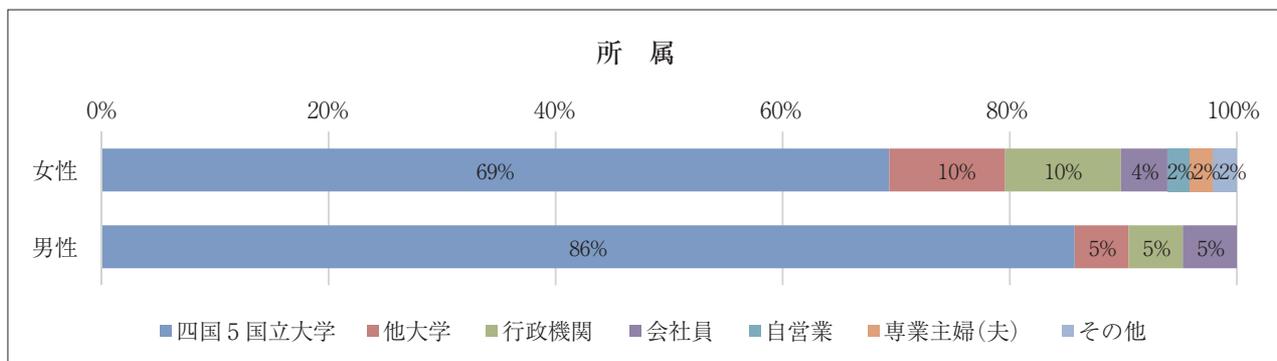
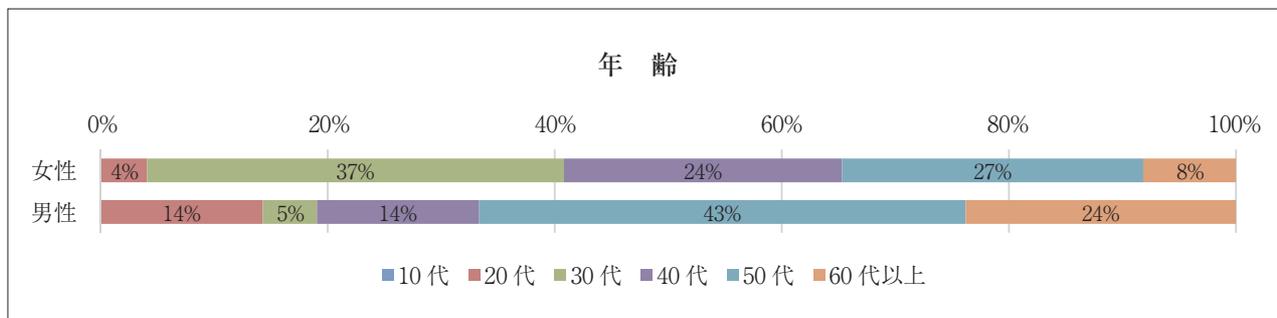
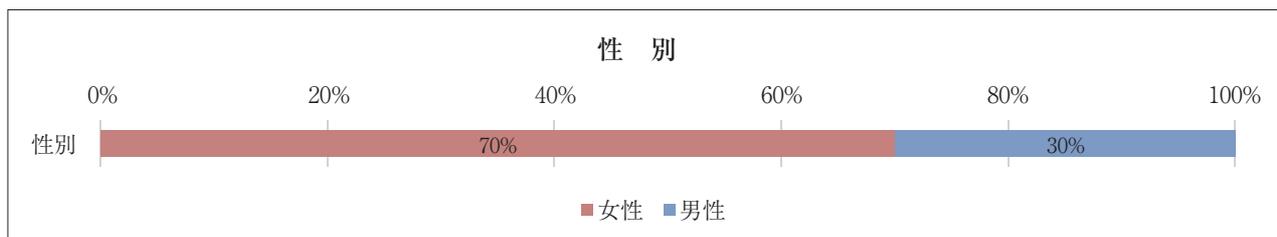
葉久 ありがとうございます。非常に時間が短く会場からのご意見を聞く事が出来ません。四国全体で連携共同体制を構築してリカレント教育を推進し、女性が活躍していく社会に向けて継続的に検討していく意義が見えたかと思えます。これをもちましてパネルディスカッションを終了させて頂きます。ご協力ありがとうございました。



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

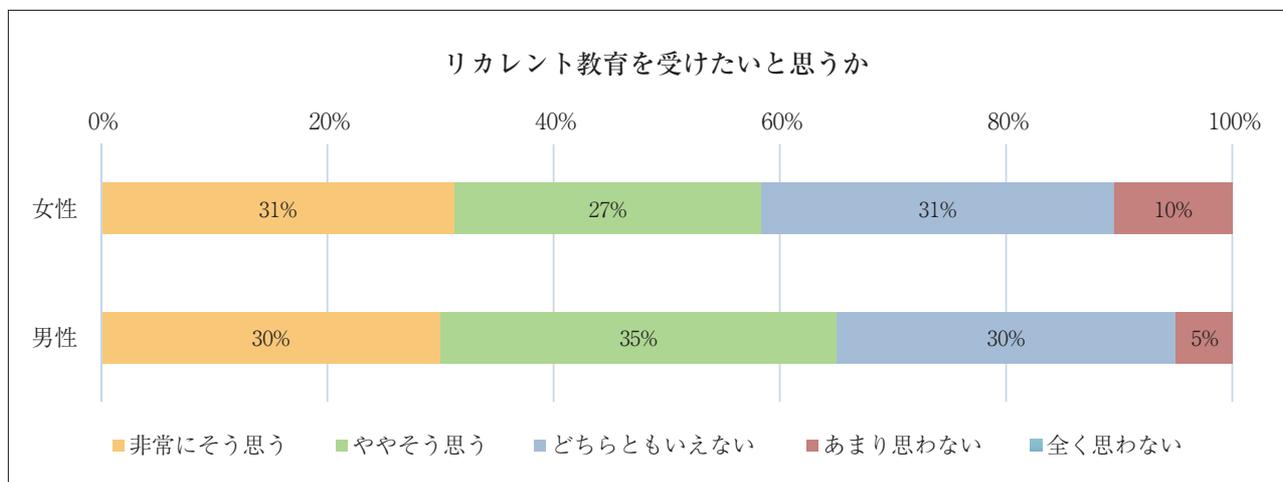
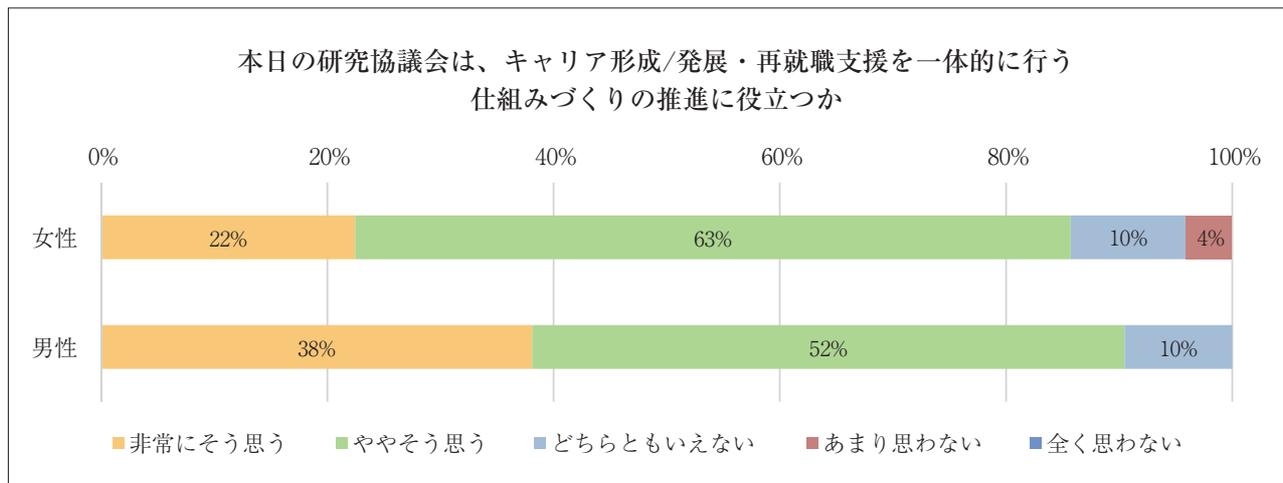
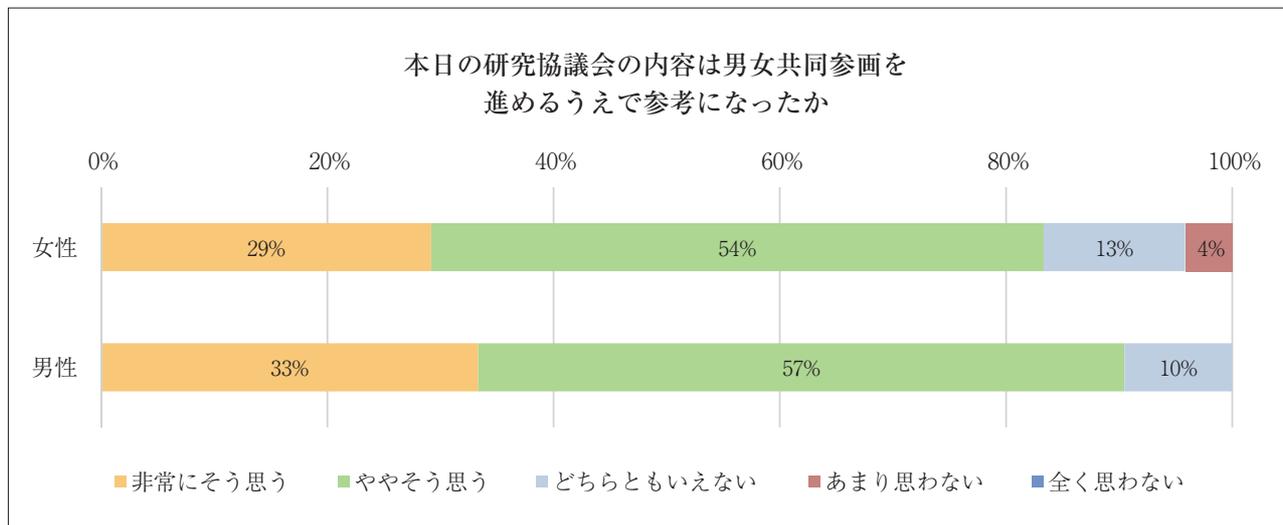
アンケート結果（ご自身の事について）

参加者数 103名
 回答率 女性：66%
 男性：72%



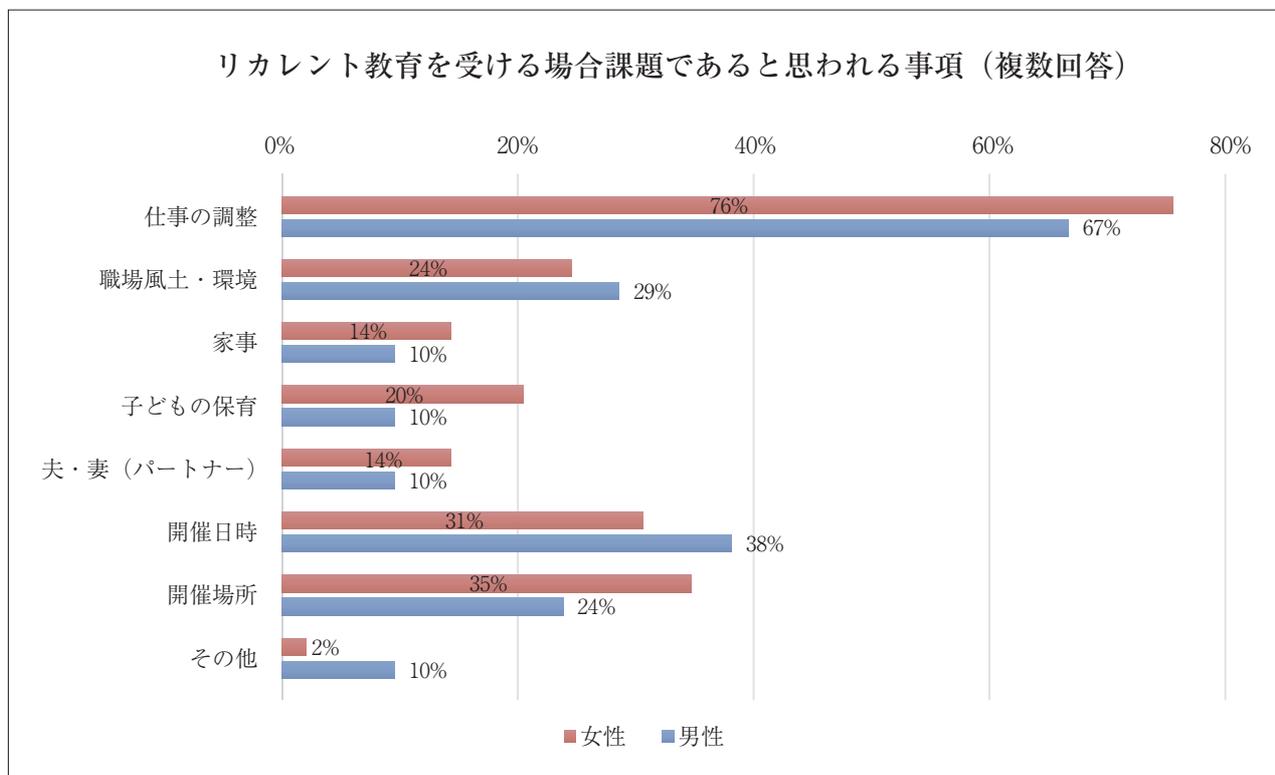
女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

アンケート結果



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

アンケート結果（課題であると認識している要因）



アンケート結果（ご意見・ご感想について）

【女性】

- ・リカレント教育というか、研究留学がしたいです。女性が女性の働く環境を変えようとしているのが強く伝わってきました。今、男性がどのように感じてうるのか、特に今すでに役職についている男性が「男女共同参画について」どう考えているのかをもっと知りたいです。
- ・リカレント教育を受けた先を想像してもらうことが重要という点が心に残った。
- ・まだまだ子育てしながら仕事を続けるのは日本では不利だと思います。米国留学時は周りの女性はもっと自由に仕事をしており、男性もそれを認めていました。日本は遅れていると感じます。ただ一番の問題は、男性も日本では忙し過ぎると思います。これでは女性のことを考えることができないと感じます。

【男性】

- ・生涯学習におけるリカレント教育についても言及してほしかった。100才という年代を仕事の上でどのように理解するのか課題でもある。
- ・私は夫婦共働きで、妻の帰りが遅いため、基本的な家事は全て担当しています。しかし心のどこかで「家事は女性がすべき」と思っていました。今回の講演を聞いて、私が普段家事をしていることは特別なことではなく、妻が当たり前のようにしてくれる掃除等にもっと感謝していくべきだと感じました。
- ・女性が活躍できる職場をいかにつくるか、課題をあらい出し、検討したいと考えさせられました。ありがとうございます。

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

女性研究者座談会

「女性研究者の学びとキャリア形成・発展支援の現状と課題の改善に向けて」

開催日時 平成30年2月2日(金) 17:40～18:40

会場 グランドエクシブ鳴門ザ・ロジ

参加者数 23名

組織のダイバーシティが注目されているが、組織で働く研究者のバックグラウンドや仕事の進め方も多様である。学びとキャリア形成の現状と課題について、このグループでは多様な研究の方法を配慮した時間マネジメントについて意見が寄せられた。近年の研究者は診療・教育・研究・事業運営等の多様な業務をしている。そのなかで共通の業務である教授会や委員会などの会議においても、様々な形態で業務を行っている研究者がいることを想定する必要がある、例えば、会議の時間を重要度に分けて審議事項は前半のコアタイムに行う、終わりの時間を宣言する、チャットなどのツールを柔軟に使う、等の工夫がなされるべきであるなどの意見が出た。

高知大学 地域協働教育学部門・開発と幸福、実験社会科学
准教授 廣瀬 淳一



グループ内の女性医師による、産休育休の先生方の負担を負わなければならないが、「助け合いましょう」という雰囲気の中、負担が過重気味となってもそれを言い出しづらいという発言から始まった。これについて、その分の人員増ができなくなっているという問題点が指摘されるとともに、他にも、全体に雑務が増えてキャリア形成にかかわるといった現状も報告された。これに対し、全体が本当にスムーズにいくように考えなければならないという意見が出された上で、仕事の内容にもより、ケースバイケースであるということから、具体的な場面における対処方法についての質問及び、それへの対応策などについて多様な意見交換を行うことができた。

香川大学 男女共同参画推進室 特命講師・コーディネーター 村上 弥生

本グループでは、大きく2つのテーマについて議論を行った。まず一つは、化学系女性研究者の妊娠中の実験についてである。ある化学系女性研究者は妊娠中にどの薬品や実験を行っていいかの判断が分からなかったという。これについて、研究室や大学レベルではなく国レベルとしてマニュアルを作る必要があると考えた。もう一つのテーマは、女性研究者の上位職への起用など女性研究者の活躍の場を広げる動向がある。しかし、実際の女性研究者の数はまだ少ないため、まだまだ現場で働きたいと思っている女性研究者が管理職などで働く状況になっている。これらの状況を改善するためには、現状をまず発信していく必要があるという結論にいたった。

徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 准教授 上手 洋子



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

女性研究者研究交流発表会

開催日時 平成30年2月3日(土) 9:00～12:00
 会場 グランドエクシブ鳴門ザ・ロッジ
 参加者数 32名 一時預り保育 お子様1名利用



他大学や異分野間研究交流発表等を行い、社会貢献や研究力向上、リーダー人材育成を目的に、女性の視点を活かした「女性研究者リーダー共同研究プロジェクト」の立ち上げを目指す。

また、個々のキャリアについて、自己紹介をすることにより、多くの身近なロールモデルを得て、自らのキャリア形成や研究生活におけるモチベーションアップへと繋がるのが期待できる。



文部科学省平成29年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」
 女性の学び支援のための研究協議会の開催

**四国地域連携による
女性の学び支援のための
研究協議会プロジェクト**

Tokushima University
 Nanzan University of Education
 Kagawa University
 Ehime University
 Kochi University

四国5国立大学女性研究者座談会
 2018年2月2日(金) 17:40-18:40

四国5国立大学女性研究者研究交流発表会
 2018年2月3日(土) 9:00-12:10

グランドエクシブ鳴門ザ・ロッジ
 鳴門市北灘町が野字大100番102

主催：徳島大学
 協力：四国連携男女共同参画推進プロジェクト委員会
 鳴門教育大学、高知大学、愛媛大学、岡山大学
 徳島県女性活躍推進女性参画・人材課
 徳島県立男女共同参画定置センター
 徳島県立工業技術センター、大塚産業株式会社
 協賛：徳島県・徳島市・男女共同参画学協会連絡会

●お問い合わせ
 この取り組みが実施される会場を共に、本事業が実施期間中のみ、アシスト講師への協力者が限られます。
 お申込みが、お申し込み締め切りを過ぎた場合は、受付にてご案内いたします。

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

ロールモデル講演会

「女性研究者の仕事と生活の両立～体験とその工夫～」

座長：香川大学
法学部 教授
男女共同参画推進室長
柴田 潤子 氏



パネリスト
徳島大学病院泌尿器科
講師 山本 恭代 氏
香川大学工学部 電子・情報工学科
講師 松下 春奈 氏
愛媛大学大学院農学研究科 生命機能学専攻
助教 米山 香織 氏
高知大学人文社会科学部人文社会科学科
准教授 関 良子 氏

子育て中の女性研究者から、仕事と生活（育児）の両立について、家庭内でのルールや気持ちの持ち方について紹介していただいた。

「両立するためには、夫婦で同じだけの能力を持つことが必要である。」と、言う意見やPTA活動についての質問には、「PTA活動はマニュアル化されている物が多いので、先生とメール等でやりとりして乗り切った。」と言う経験談もあった。

学会での一時預り保育の必要性については、「保育環境を整える事は、女性の研究者が声を上げる事で可能になる」と、先輩研究者としての発言もあり、「背中を押していただけた気がする」等のやりとりが見られた。

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

女性研究者研究交流発表会

総合司会：
徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授
AWAサポートセンター啓発・広報部門
上手 洋子

共同研究プロジェクトプレゼンテーション



ニトロソニフェジピンによる脳卒中後神経症状改善効果の分子機序解明

研究代表者：徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬理学分野 講師 石澤 有紀
共同研究者：愛媛大学医学系研究科 薬物療法 神経内科 助教 安藤 莉奈



技術伝承と疲労軽減のための熟練者の周辺視目視検査モデルの構築

研究代表者：徳島大学大学院社会産業理工学研究部 知能工学分野 講師 伊藤 桃代
共同研究者：徳島大学大学院医歯薬学研究部 眼科学分野 講師 四宮 加容
共同研究者：香川大学工学部 知能機械システム工学科 教授 石井 明

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

女性研究者研究交流発表会

ショットガンプレゼンテーション1



司会：高知大学
地域協働教育学部門
開発と幸福、実験社会科学
准教授 廣瀬 淳一

徳島大学大学院医歯薬学研究部 医学系 産婦人科学分野 助教 阿部 彰子
徳島大学大学院社会産業理工学研究部 知能工学分野 講師 伊藤 桃代
徳島大学大学院社会産業理工学研究部 理工学域 電気電子系 准教授 上手 洋子
徳島大学創新教育センター 助教 金井 純子
徳島大学大学院医歯薬学研究部 顎機能咬合再建学分野 講師 細木 真紀
徳島大学病院 泌尿器科 講師 山本 恭代
鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 特別支援教育 准教授 高原 光恵
香川大学法学部 経済法 教授 柴田 潤子
香川大学医学部 看護学科 慢性期成人看護学 教授 清水 裕子

ショットガンプレゼンテーション2



司会：香川大学
男女共同参画推進室
特命講師・コーディネーター
村上 弥生

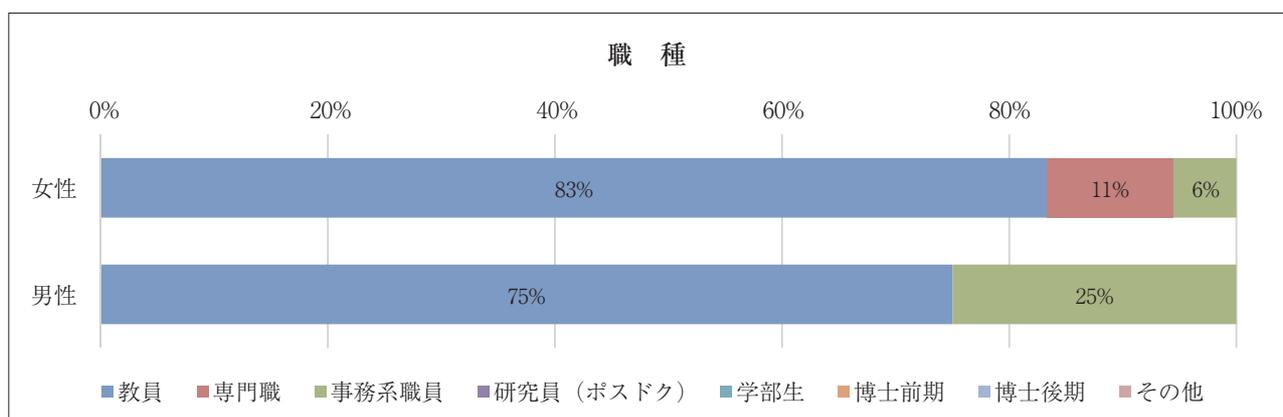
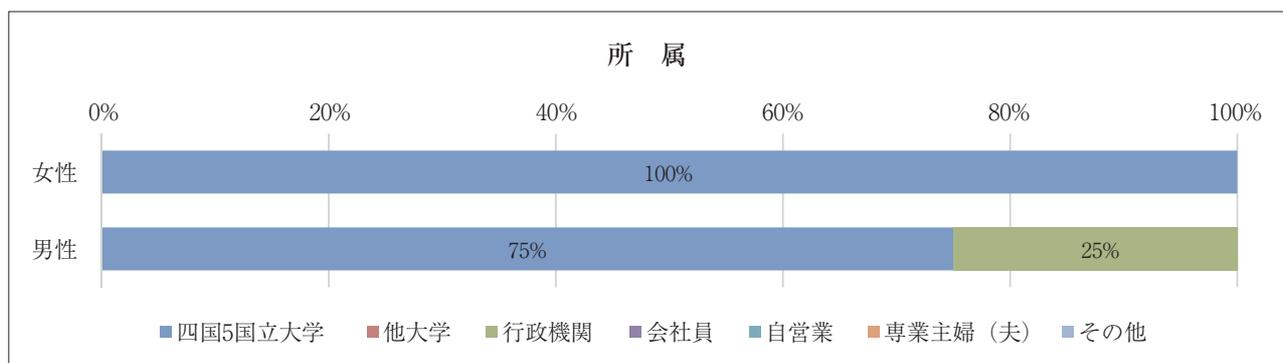
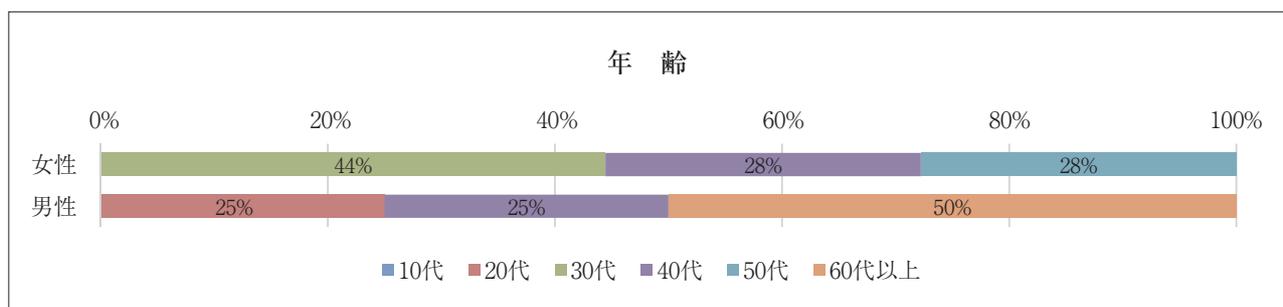
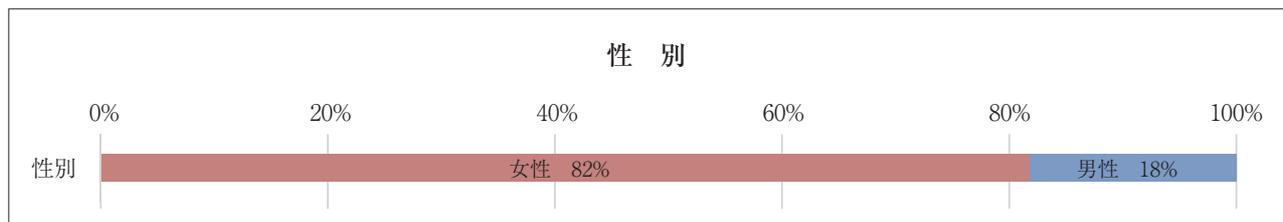
香川大学工学部 電子 情報工学科 講師 松下 春奈
香川大学男女共同参画推進室 特命講師 村上 弥生
愛媛大学農学研究科 生物有機化学研究室 助教 米山 香織
高知大学理工学部 化学生命理工学科 生命化学分野 助教 越智 里香
高知大学人文社会科学系人文社会科学部門 哲学 准教授 小島 優子
高知大学人文社会科学部 人文社会科学科 国際社会コース（英文学） 准教授 関 良子
高知大学人文社会科学部 国際社会コース 講師 土屋 京子
高知大学地域協働教育学部門 開発と幸福、実験社会科学 准教授 廣瀬 淳一

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

女性研究者研究交流発表会

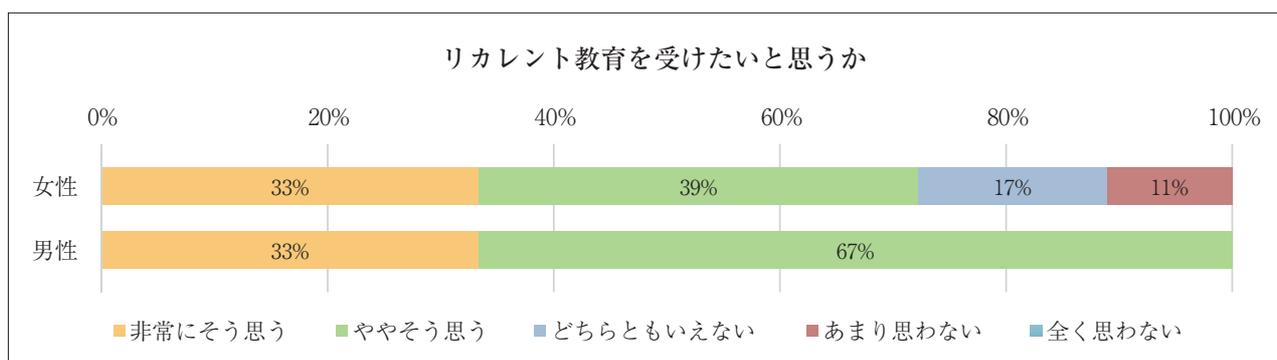
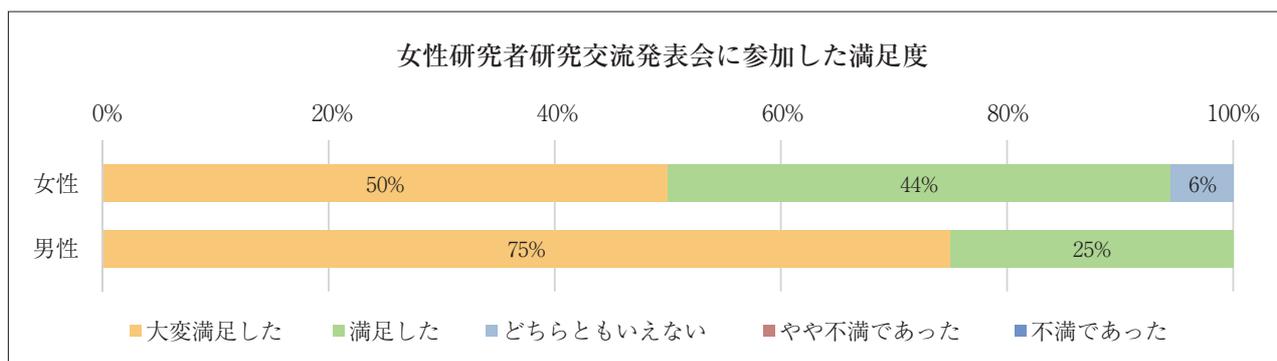
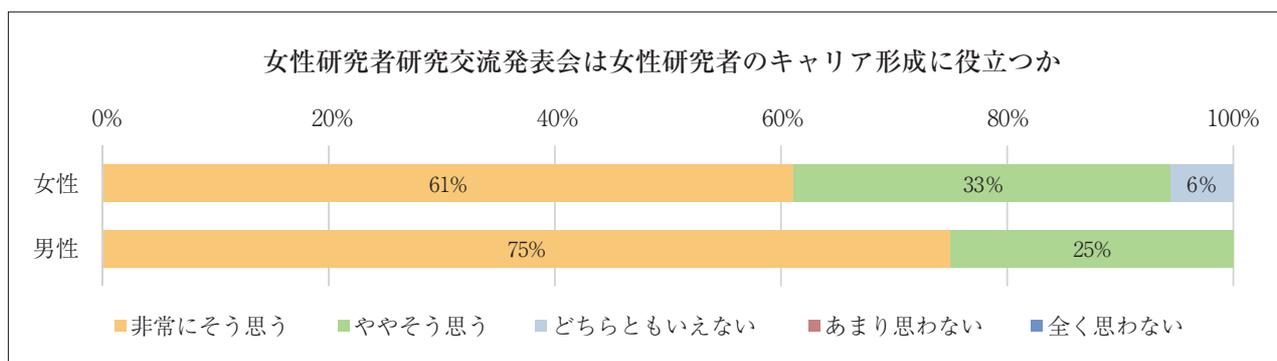
アンケート結果（ご自身の事について）

参加者数 32名
 回答率 女性：75%
 男性：50%



女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

女性研究者研究交流発表会 アンケート結果（評価について）



女性研究者のキャリア形成／発展の観点からのご意見

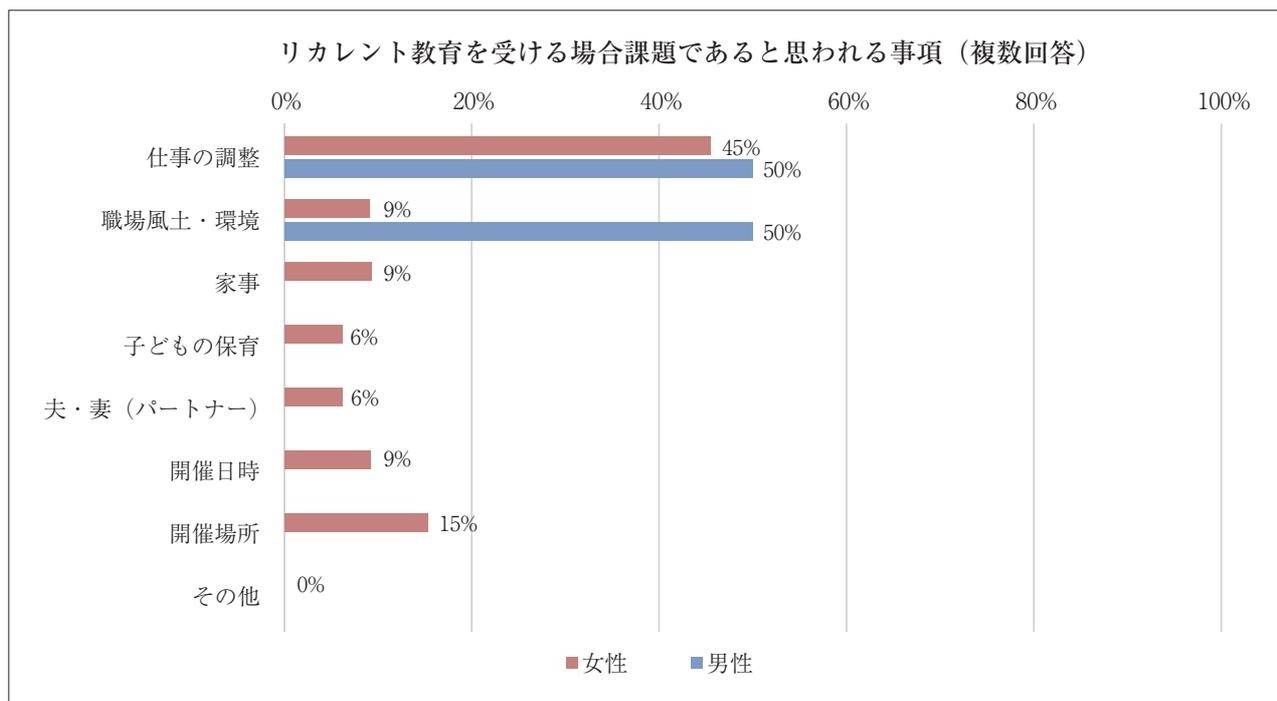
【女性】

- ・実体験を複数うかがえたことはためになりました。
- ・共同研究プロジェクトは女性研究者の研究発展に役立つので進めていきたい。
- ・各大学へのフィードバックが充分か気になった。クラウドファンディングへのつながりは素晴らしい。
- ・男性も参加して、みんなで考える必要があると思った。
- ・女性のみでなく、男女共に参加&キャリアアップしていけることが、しいては女性のキャリアアップにもつながると思います。

女性の学び支援のための研究協議会の開催 四国地域連携による女性の学び支援のための 研究協議会プロジェクト

女性研究者研究交流発表会

アンケート結果（課題であると認識している要因）



女性研究者研究交流発表会に参加してのご意見・ご感想等

【女性】

- ・このようなテーマの研究会なので、もっと託児所の利用者がいて、子供同士の交流もあればよいと思いました。
- ・他分野の研究をお聞きし、非常に楽しかったです。
- ・異分野に触れることはとても刺激的で大変面白かったです。
- ・参加者がもう少し増えてほしい。
- ・楽しい時間をすごせました。ロールモデルのパネルディスカッションがよかった。

【男性】

- ・多様な女性研究者の研究内容を聞かせていただき参考になりました。いかにこれからの研究を発信し、研究費の獲得などに役立てるようになることが重要かと思いました。

一時預り保育利用者の声

シッターさんに可愛がっていただき、徳島大学での託児では工作もさせていただいたようで、自分でシールを貼って作った手袋の切り絵を自慢げに持って帰ってきました。

シッターさんたちだけでなく、参加者の皆様にも、温かく娘を受け入れて下さり、大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

女性の学び支援のための研究協議会の開催



まとめ

本研究協議会は、『四国地域の活性化を促進する女性のリカレント教育 女性の限りない力で社会を変える！』と題して開催した。

特別講演は、「男女共同参画」に対する意識・認識が様々であり、「男女共同参画」について共通理解を得る目的で『いまあらためて男女共同参画とは何か』というテーマを設定した。

続くパネルディスカッションでは、パネル講演により「リカレント教育の現状と課題」を踏まえて、女性がリカレント教育を活用して復職・再就職・キャリア発展に繋げるための、リカレント教育のあるべき姿を見据えて（社会が求める女性の活躍と養成すべき人材像の共通認識）、四国地域の特性を活かした連携・協同体制の構築についての方向性を示すことを目標に展開した。

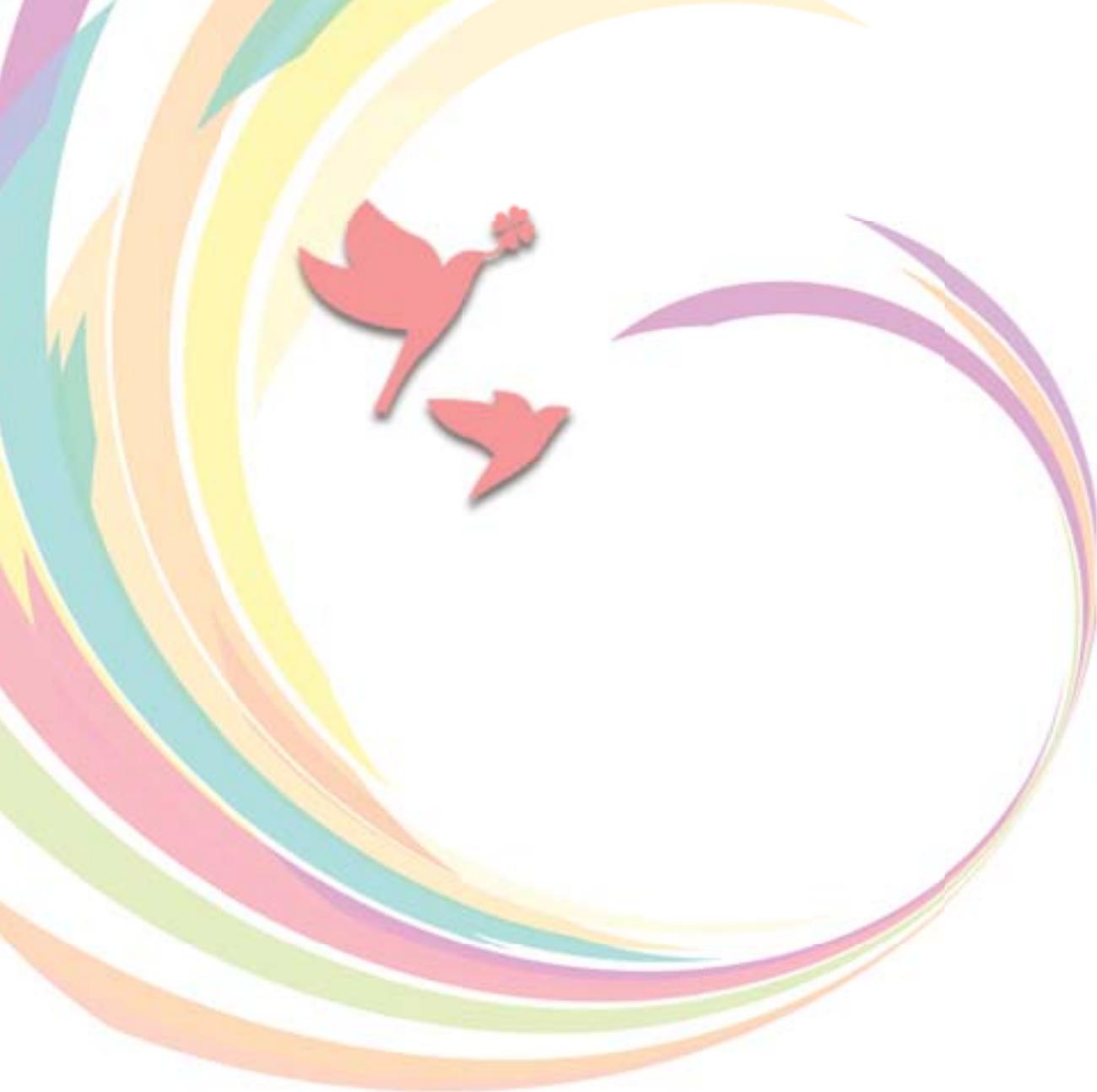
まず、大学、地域・行政、企業が行っているリカレント教育の現状を紹介いただき、具体的な展開等について確認しながら、大学と企業、地域・行政の役割と協同についてディスカッションを進めた。

リカレント教育では、その学びが社会参画に繋がることが重要であると思われる。学ぶ・教えるで終着するのではなく、そこからどこに繋がっていくのかをワンストップで情報が得られる仕組みが必要であること。そのためには、住民に身近な行政に情報を集約し、リカレント教育の場と企業等が求める人材・活躍の場を具体的に提示できる協同システムの構築が望まれる。山口大学など既に、学びから社会参画につながる仕組みを構築している所もいくつかみられる。全国に先行して人口減少や高齢化が進んでいる四国において、女性の限りない力を引き出すためのリカレント教育は、地域創生の鍵になるとと思われる。ここでは、『いつでも、どこでも、誰でも学べる場』としての生涯教育と共に、変化し続ける社会に適応するためのリカレントや、キャリア中断からの復職に向けてのリカレントなど多種多様なカリキュラムが求められている。

現在、四国地区で展開されているリカレント教育の実態調査、リカレント教育と生涯教育の効果的・効率的な運用の検討、前述のワンストップ情報協同システムと、検討・課題が抽出された。

地域創生の鍵となる女性の力を掘り起こし、その能力を最大限に発揮するためのリカレント教育から社会参画に繋がる環境の整備に取り組むことで、社会の発展と成長に大きく寄与するものと考えている。四国地区全体で取り組んで行く方策を検討していきたい。





国立大学法人徳島大学 AWA サポートセンター

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町 3-18-15
TEL 088-633-7538 FAX 088-633-7572
E-mail awa@tokushima-u.ac.jp
URL <http://www.awasapo.tokushima-u.ac.jp>